

第1回 AOBADORI AREA FORUM

青葉通エリア フォーラム

2026年2月3日

ご報告

青葉通エリアの価値向上に向けた検討状況
～コンセプトのとりまとめに向けて～

仙台市／青葉通まちづくり協議会

戦後　青葉通の誕生



◆整備

1946年　　戦災復興計画の策定

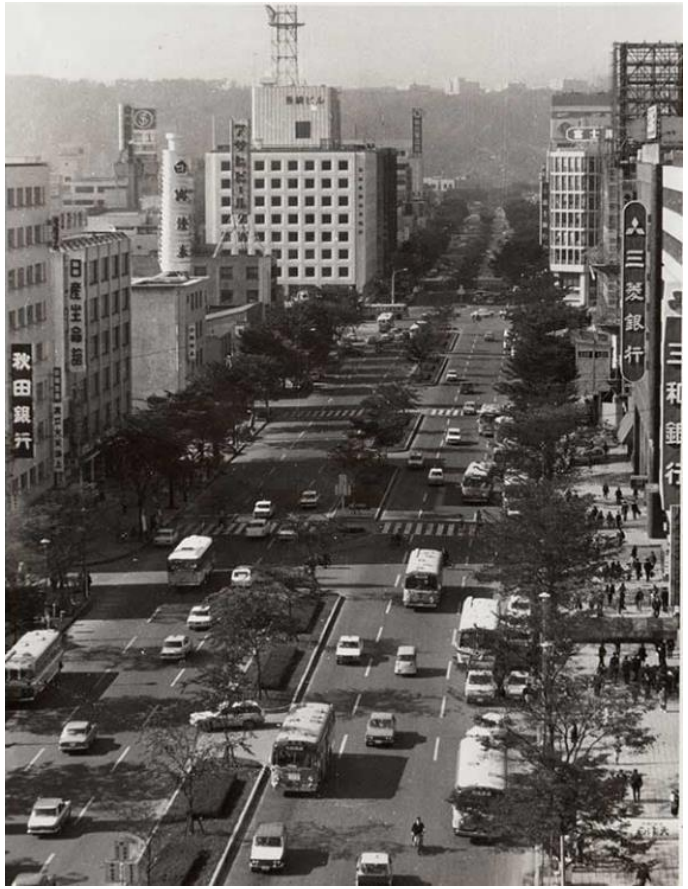
1950年～1965年　ケヤキの植栽

◆命名

1947年　　河北新報社の市民公募にて決定

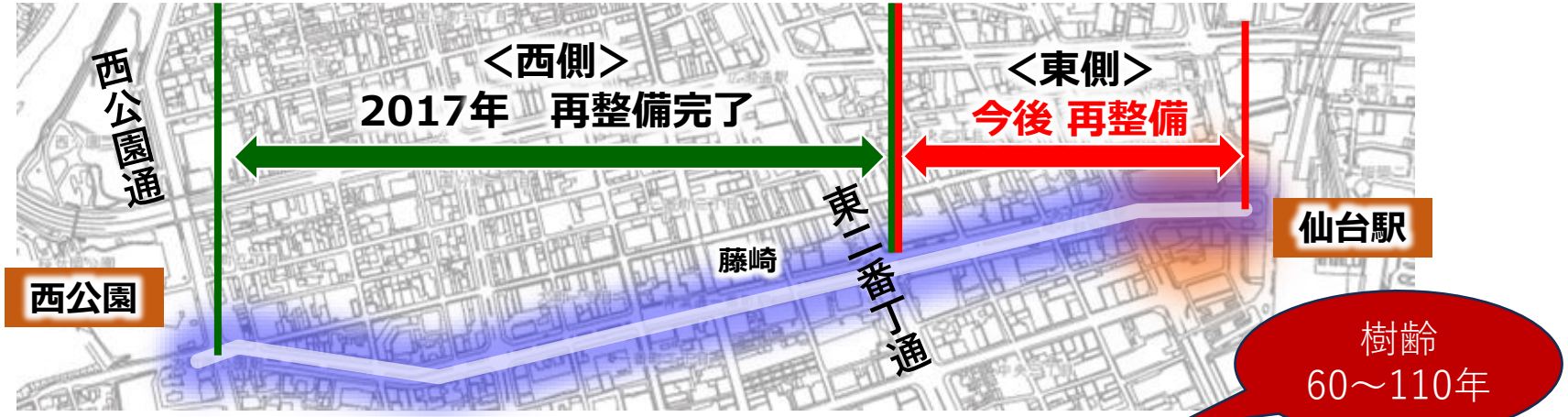


仙台駅上空から



資料提供：仙台市戦災復興記念館

青葉通西側(東二番丁通～西公園通区間)の再整備（2017年完了）



植栽ますが小さいなど、ケヤキの生育環境の改善が必要

生育環境改善、賑わい空間の確保などを目的として再整備

整備前



再整備後



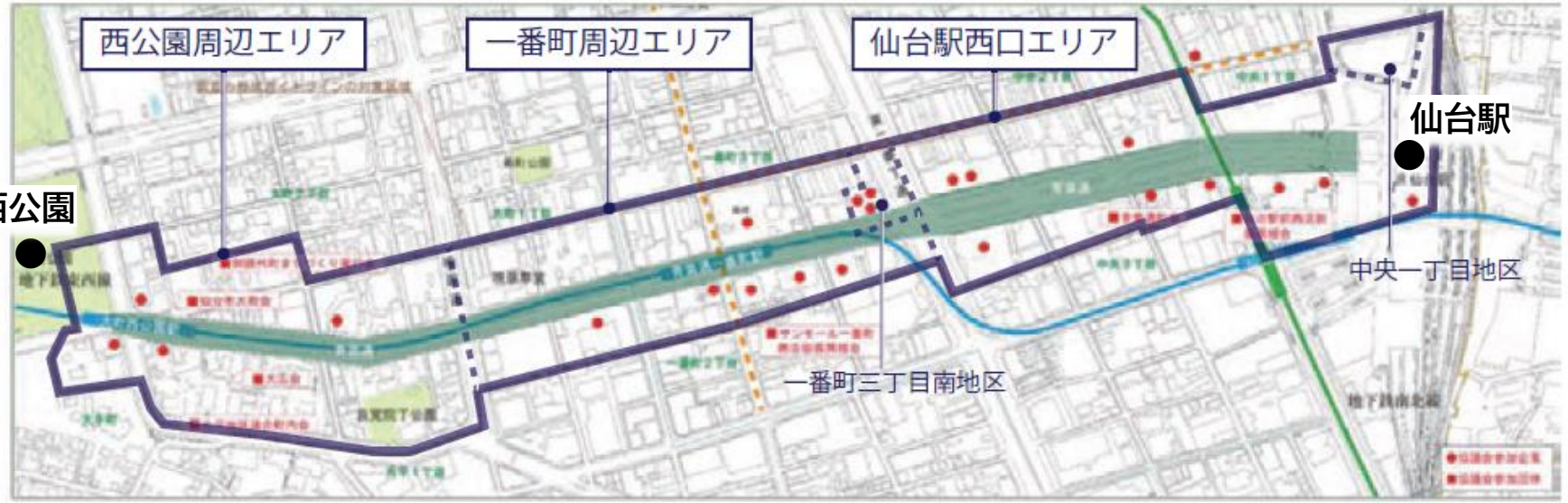
2012年　青葉通まちづくり協議会

◆目的

青葉通に関する地域の組織化を図り、会員の進歩的向上と“青葉通のまちづくり”を進める。

【構成会員：周辺商店会、町会、企業、個人等（51社　令和8年1月現在）】

◆協議会の活動エリア

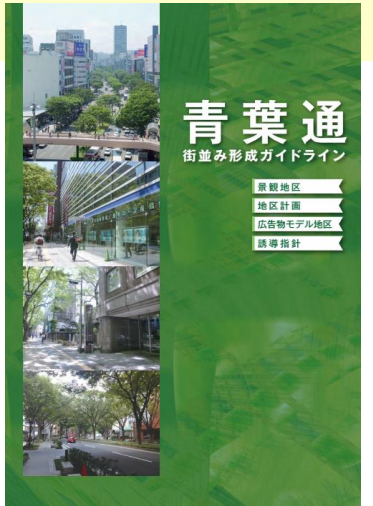


◆主な取組み

- 青葉通を中心とした仙台市中心部の良好な景観形成や賑わい創出等のための活動

- 公共空間を活用したイベントの中間支援

- 魅力ある景観形成に向けた検討を実施し、協議会の案を仙台市に提言
  ⇒2015年　市が「青葉通街並み形成ガイドライン」を策定



2018年　青葉通まちづくりビジョン

◆将来像

人と人、人とコトをつむぎ、
さらなる魅力と新たな価値が生まれる「青葉通」
～東北の経済の中心として、次世代を牽引する～

◆目標

・居住者、就業者、来街者の活発な交流の創出
・多様な人々を惹きつける様々な用途・機能の導入
・魅力的な空間づくりによる質の高いライフスタイルの実現



◆将来像及び目標の実現に向けた5つのポイント

・ケヤキの高さまでの用途や空間づくりにこだわる
・回遊性向上や多様な主体の交流促進のための交流拠点をつくる
・回遊性を高める歩行者ネットワークを構築する
・通り、路地を滞留空間、賑わい空間としてフォトジェニックに演出する
・まちとみどりを融合する

2019年～　青葉通まちづくり協議会の取組み

◆青葉通まちづくり協議会　公共空間利活用社会実験の概要（2019～2025年度）

○青葉通芝生ひろばプロジェクト（2019）

青葉通沿道の歩行空間に芝生を敷き、「座る場」づくりで人の滞留を促進できるのかを検証



○青葉通テラス（2020）

歩行空間に芝生広場やイス・テーブル等を設置し、来街者に自由に活用してもらい、歩道利用の可能性を検証



○AOBDORI MACHI to HATARAKU（2022）

ポップアップオフィス

歩行空間にオフィスを出現させ、新たな利活用を提案



キッチンカー広場

キッチンカーを中心に歩道空間に滞在空間を創出。仕事の息抜きを企画



○公共空間利活用コーディネイト（2023）

青葉通まちなかピアノ

公開空地や地下道にピアノを設置し、新たな利活用を検証



AOBA MARCHE

沿道沿いの歩道空間にマルシェを設置し、にぎわいや滞在空間を検証



○アオバル（2024・2025）

青葉通沿道の歩道空間にテント、イス、テーブルを設置し、来街者に自由に活用していただき、にぎわい創出を検証。また、歩行者や自転車をカメラによるデジタル交通量調査を併せて実施。歩行空間の安全性確保を検証。





2021年～青葉通仙台駅前エリアのあり方検討　開始

◆経緯

・沿道開発の検討の動き

・青葉通まちづくり協議会から

「青葉通まちづくりビジョン」の提言



エリアのあり方検討を目的に、

将来ビジョンの作成を目指し、

「青葉通駅前エリアのあり方検討協議会」を設立

【主なメンバー】
商工関係者、沿道地権者、まちづくり協議会、学識経験者、
鉄道・バス・タクシー・トラックの会社・団体
仙台市、警察



2022年　社会実験（MOVE MOVE）を実施

◆ 目的

下記検証を行うため

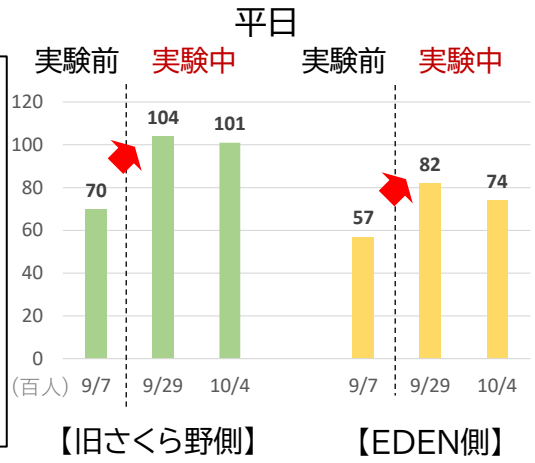
① 道路空間の利活用の効果
② 都心における回遊の創出
③ 交通への影響

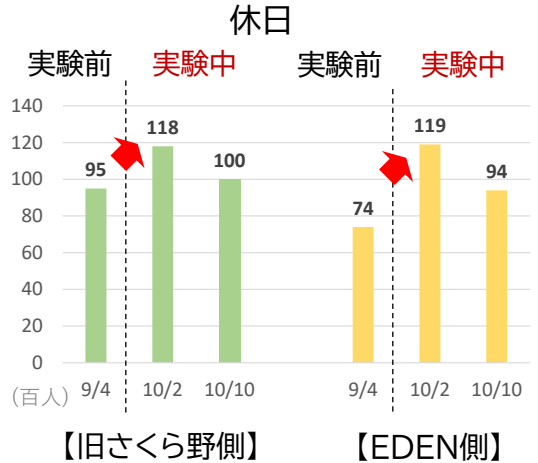
◆ 結果

① ・歩行者交通量　約**4割**　増加
　　・回遊の起点となるポテンシャルを確認
②全体の**7割**、市外来訪者は**8割**が評価
③沿道飲食店舗の売上げ増加
④広瀬通と仙台駅近傍にて混雑

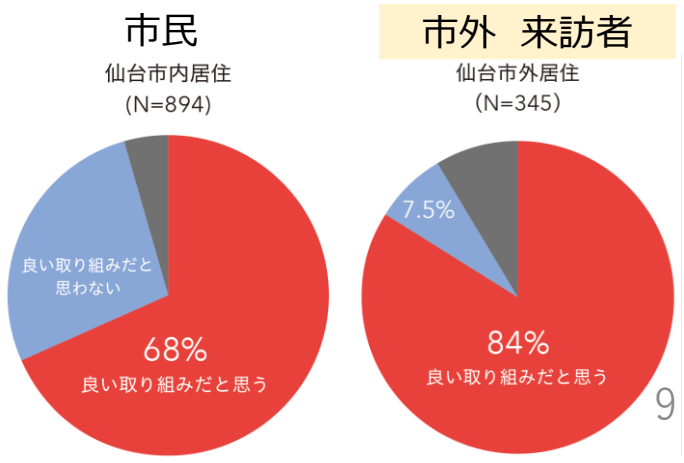


歩行者交通量の変化

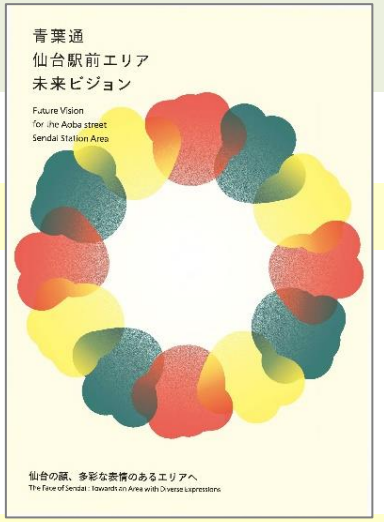




取組み評価



2025年　青葉通仙台駅前エリア　未来ビジョン策定



空間像でなく、このエリアの**目指すべき理念**をまとめたもの

◆このエリアの果たすべき役割

- 「ひと中心」のゆたかな表情を生み、仙台の印象を創り出す
- 訪れる人が他エリアへ回遊できる起点となる
- 様々な人が多元的価値をいかして挑戦できる場となる

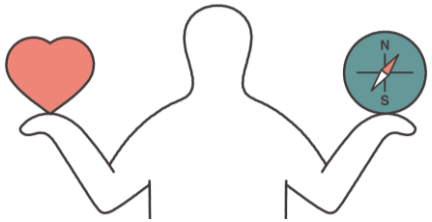
◆このエリアで大切にする2つのこと

グラデーション・ポジティブの心構え

多元的価値や変化に対して寛容さと柔軟さを持ち、いかしあうことで新たな価値を生み出せるよう前向きに挑戦しようとする心構え

ヒューマニティを大切にする考え方

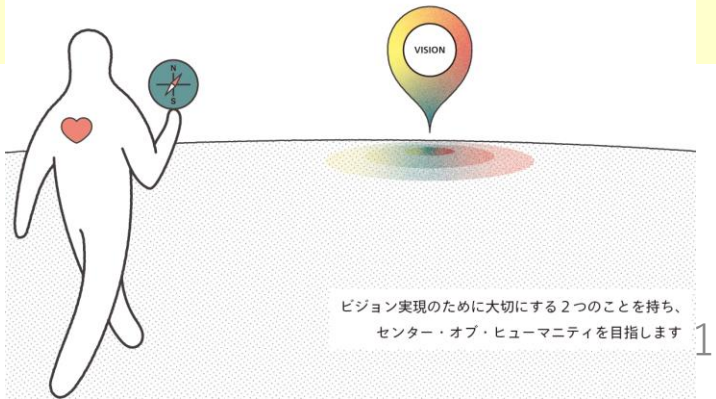
ひとの感情、人間性、ひととのつながり、すなわちヒューマニティを大切にするという考え方



◆ビジョン

センター・オブ・ヒューマニティ

あらゆるゆたかさが生まれ、
仙台への愛着の起点となる唯一無二の場所



2025年～「（仮称）青葉通エリア空間構想」の検討

【現状と課題】〇仙台駅前エリアは、沿道開発が停滞して魅力が減退するなど、危機的な状況
〇読売仙台ビルなど青葉通沿道の民間開発に動きがある
〇市は、青葉通の駅前通～東二番丁の道路空間再構成の検討を行っていく段階

→ ◆「仙台の顔」としての公民一体空間の考え方を公民で共有していくことが必要
◆青葉通全体を対象に、既存のビジョン等を更に具体化してとりくんでいくことが必要

【策定の目的】「シンボルロードである青葉通」や「仙台の顔である仙台駅前エリア」の形成に向け、

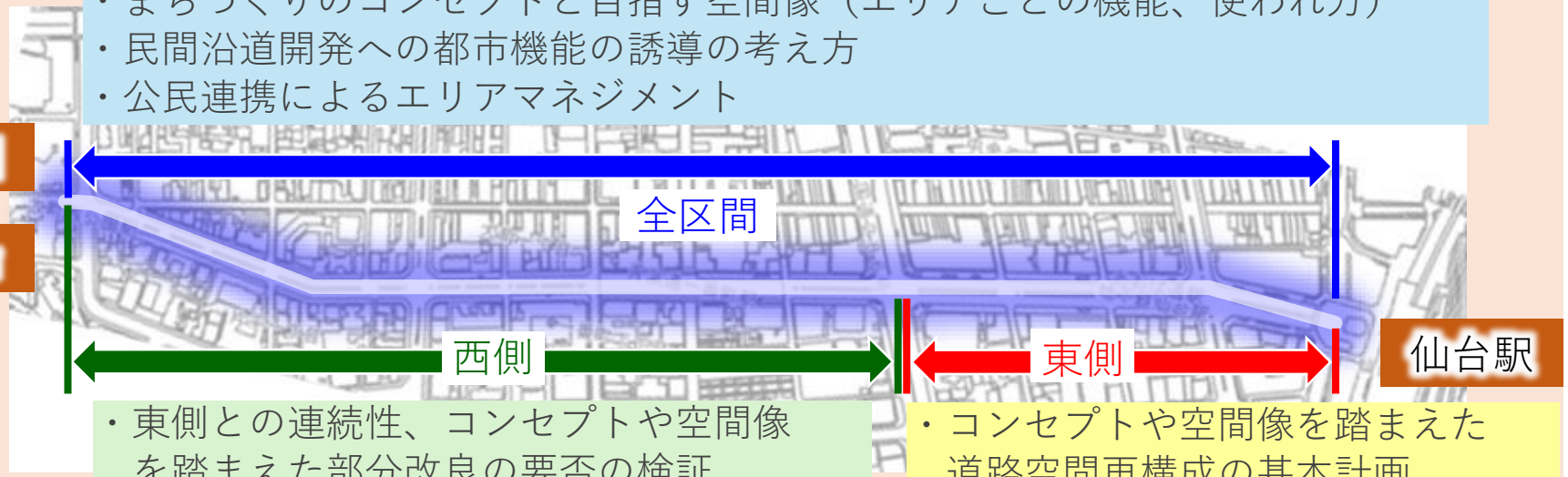
① 共通ビジョンによる公民連携のまちづくり

② 全体最適の考え方に基づく機能誘導による沿道開発の促進

③ 魅力的な道路空間の形成

【内容】

・まちづくりのコンセプトと目指す空間像（エリアごとの機能、使われ方）
・民間沿道開発への都市機能の誘導の考え方
・公民連携によるエリアマネジメント



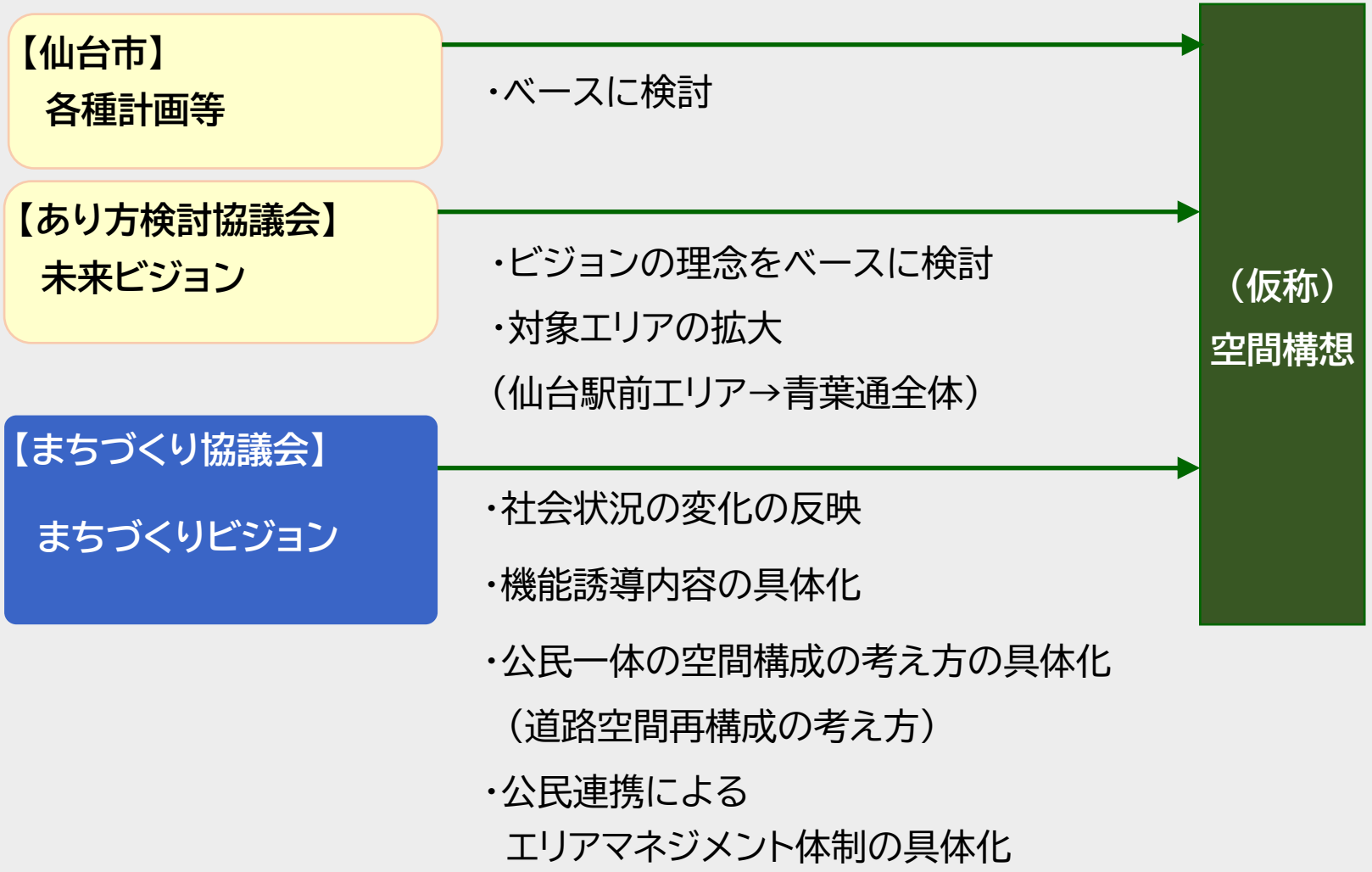
・東側との連続性、コンセプトや空間像を踏まえた部分改良の要否の検証

・コンセプトや空間像を踏まえた道路空間再構成の基本計画

策定体制等：青葉通まちづくり協議会と連名で策定（令和８年度末を予定）

2025年～「（仮称）青葉通エリア空間構想」の検討

【各ビジョンと空間構想の関係】



「（仮称）青葉通エリア空間構想」のスケジュールと成果イメージ

R７年度内				R８年度内			
９～11月	12～1月	2月	2～4月	4月	4～10月	11～1月	2～3月
検討		発信	検討	発信	検討・まとめ	発信	まとめ
・高めたい、つくりたい価値の議論 ・データに基づく青葉通の分析	・まちづくりのコンセプト	**市民向けフォーラム** 検討状況を発信 ・青葉通の分析 ・コンセプトの検討状況・過程　等	・目指す情景　↓　イラスト化	**市民向けフォーラム** 検討状況を発信 ・情景イラスト ・コンセプト案　等	・道路空間再構成の基本計画 ・沿道開発への都市機能誘導、沿道建物低層部の設え等 ・公民連携による　エリアマネジメント ※イラストやパースも用いて表現	**市民向けフォーラム** 空間構想の中間案を発信	パブリックコメント	とりまとめ、策定

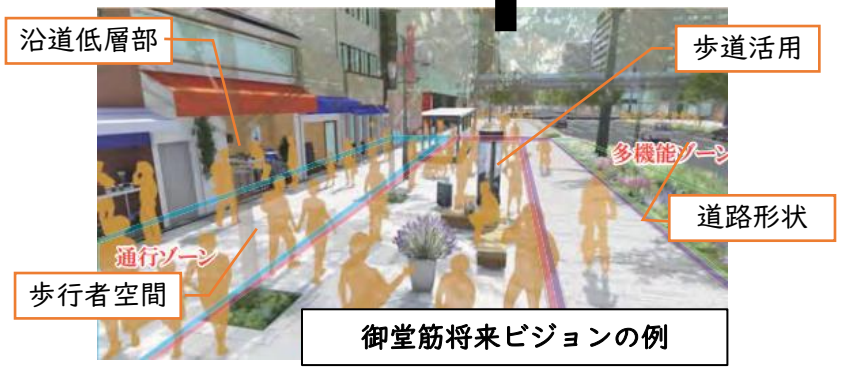
R７年度末の成果イメージ

渋谷での事例

「メディア」を軸に、NHKの周辺に多様な担い手が交流し、新たなコンテンツや事業が生まれ続けているエリア



R８年度末に示すパースイメージ



御堂筋将来ビジョンの例

3-2

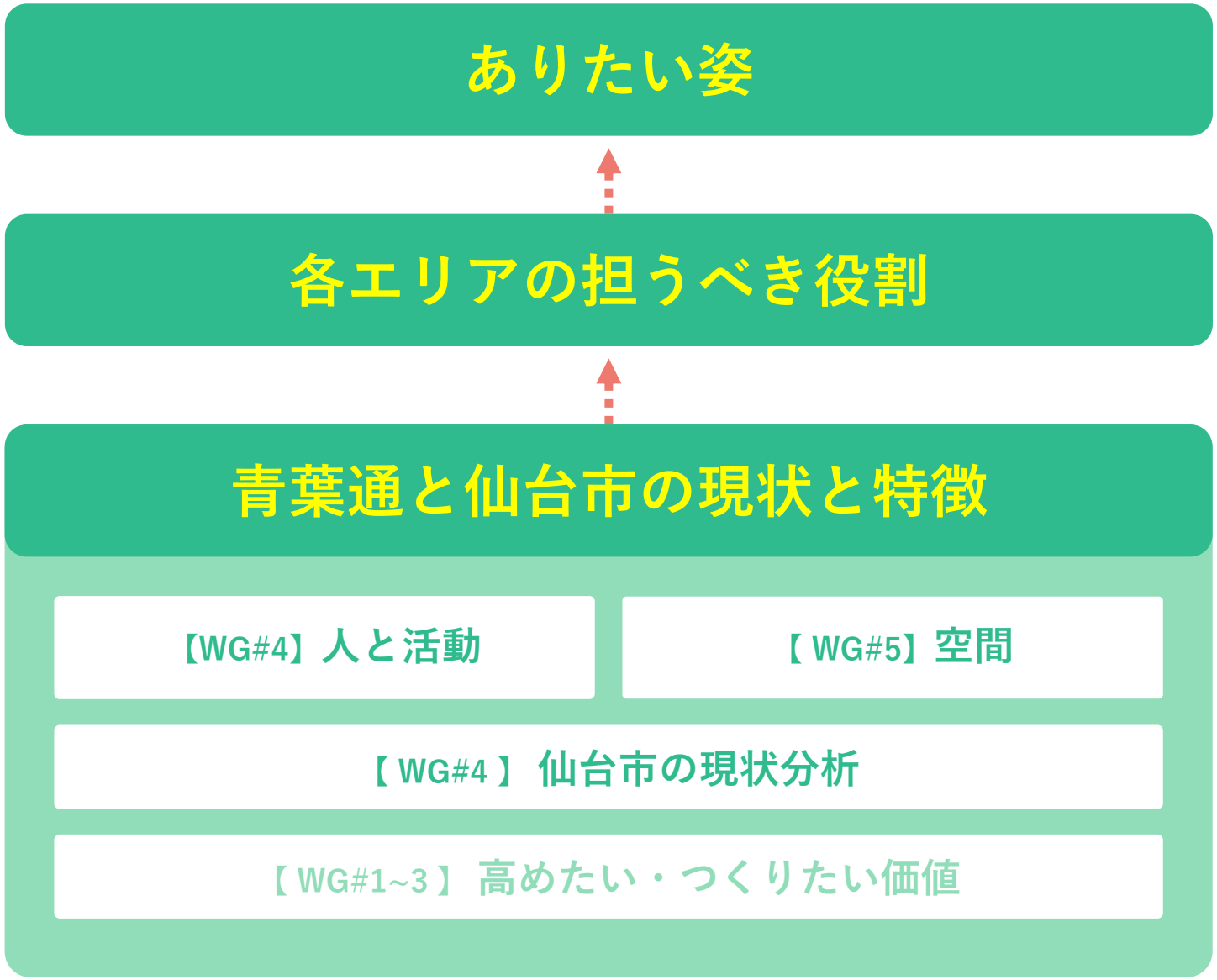
ご報告

青葉通エリアの価値向上に向けた検討状況
～コンセプトのとりまとめに向けて～

リージョンワークス合同会社

コンセプトのベースとなる考え方の論理構造

データを参照しながら
WGでの議論を重ねて、
各自の思いやアイデアを
論理的に組み立ててきました。

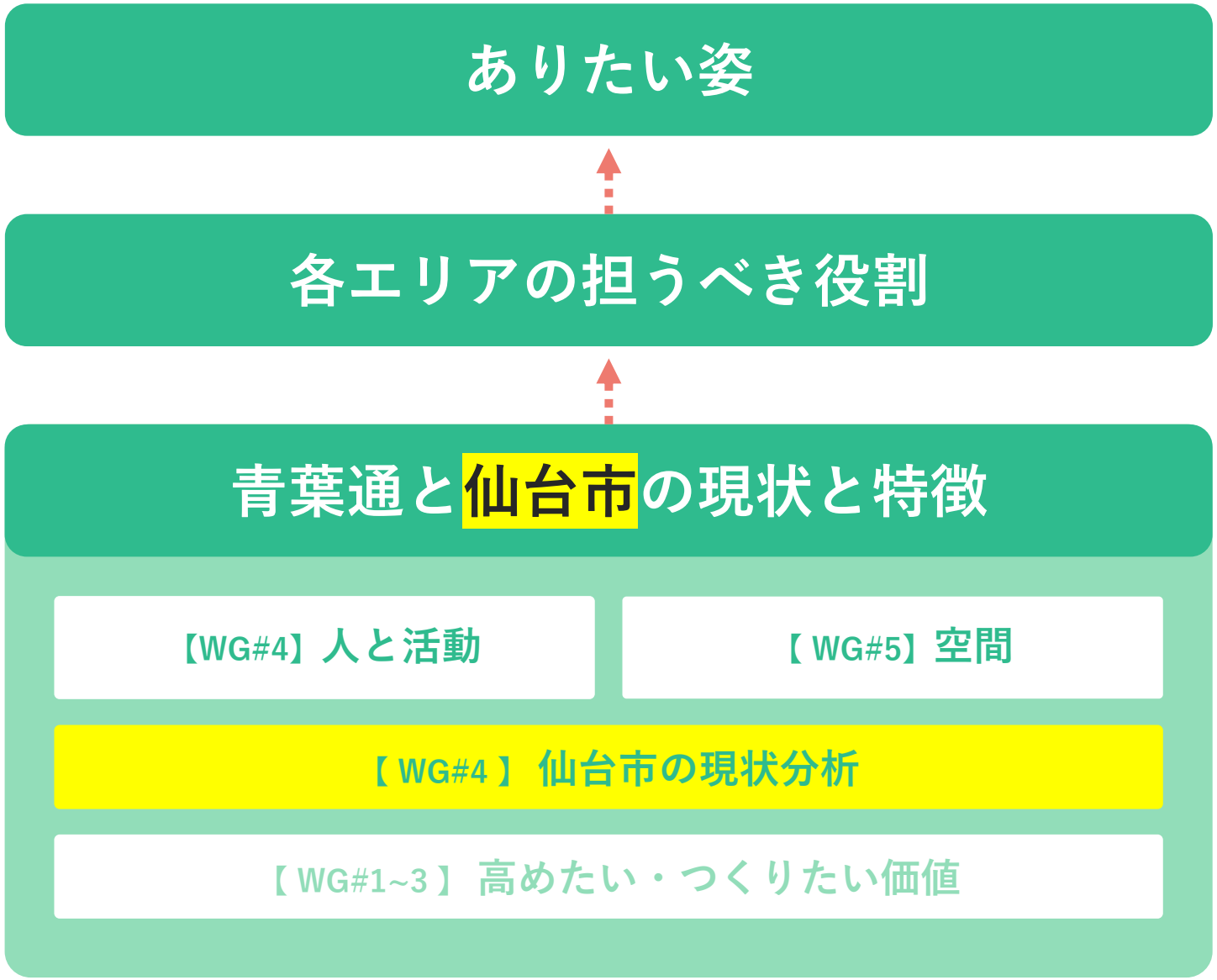


❶現状 と 特徴

❷歴史

❸コンセプトのベースとなる考え方

コンセプトのベースとなる考え方の論理構造

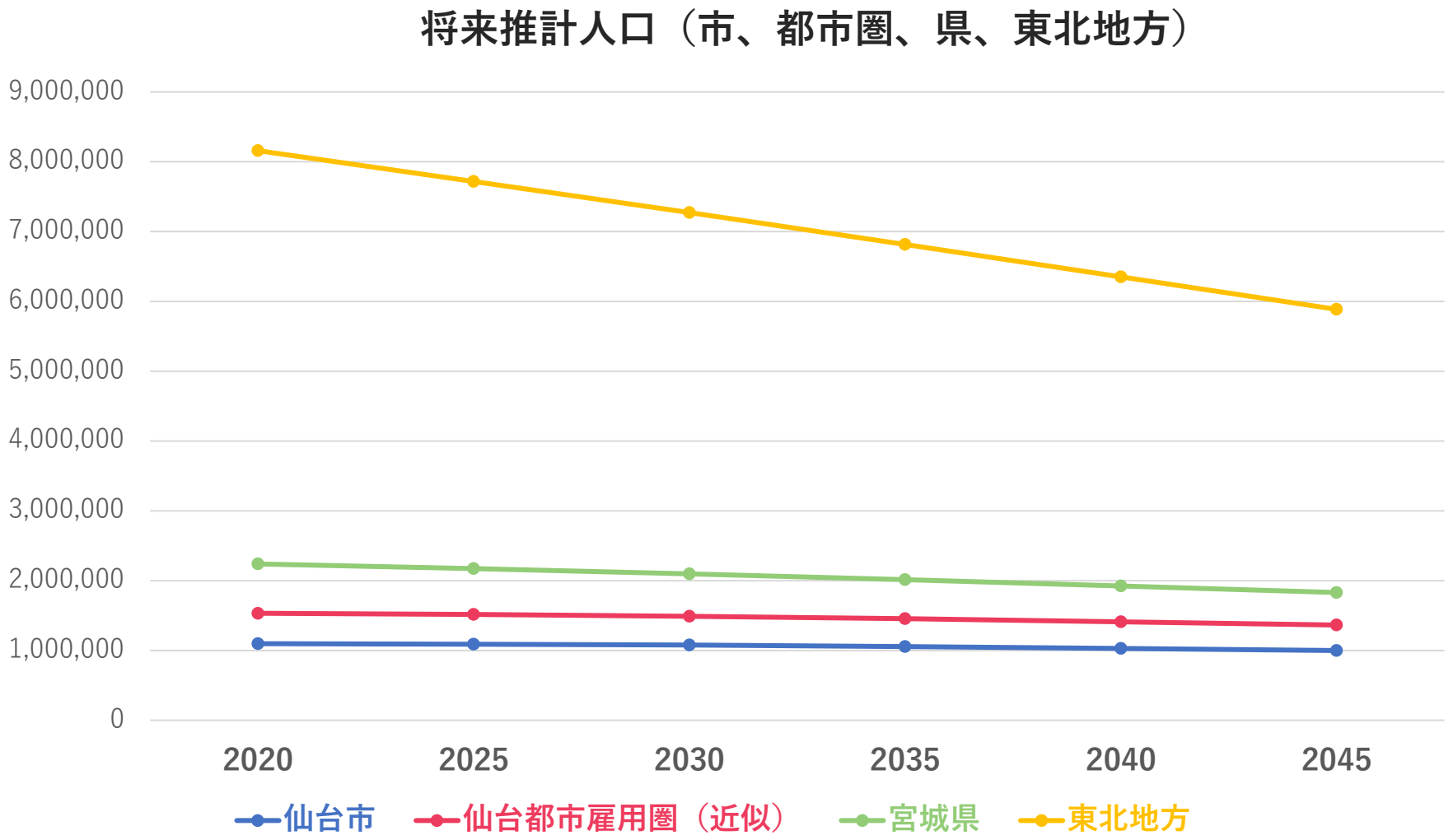


今後20年間で働き手は14%(10万人)減少
産業への影響は大きい



【出所】仙台市将来人口推計：https://www.city.sendai.jp/chosatoke/shise/toke/shoraijinko.html

東北全体の縮退
中枢機能そのものの縮小が見込まれる



仙台都市雇用圏

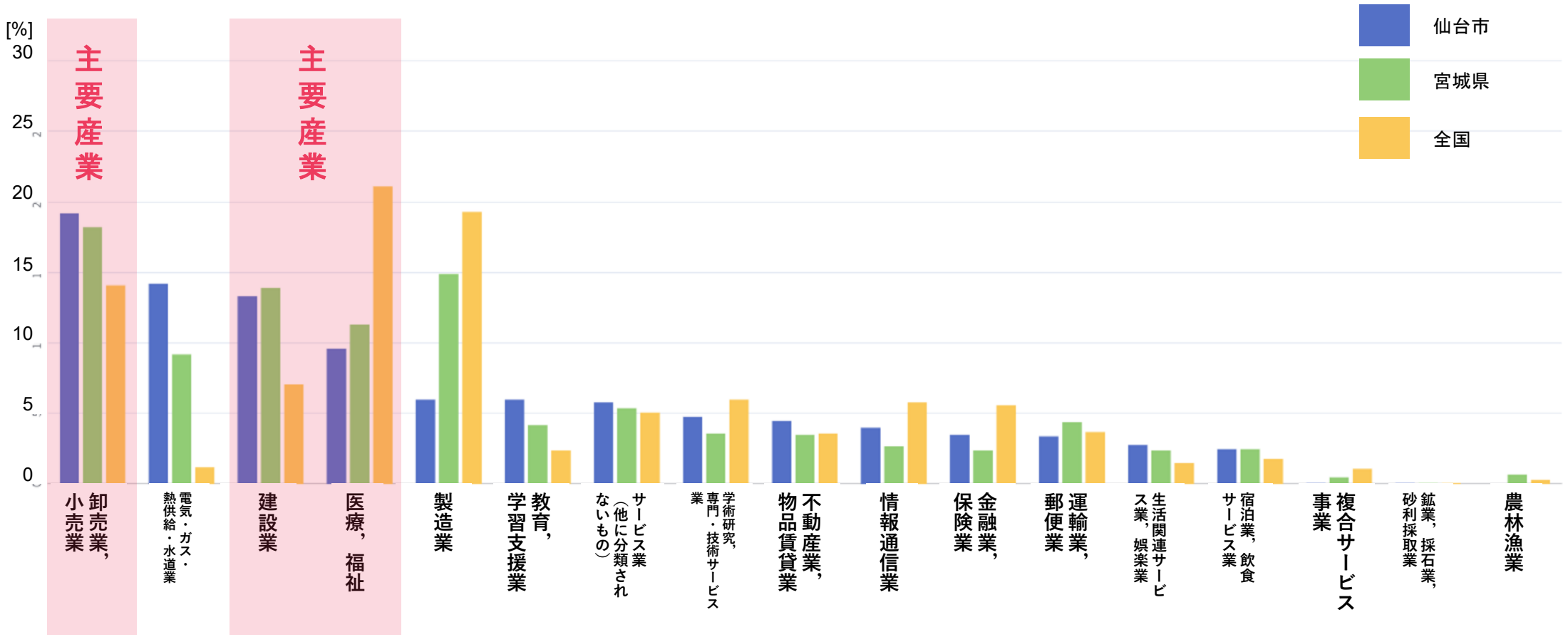
【中央部】仙台市

【東部】　塩竈市、多賀城市、松島町、七ヶ浜町、利府町

【南部】　名取市、岩沼市、亘理町、山元町

【北部】　富谷市、大和町、大郷町、大衡村

仙台市の主要産業は労働集約的で担い手不足に直面する

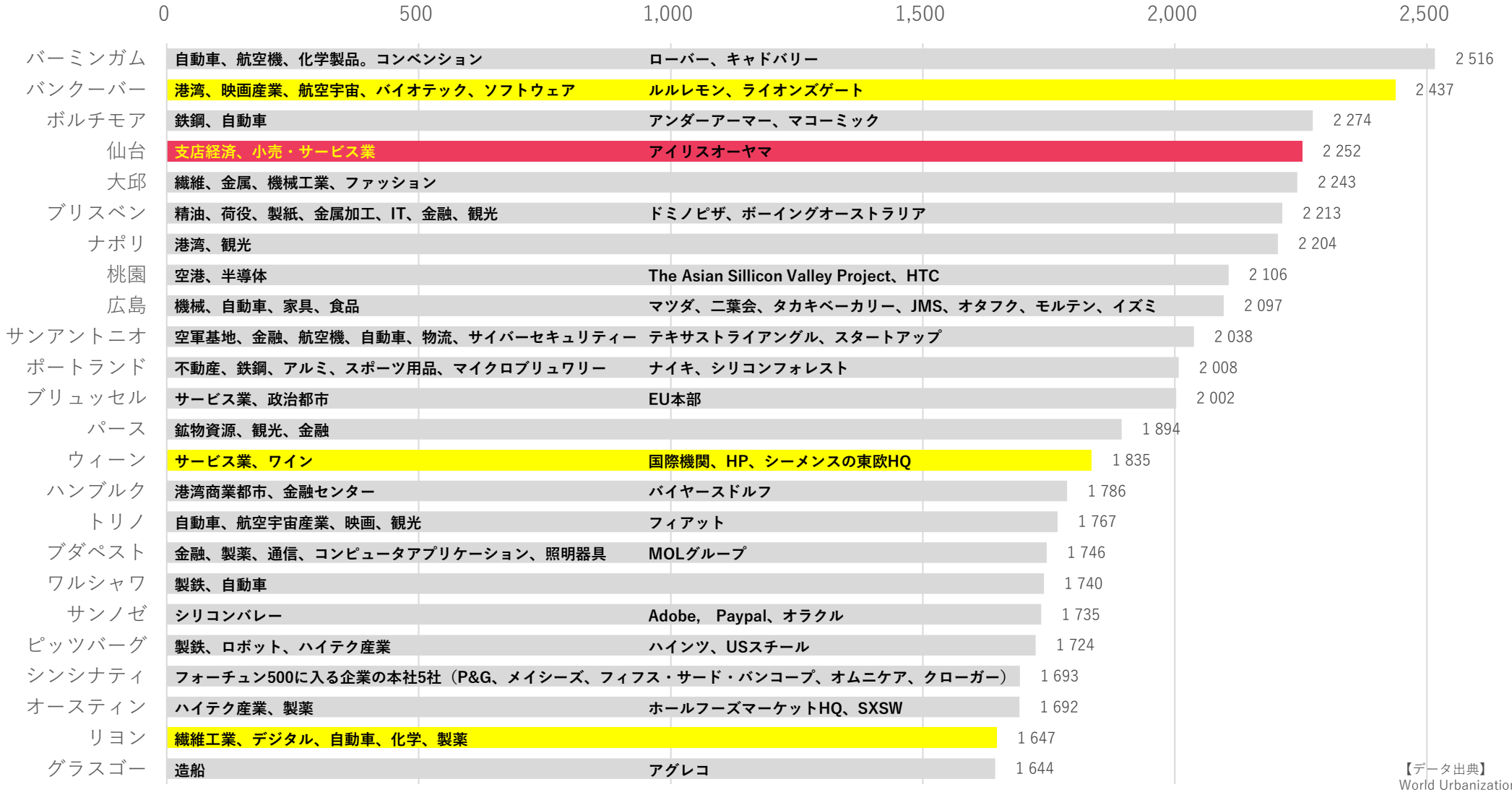


産業構成割合

2021年付加価値額

仙台市：　2,235,284百万円
宮城県：　3,547,705百万円
全国：　336,259,518百万円

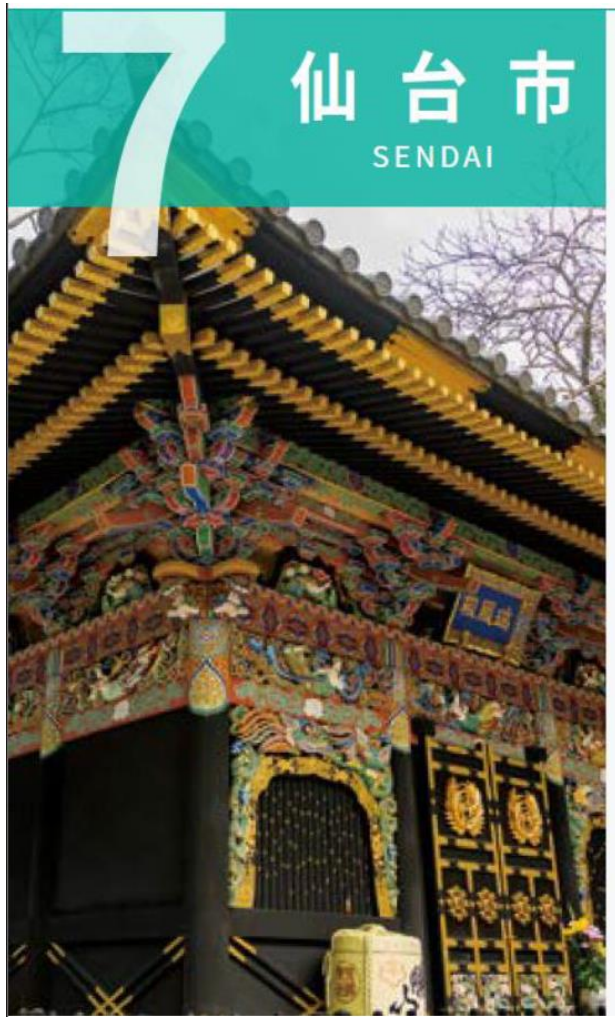
バンクーバー、ウィーン、リヨンなどと似た人口規模



仙台都市圏と同規模の主な都市圏の人口（2015）

【データ出典】
World Urbanization Prospects 2018 > Urban Agglomeration
File 12: Population of Urban Agglomerations with 300,000 Inhabitants or More in 2018, by country, 1950-2035 (thousands)
https://population.un.org/wup/Download/

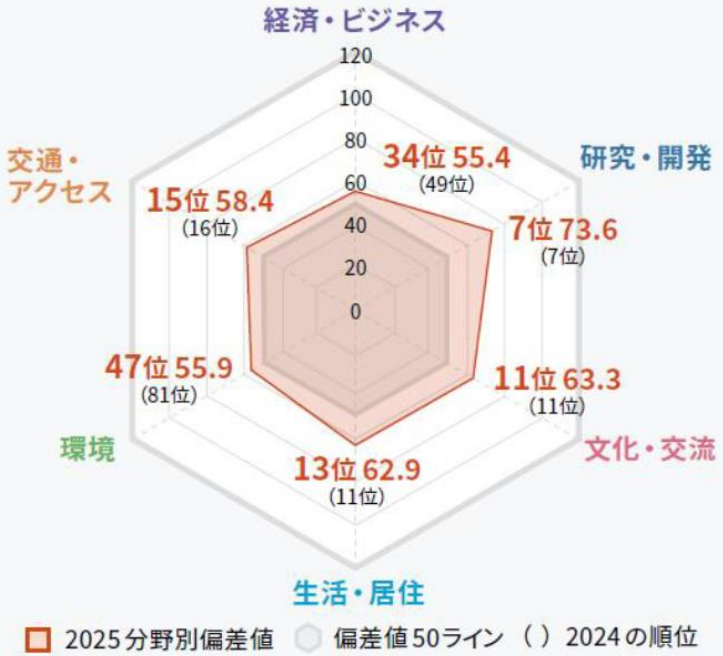
多様性への取り組み、文化・交流、景観まちづくりなどへの高評価



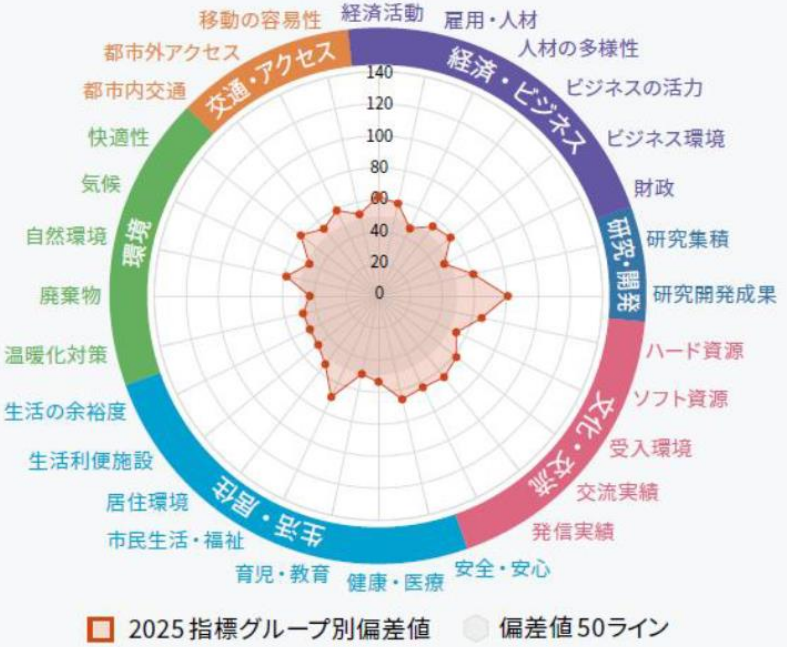
研究力と暮らしやすさで躍進を続ける東北の学術拠点都市

仙台市は合計スコアの順位を昨年の9位から7位に上げ、研究・開発と生活・居住を中心とした総合力の高さを示した。最大の強みである研究・開発では論文投稿数とグローバルニッチトップ企業数で4位を維持し、学術都市としての地位を確固たるものにしている。生活・居住では13位へわずかに後退したものの、「市民生活・福祉」で外国人住民の受入体制が2位を獲得するなど多様性への取り組みが評価された。文化・交流も11位を維持しており、景観まちづくりへの積極度で3位の高評価を得ている。

分野別の順位・偏差値

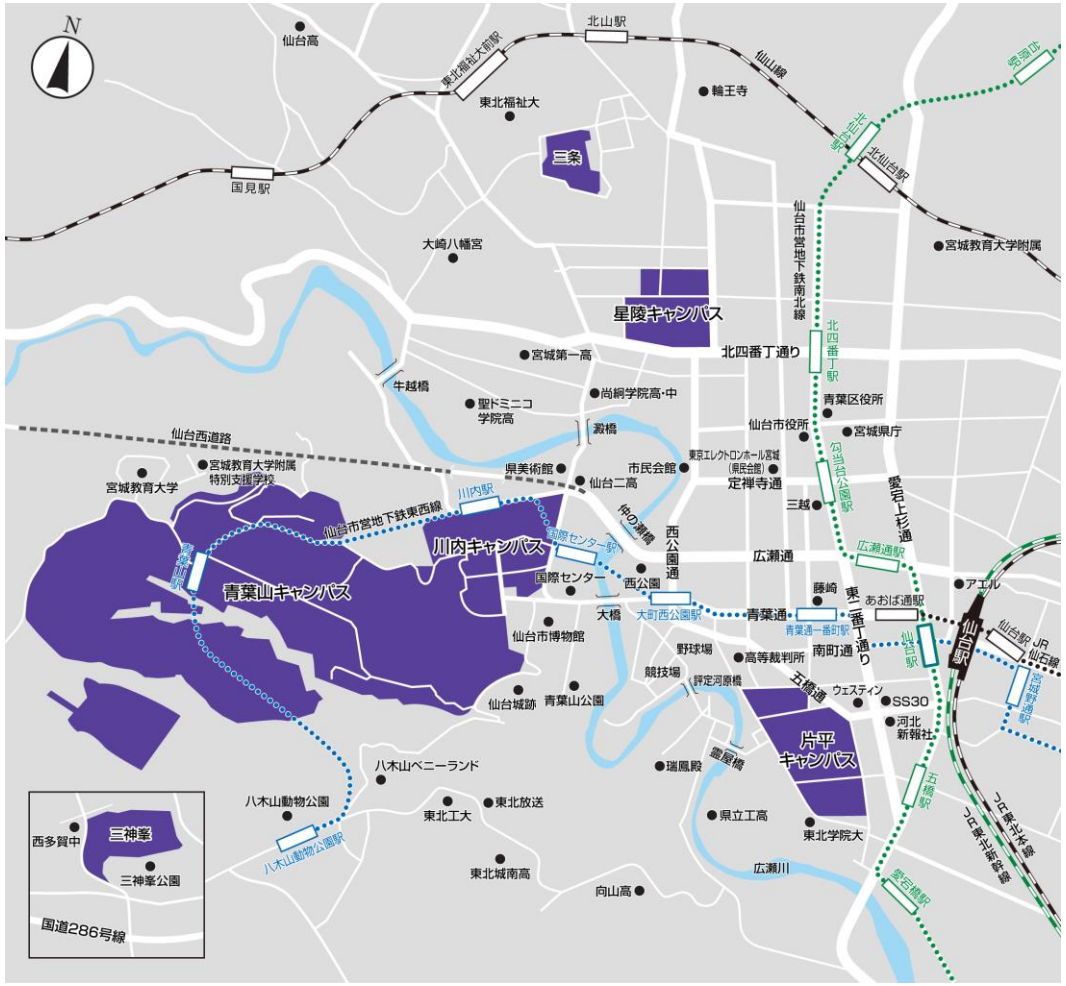


指標グループ別の偏差値



【出展】森記念財団都市戦略研究所 日本の都市特性評価 2025

世界的に評価の高い東北大学



UREX-TOHOKU

Japan's First University for International Research Excellence

TOHOKU UNIVERSITY

EN / JA

国際卓越研究大学 第一号の挑戦

東北大学は、2024年12月、日本初の「国際卓越研究大学」に認定・認可されました。「国際卓越研究大学」とは、世界トップレベルの研究を行い、その成果を社会や経済に還元できる大学を国が認定する新しい制度です。東北大学はこの第一号として、これまでに重ねてきた歴史と国からの支援を原動力に、大学改革を加速させ、卓越した研究、人材育成、そして社会との共創を通じて、未来を切り拓いていきます。

青葉通で仙台駅と直結する
青葉山・川内キャンパス、
近傍の片平・星稜キャンパス

原生的な自然に、すぐにアクセスできるコンパクトな都市構造



広瀬川・青葉山丘陵の原生的な地形・自然まで車で20～30分

リスクを抱えた産業構造

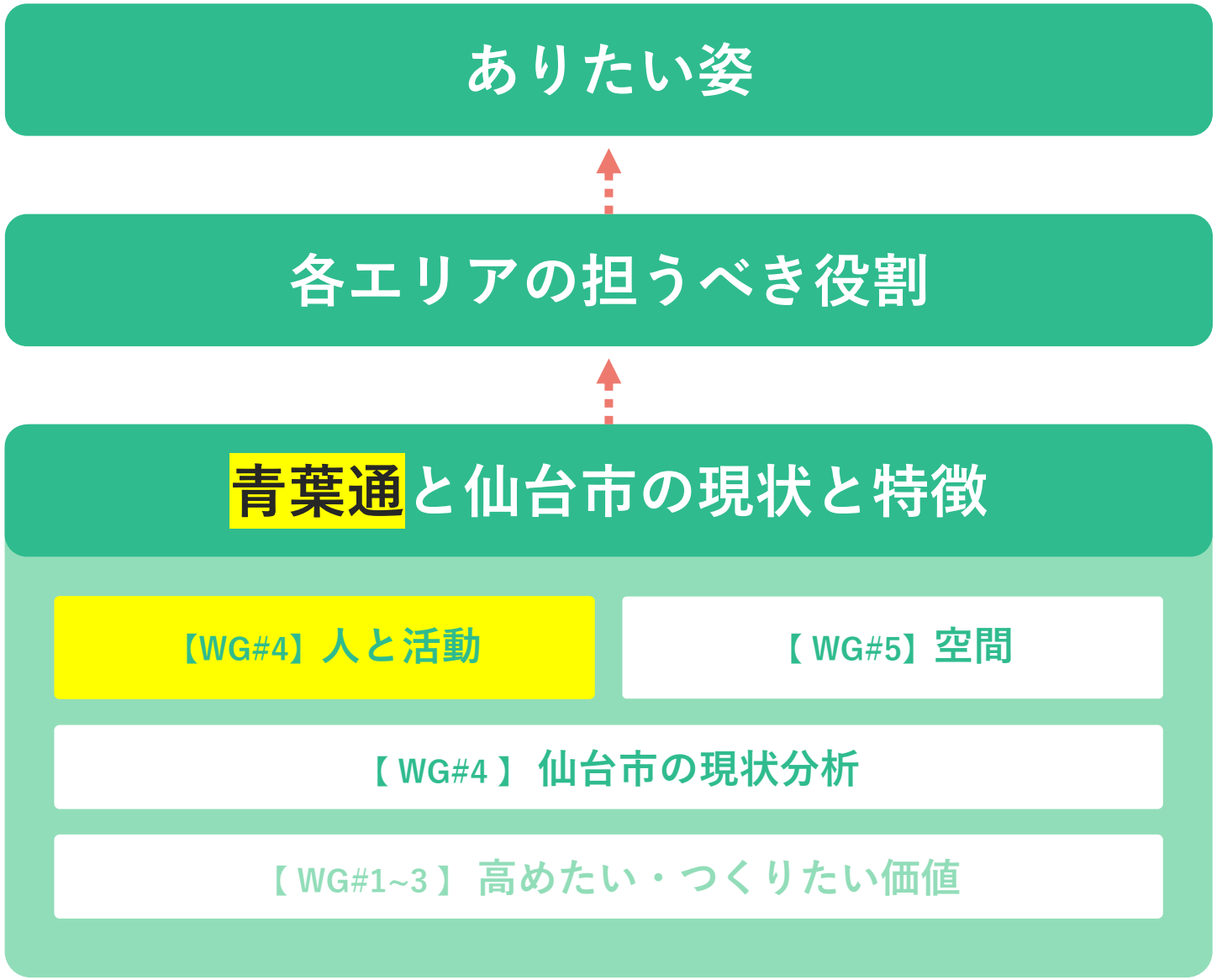
東北・仙台の人口減少とともに、市内で生産できる付加価値額が縮小するリスクを抱えた産業構造

世界に誇る資源

国際基準の研究力やレジリエンスノウハウ、暮らしやすさ等の世界に誇る資源を有している

人口が大幅に減少し経済が縮小する2040年頃を見据え、
生活基盤を支え「暮らしの質」を守っていくために、
付加価値を高めるべく地域産業の革新をしていく必要がある。

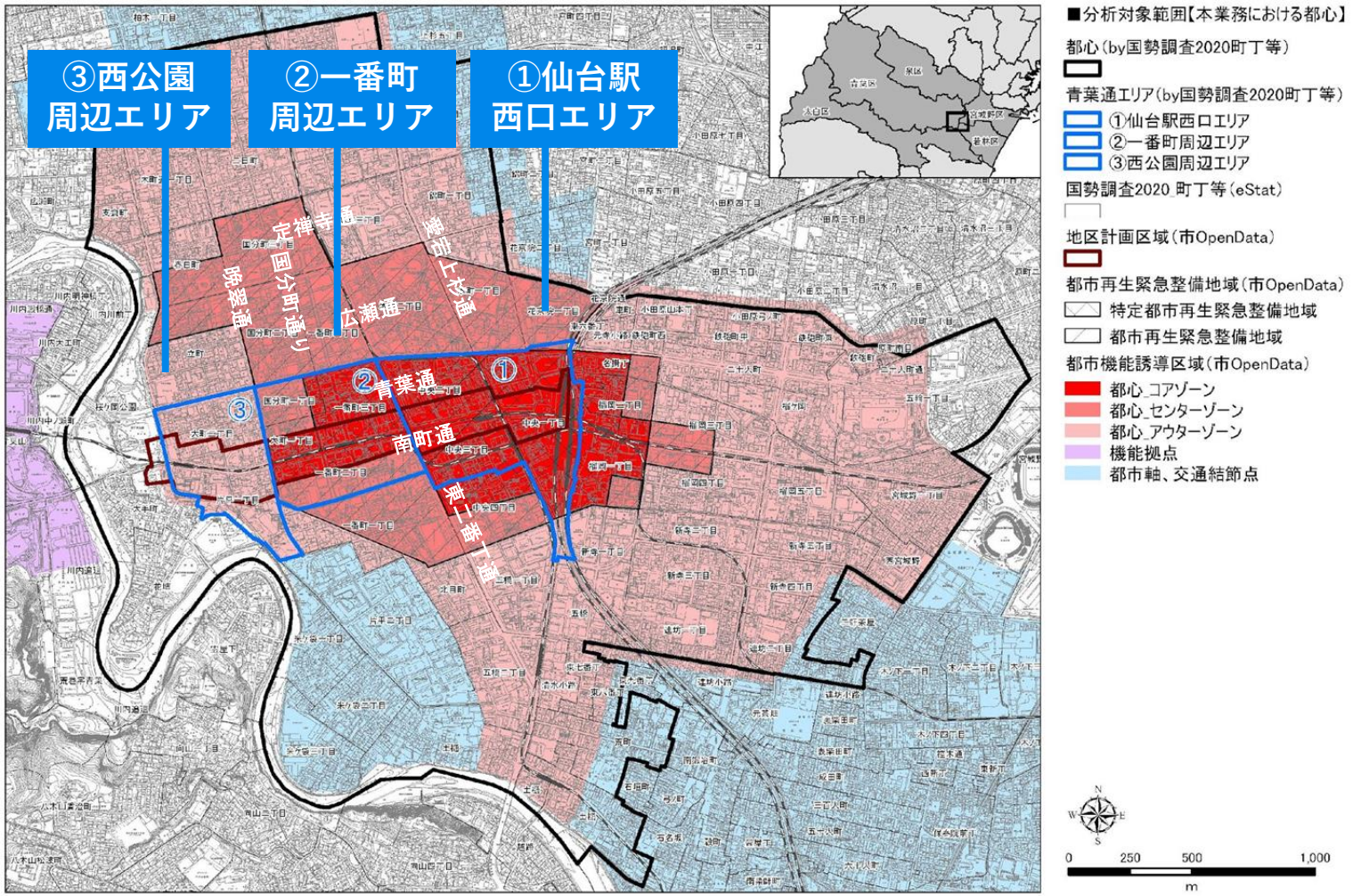
コンセプトのベースとなる考え方の論理構造




Google Earth
N
400 m


↑東北大学
星稜キャンパス
市役所本庁舎建て替え
勾当台公園再整備
定禅寺通再整備
県美術館
(仮称)国際センター
駅北地区複合施設
西公園通
晩翠通
国分町通り(旧奥州街道)
アーケード商店街
一番町
東二番丁通
広瀬通
アーケード商店街
愛宕上杉通
青葉通
南町通
芭蕉の辻
仙台駅
東北大学
川内キャンパス
国際センター
西公園
屋内遊び場整備
大手門復元検討
博物館
仙臺緑彩館
↓仙台城跡
東北大学
片平キャンパス

都心全体を俯瞰しながら、青葉通エリアを町丁単位で分析



都心全体を俯瞰しながら、青葉通りエリアを町丁単位で分析

	従業者数	人口	世帯数	平均世帯人員	一般世帯住宅数	一般世帯借家数	%借家/住宅	5年前非現在地居住人口	%5年前非現在地居住人口
青葉通エリア内	**71,059** 対都市圏10%	**6,263** 対都市圏1%-	**4,509**	**1.4**	**4,476**	**2,957**	**66%**	**1,810**	**29%**
①仙台駅西口エリア	43,069	131	79	1.7	73	41	56%	21	16%
②一番町周辺エリア	23,240	2,028	1,437	1.4	1,425	865	61%	555	27%
③西公園周辺エリア	4,750	4,104	2,993	1.4	2,978	2,051	69%	1,234	30%
青葉通エリア外都心	158,522	79,066	49,664	1.6	49,102	31,735	65%	24,298	31%
都心全体	229,581 対都市圏31%	85,329 対都市圏6%	54,173	1.6	53,578	34,692	65%	26,108	31%
青葉通エリア／都心全体（%）	31.0% 仙台市46万人 仙台都市圏74万人	7.3% 109万人 153万人	8.3%	-	8.4%	8.5%	-	-	-

都心全体におけるシェアは、居住人口よりも従業者数が４倍以上大きい

【出所】 2020年国勢調査、2021年経済センサス（従業者数のみ）

『３つの視点』から丁寧に分析する

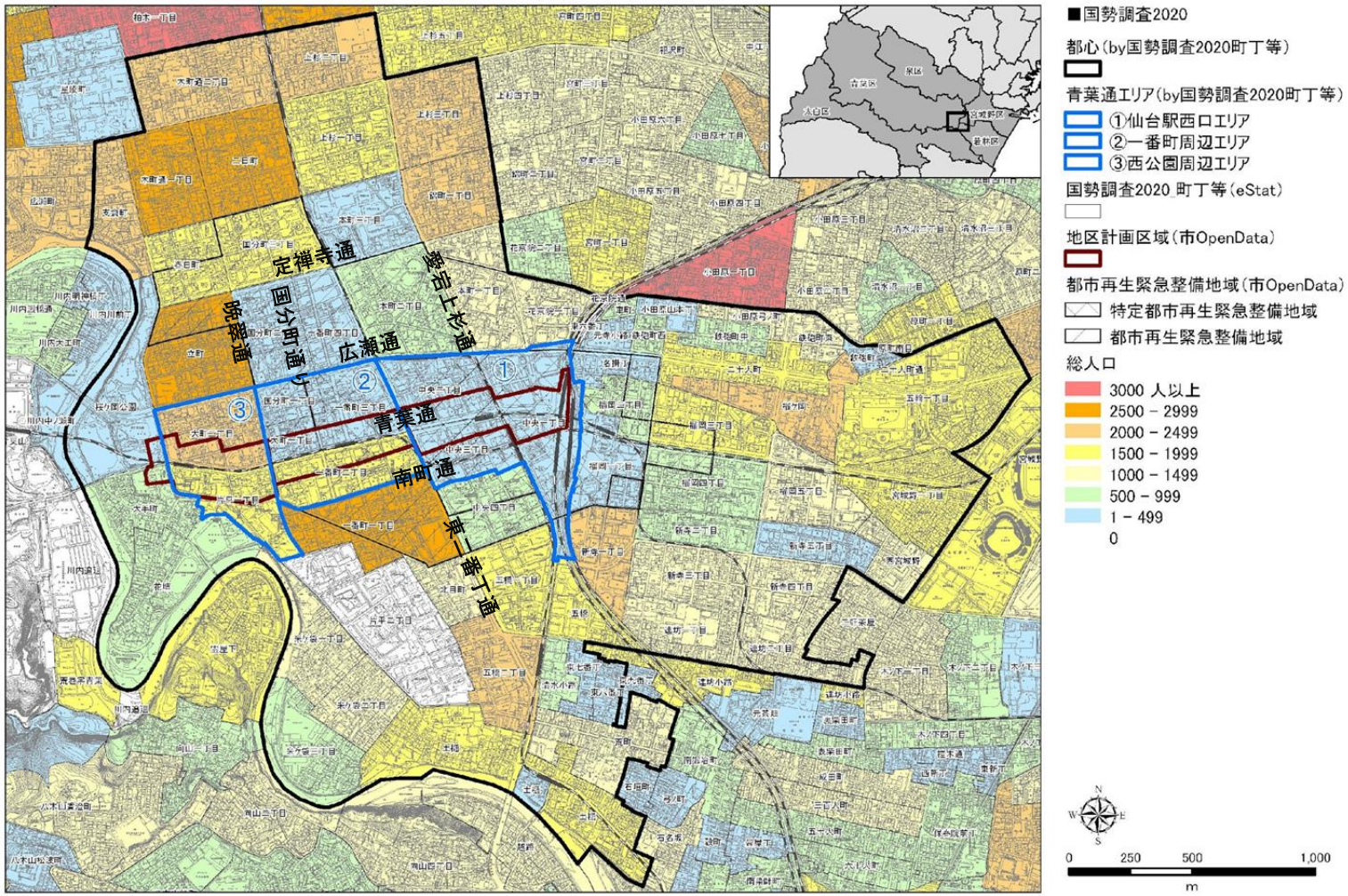
１：住む

２：はたらく

３：移動する

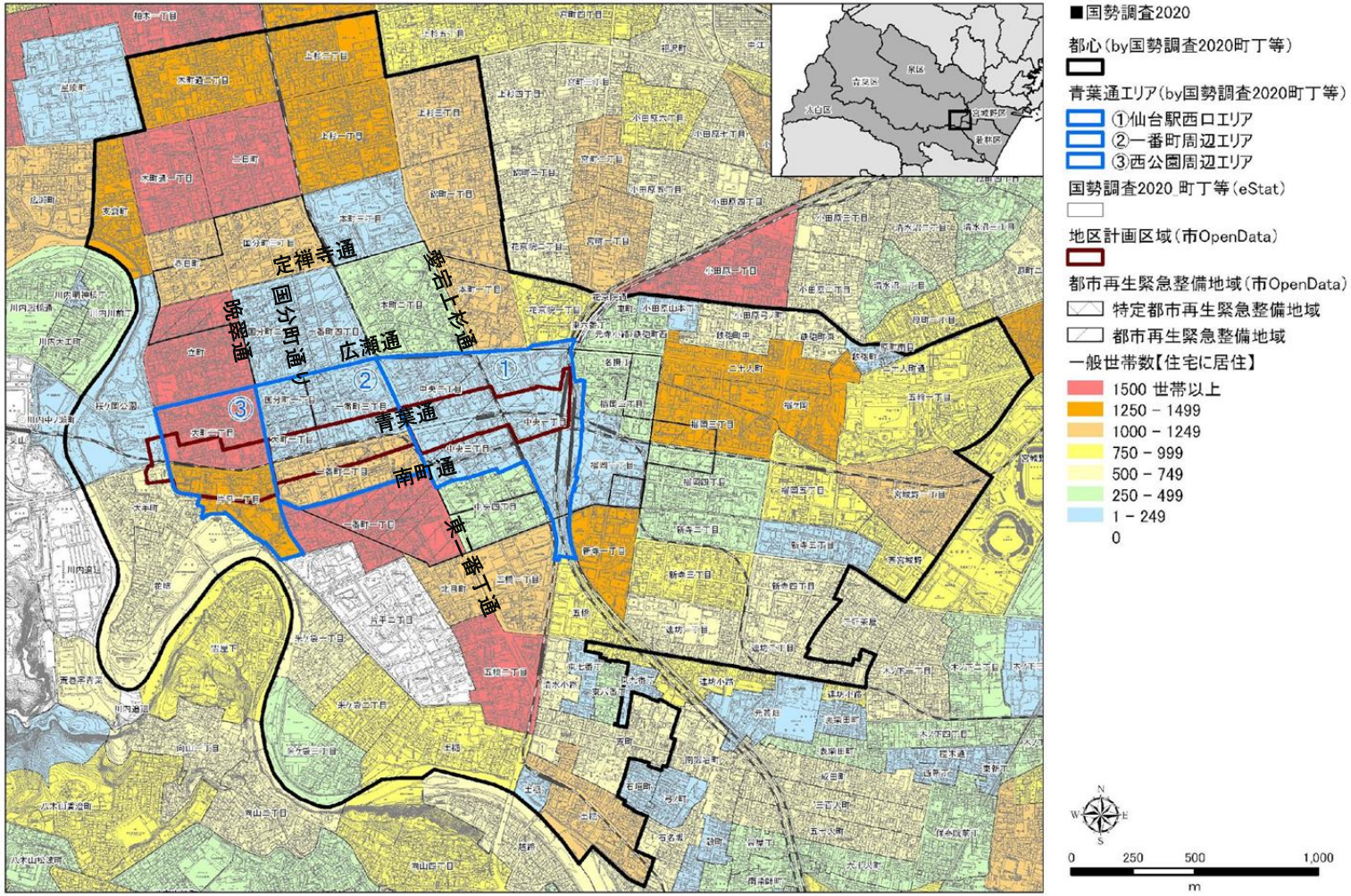
「②一番町周辺エリア」の南側と「③西公園周辺エリア」に人口が多い

駅前小エリアやアーケード沿いには少ない



都心部の世帯規模は小さい

世帯数は人口よりも凡例の階級が上がっている



『３つの視点』から丁寧に分析する

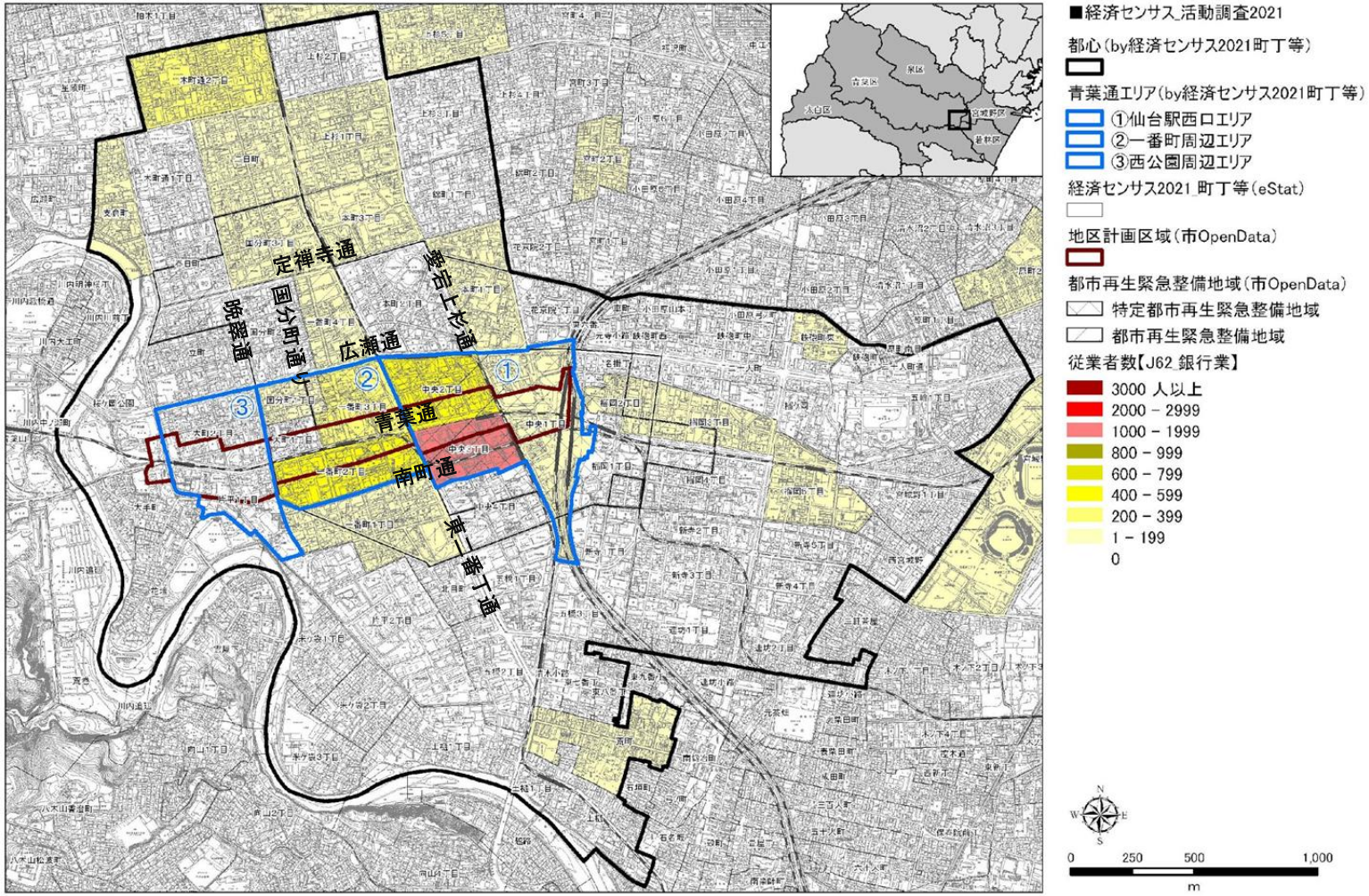
１：住む

２：はたらく（業種と規模）

３：移動する

銀行業は愛宕上杉通と東二番町通の間の青葉通沿いに集積している

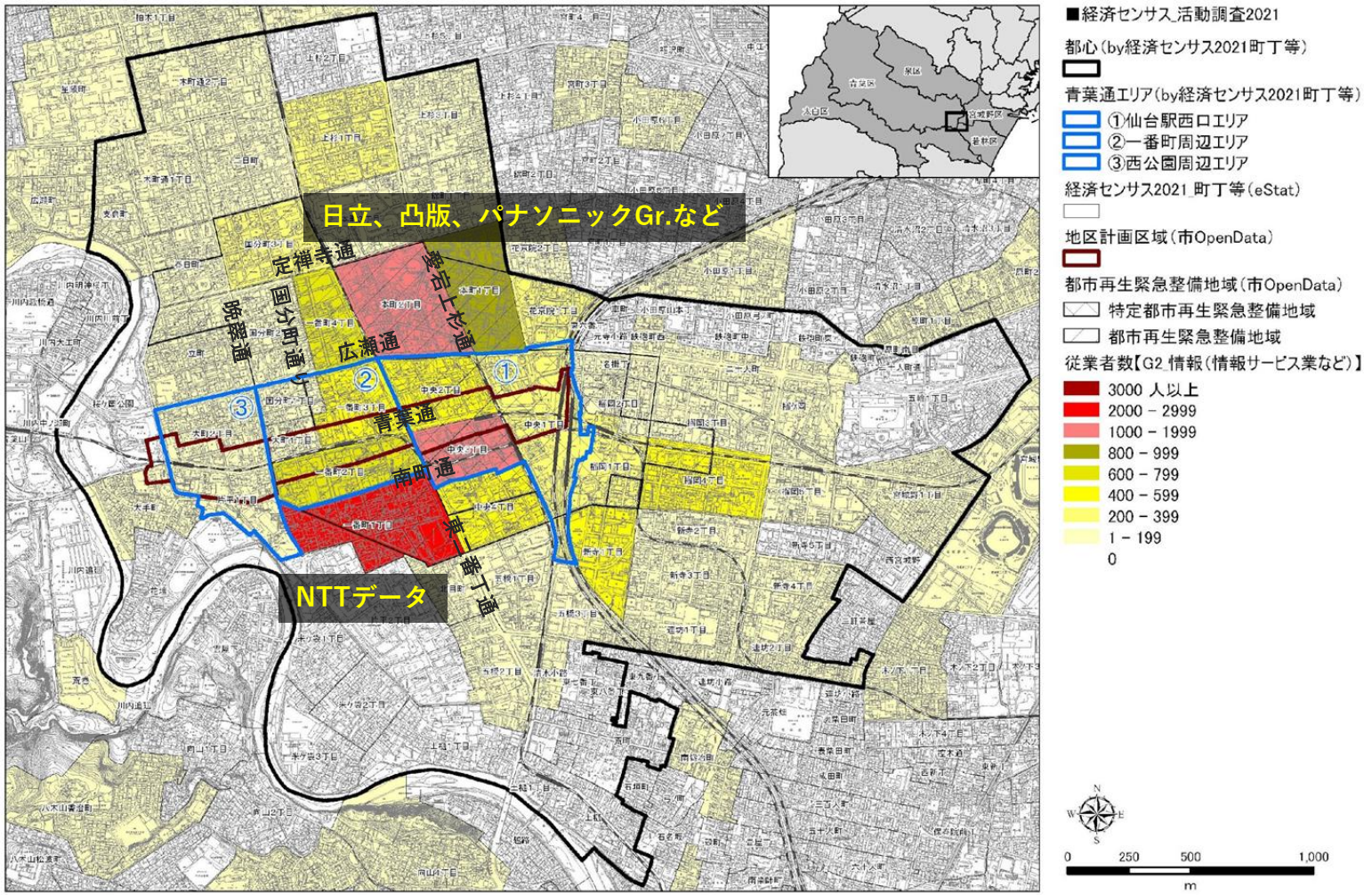
保険業は東二番丁通と晩翠通の間で青葉通から一本入った辺りに多い



産業分類：
大分類20
中分類99
小分類529
細分類1,455

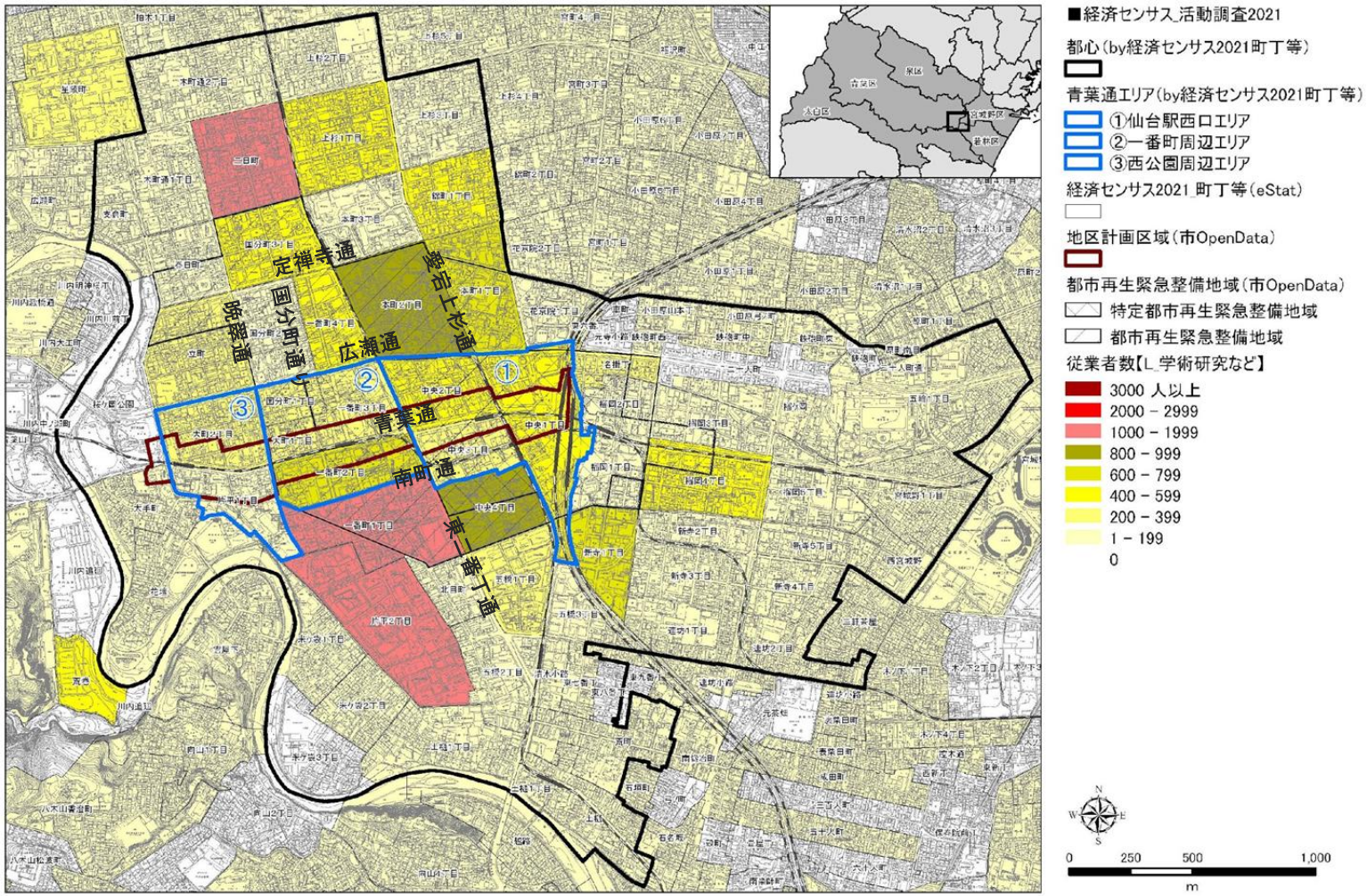
本来は職種が大事
産業分類では銀行の窓口とコンサルが区分されない

情報サービス業は
「一番町１丁目」と「中央３丁目」に多い



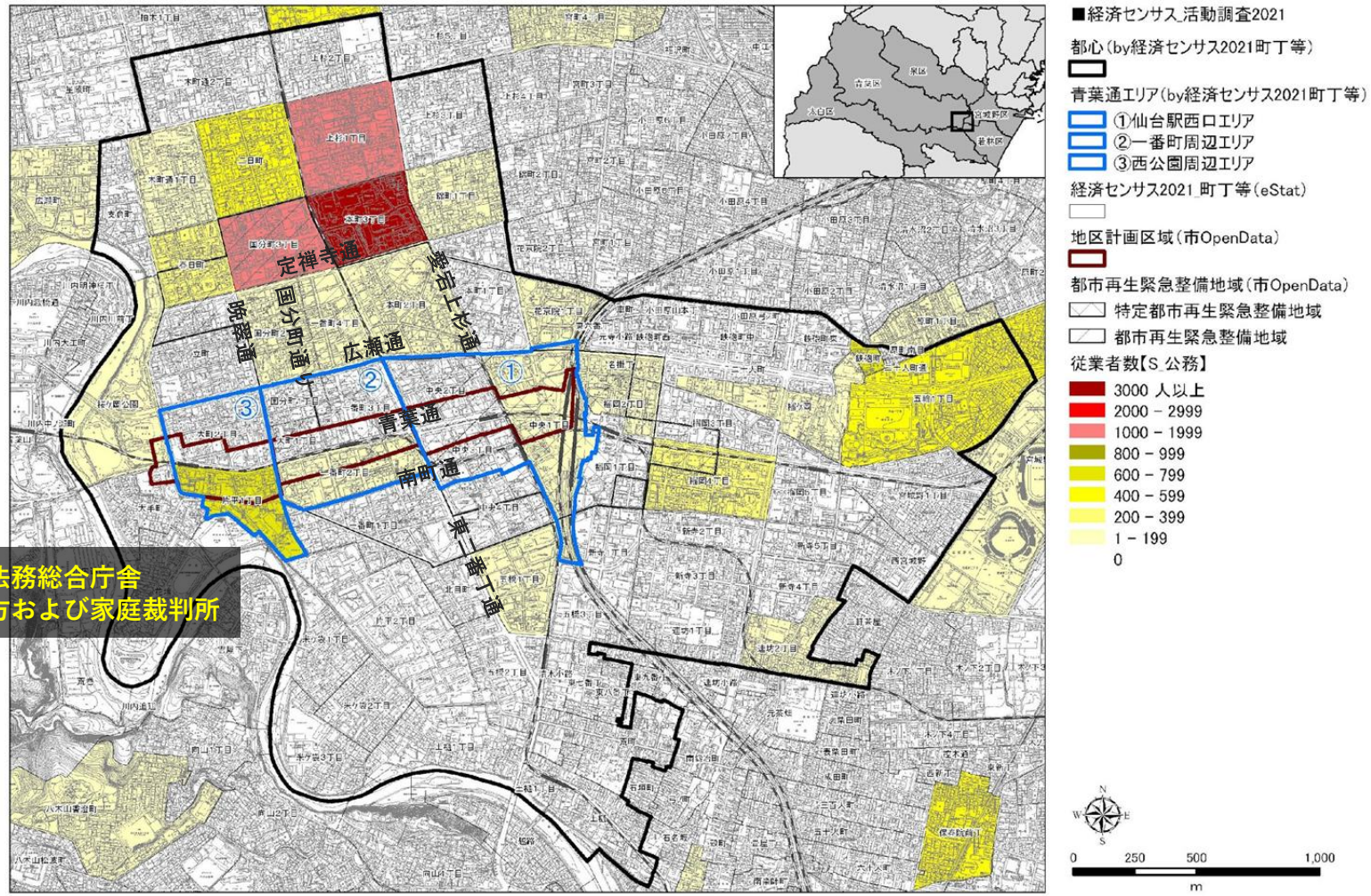
学術研究は、大学周辺に集中している

「①仙台駅西口エリア」の南北や仙台駅東には専門学校が集積している



公務は市役所・県庁の周辺に集積

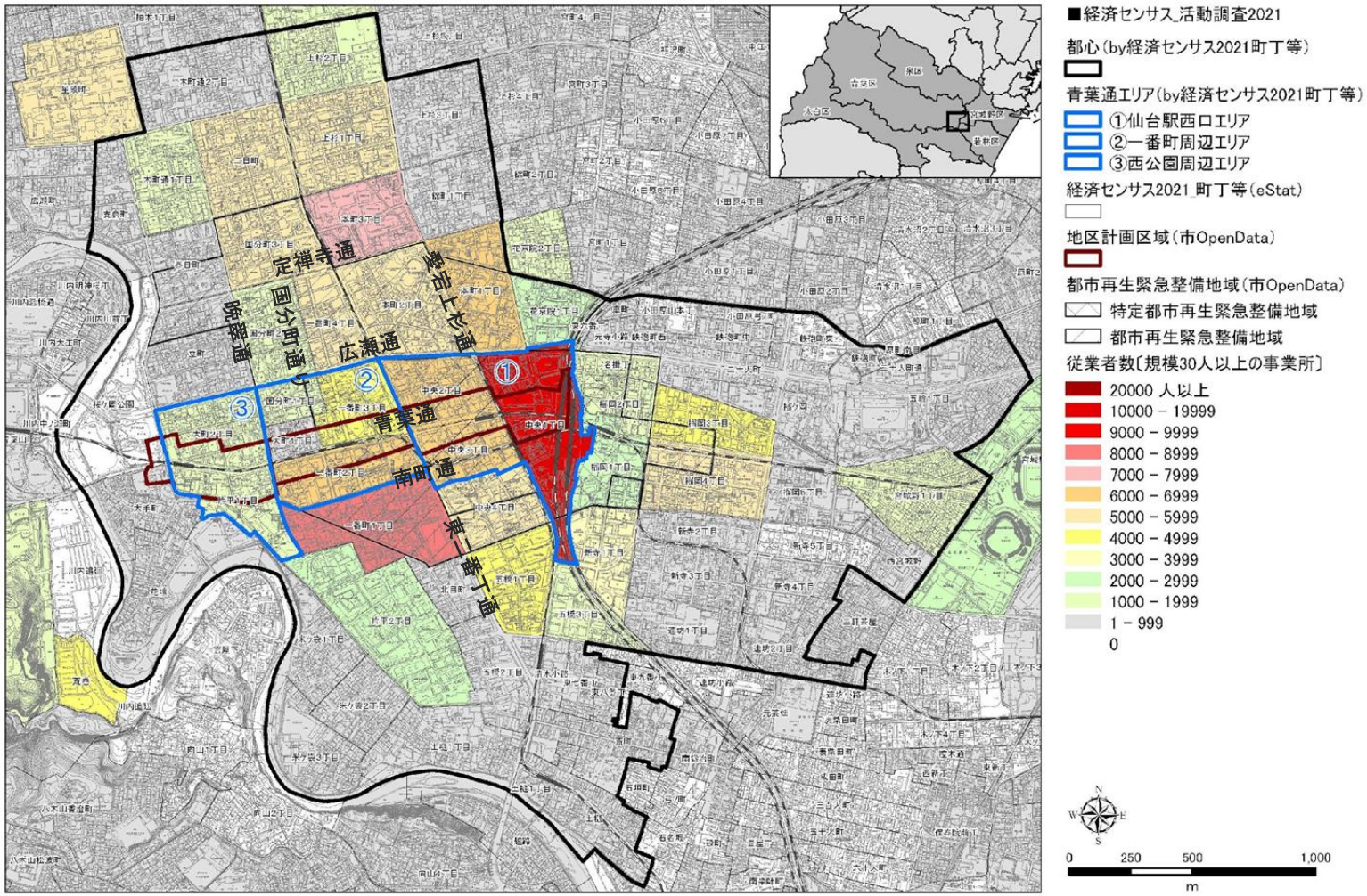
片平１丁目に裁判所や検察庁など法務が集積



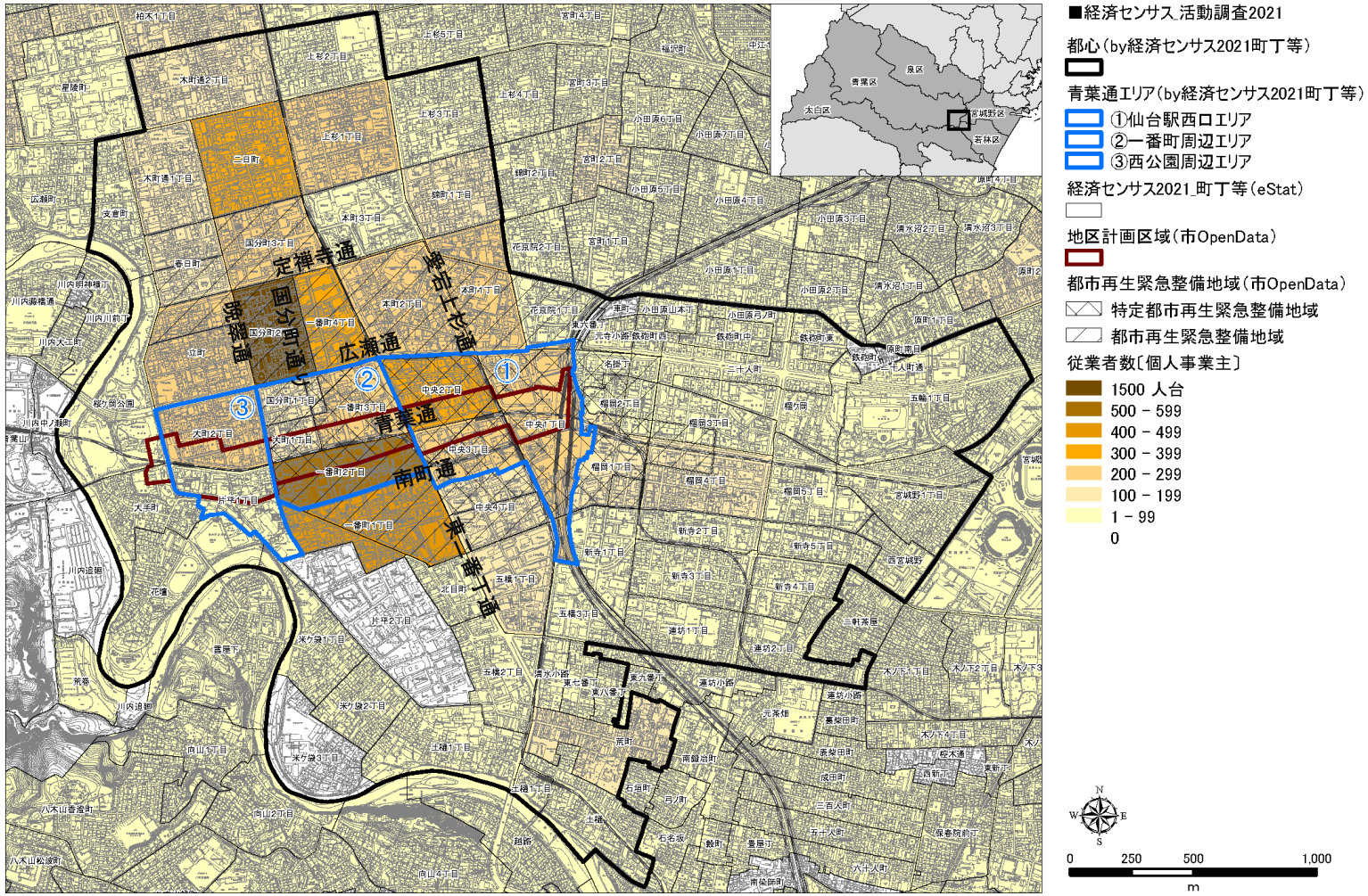
検察庁、法務総合庁舎
高等・地方および家庭裁判所

比較的大きな事業所は、大型オフィスビルが多い「中央１丁目」と「一番町１丁目」に集積

規模30人以上の事業所で働く従業者数のみを抽出



個人事業主は
「国分町２丁目」や「一番町１・２・４丁目」などに多い



『３つの視点』から丁寧に分析する

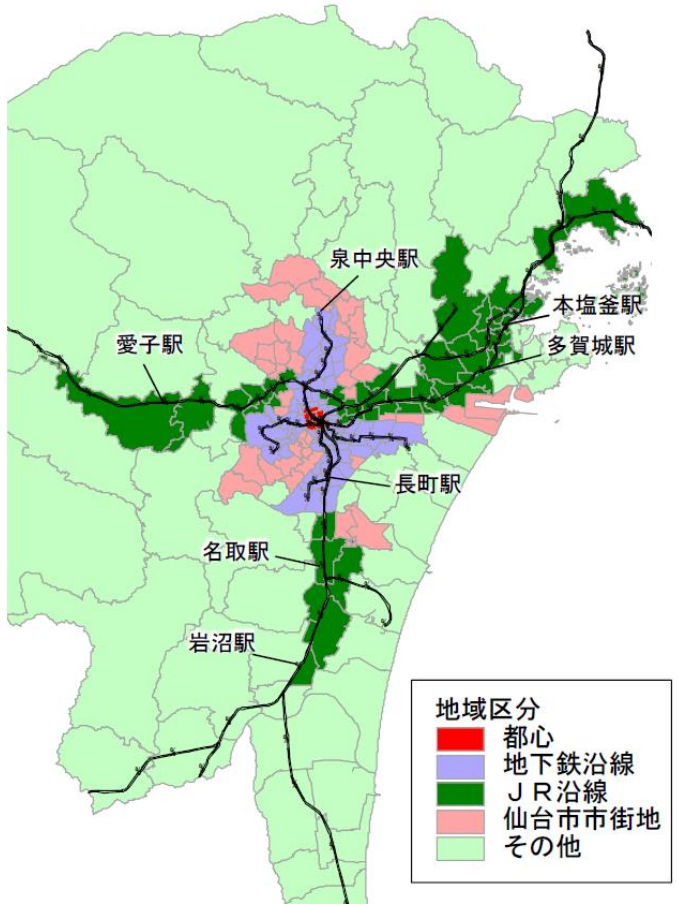
１：住む

２：はたらく

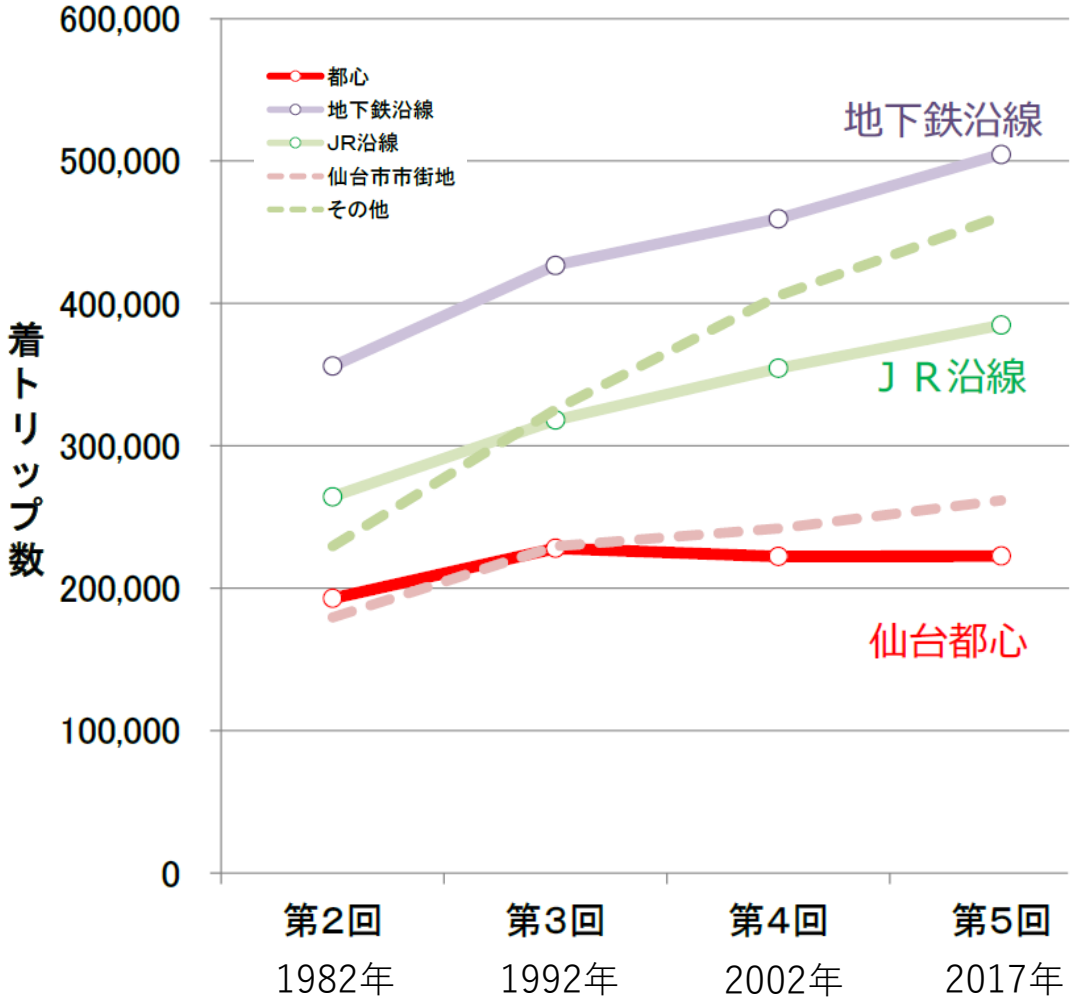
３：移動する（通勤と買物）

平日における都心の着トリップ数

横這い傾向だが、他エリアは伸びている



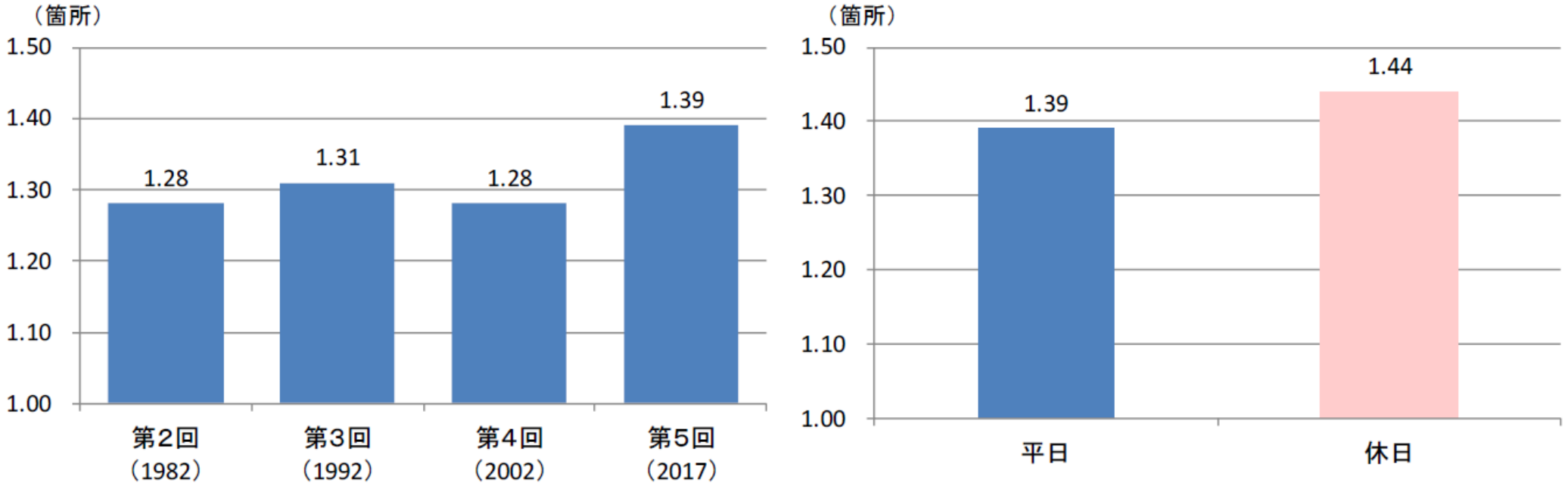
各回PT調査のゾーン区分から比較可能な中ゾーン単位で設定
- 地下鉄沿線. JR沿線は、駅1km圏にゾーンの過半を含むエリア
- 仙台市市街地は、仙台市市街化区域のうち、第2回～第4回の中ゾーンを基本にゾーンの過半を含むエリア



【出所】第５回仙台都市圏パーソントリップ調査 報告書（2020年7月）

立ち寄り箇所数の推移

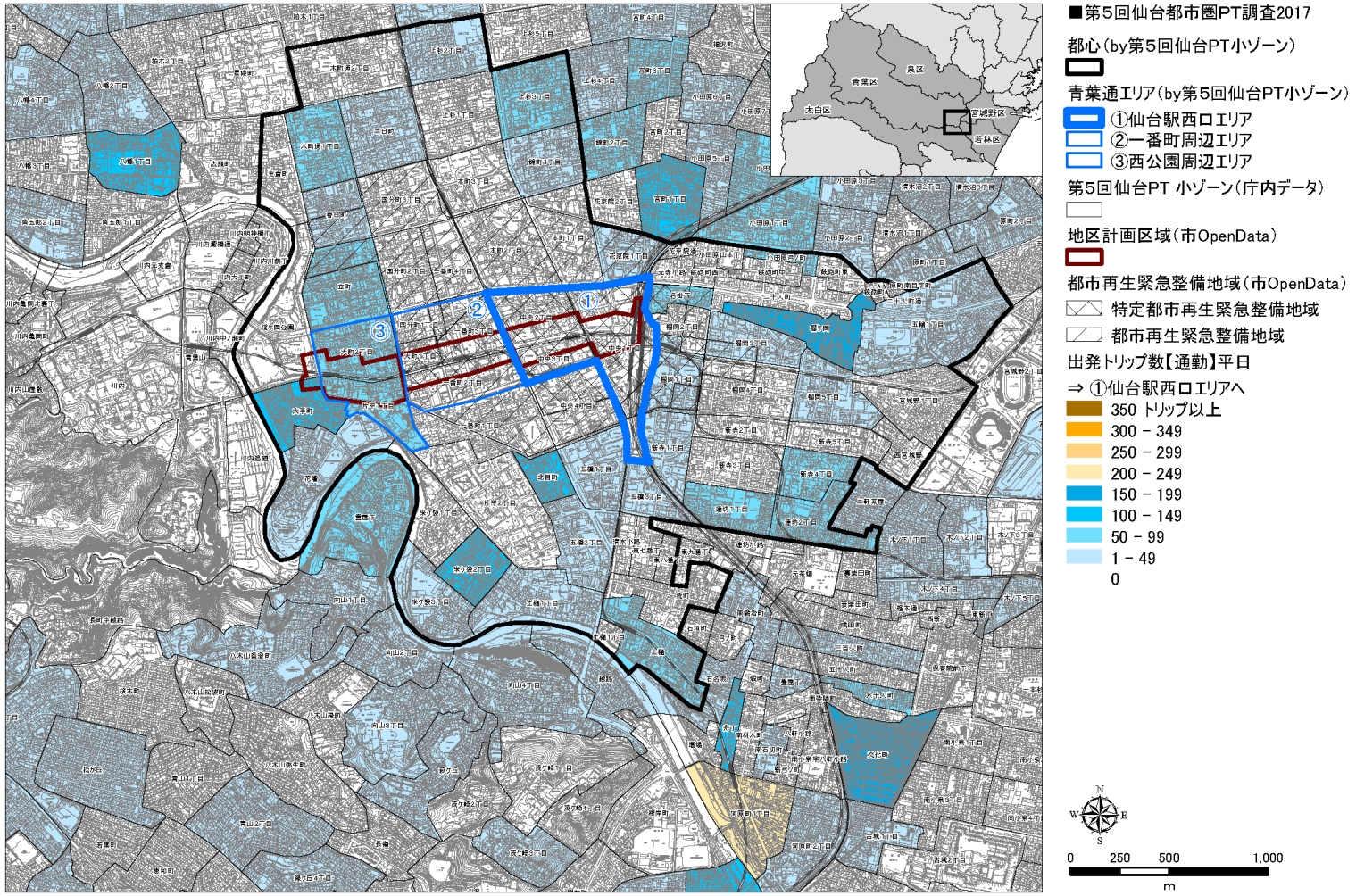
増えたとは言え1.5回に満たず、都心内で回遊をしていない



都心来訪者の都心内立ち寄り箇所数の推移
及び平日・休日比較（私事目的）

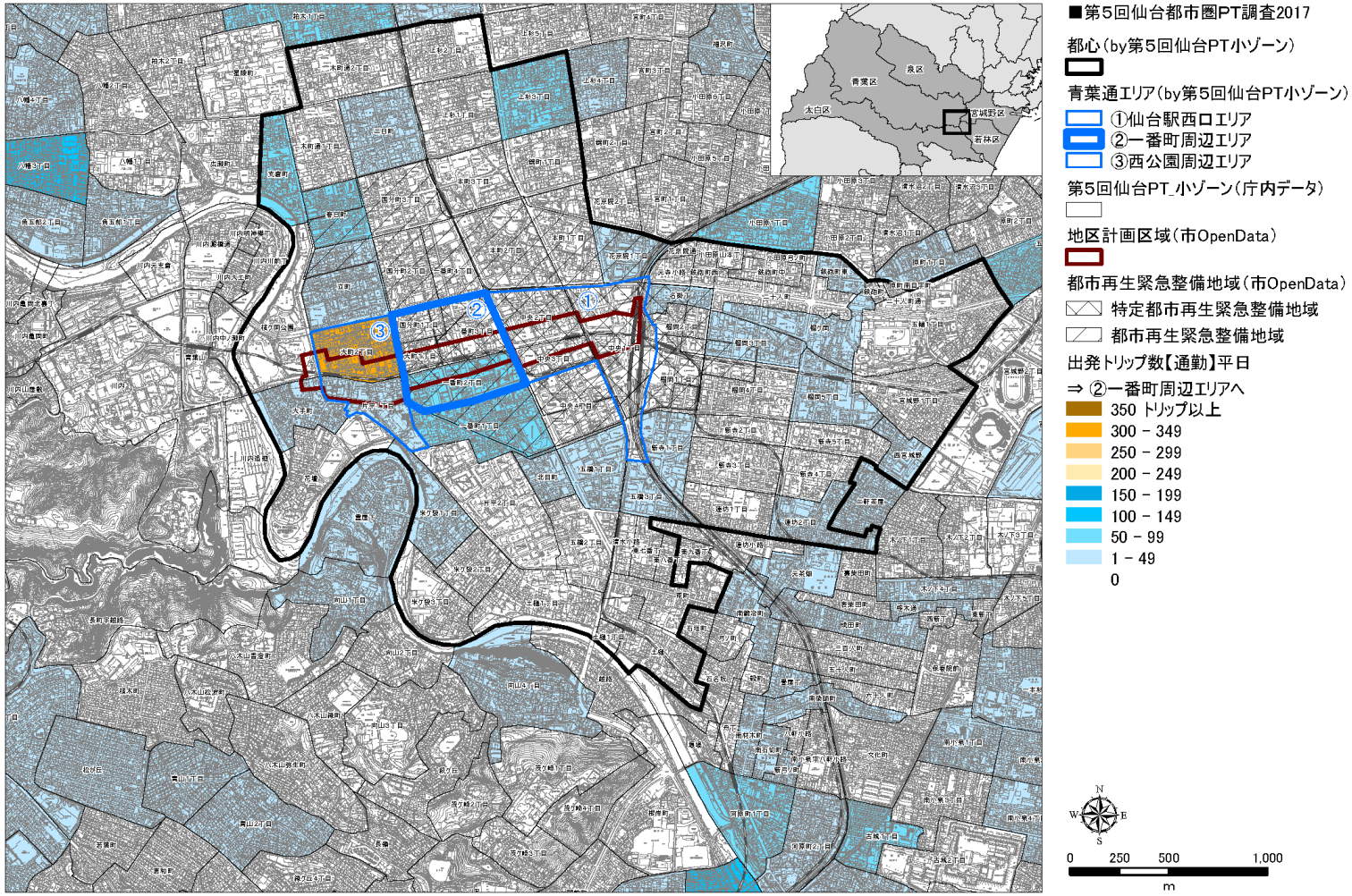
【出所】第５回仙台都市圏パーソントリップ調査 報告書（2020年7月）

仙台駅前小エリアには、
都心の外周部から通勤している人が多い

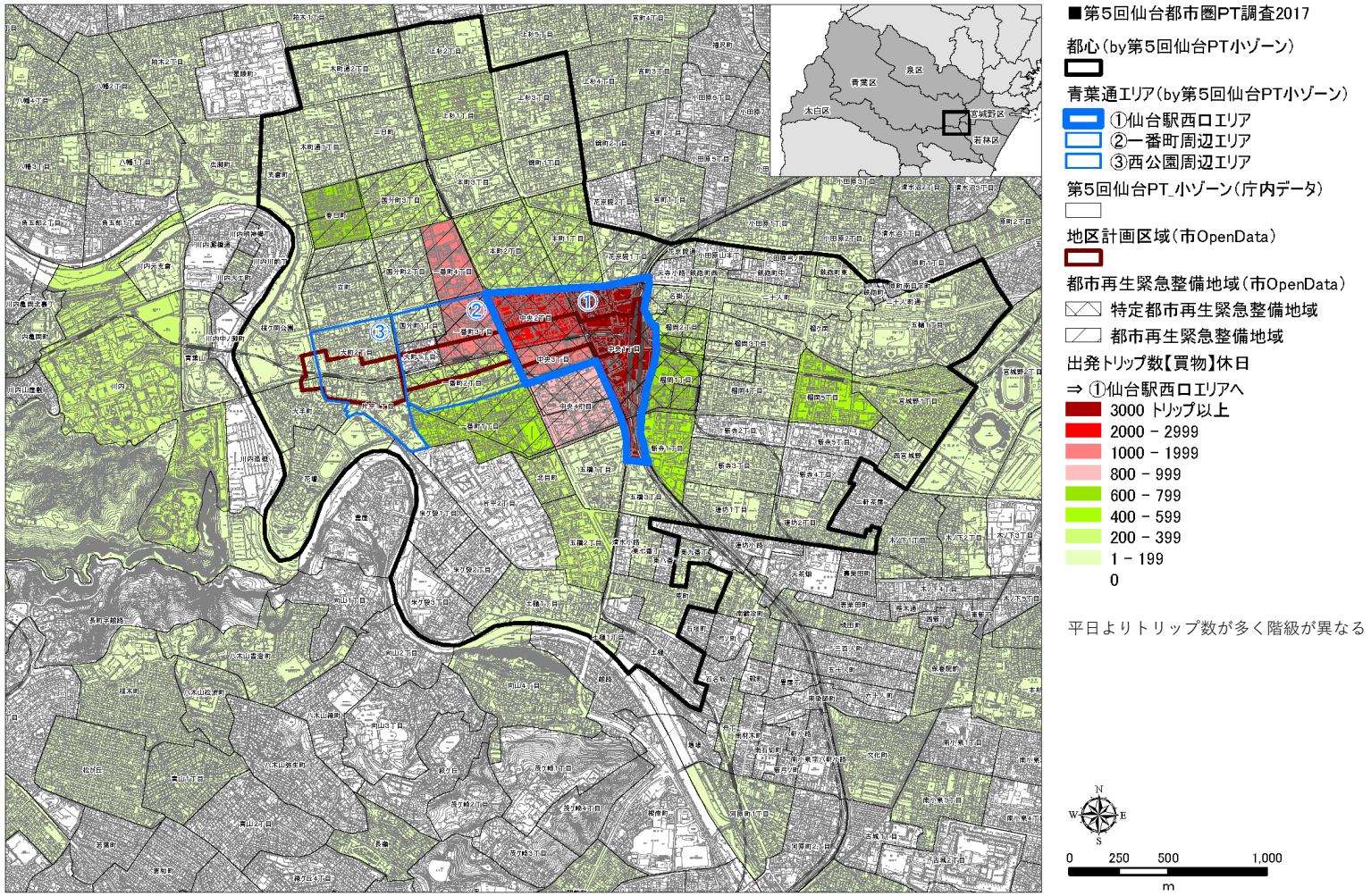


一番町小エリアには、近くから通勤する職住近接の傾向が伺える

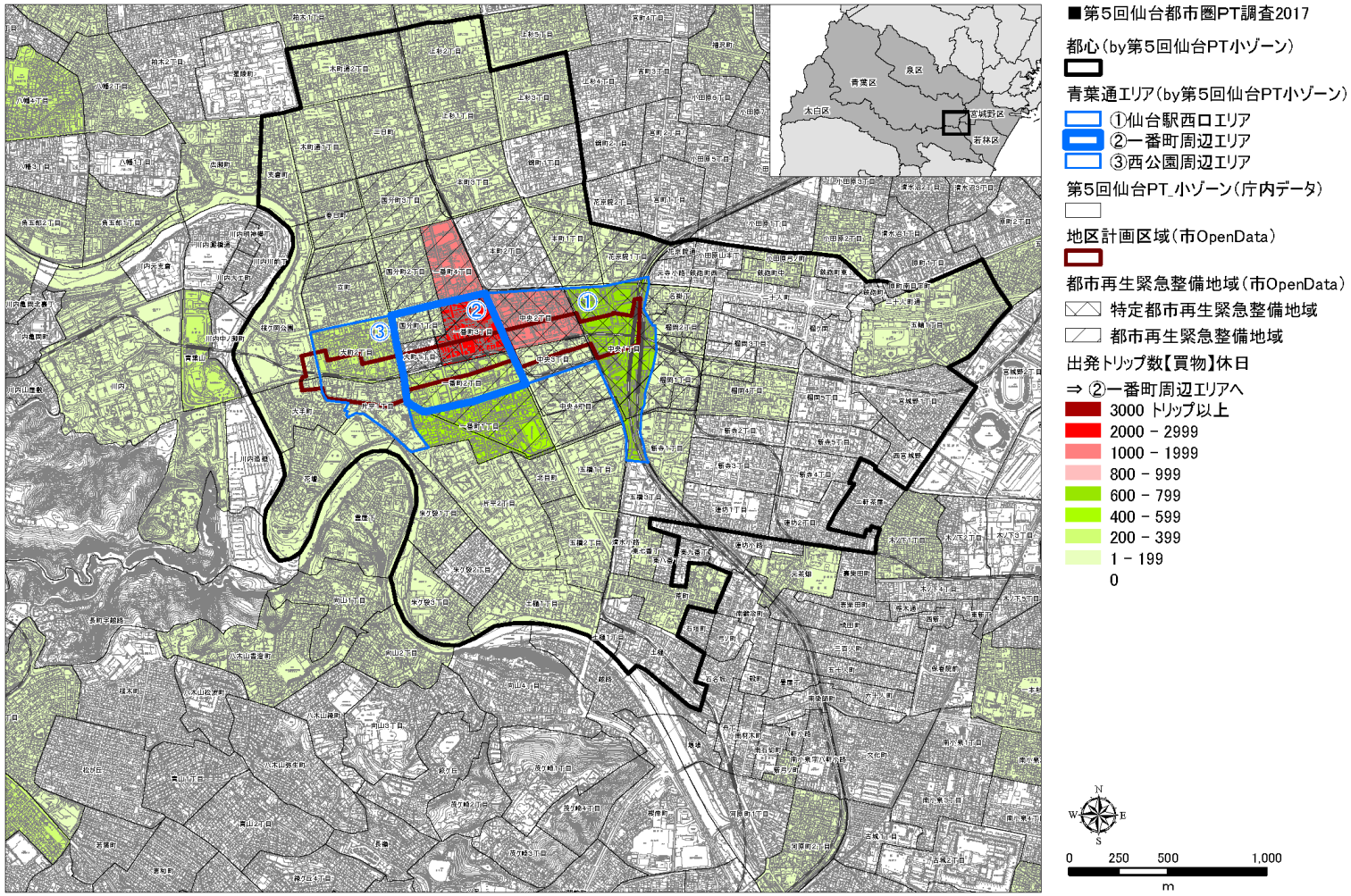
「大町2丁目」や「一番町１・2丁目」に多い



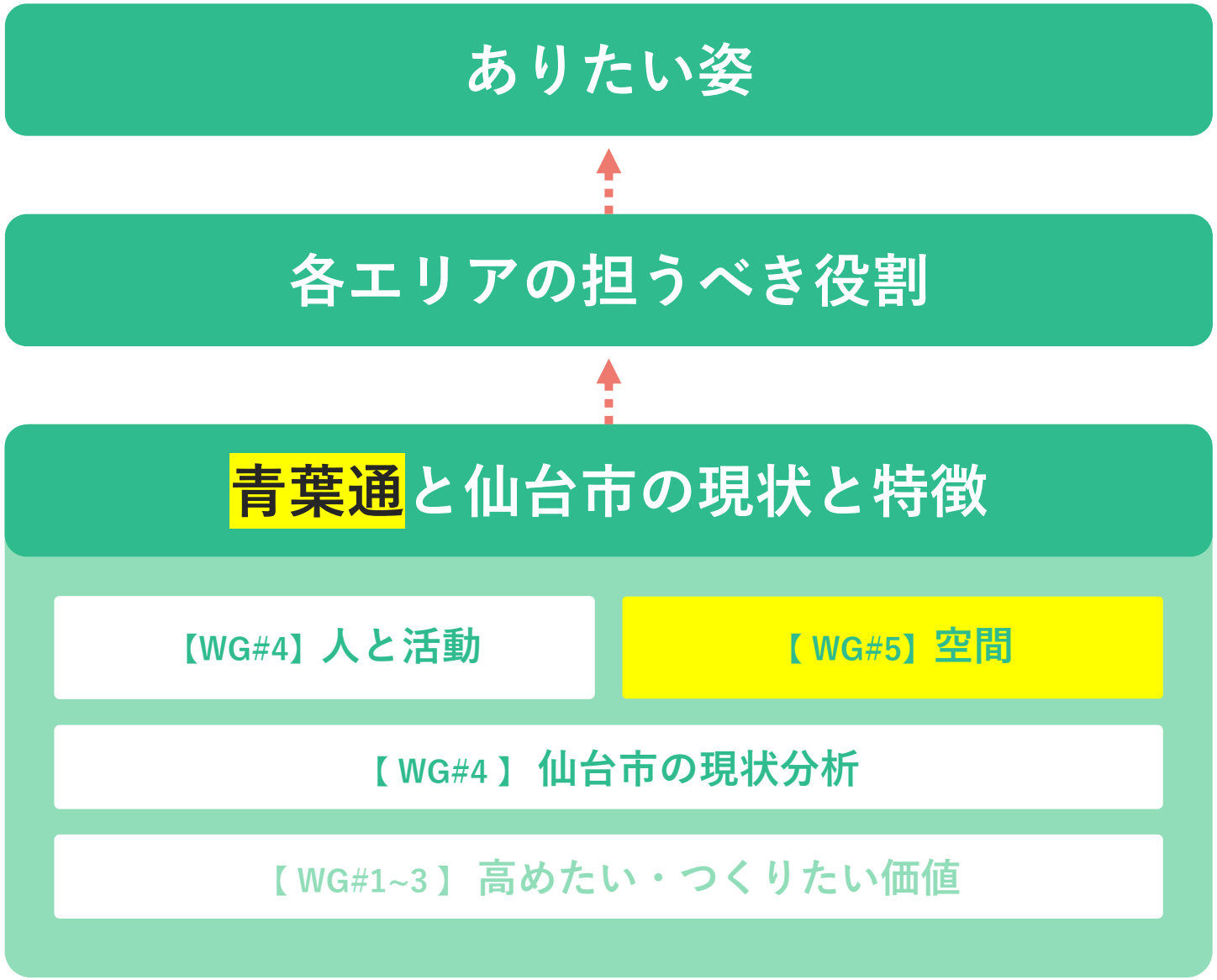
「①仙台駅西口エリア」内および「一番町３・４丁目」からの回遊が多い



一番町小エリアへの買物目的の移動は、回遊の範囲が限定的である



コンセプトのベースとなる考え方の論理構造



空間

図

建物

注意の焦点となる対象

（前景、明確な形）

地

街区

図の背景となる領域

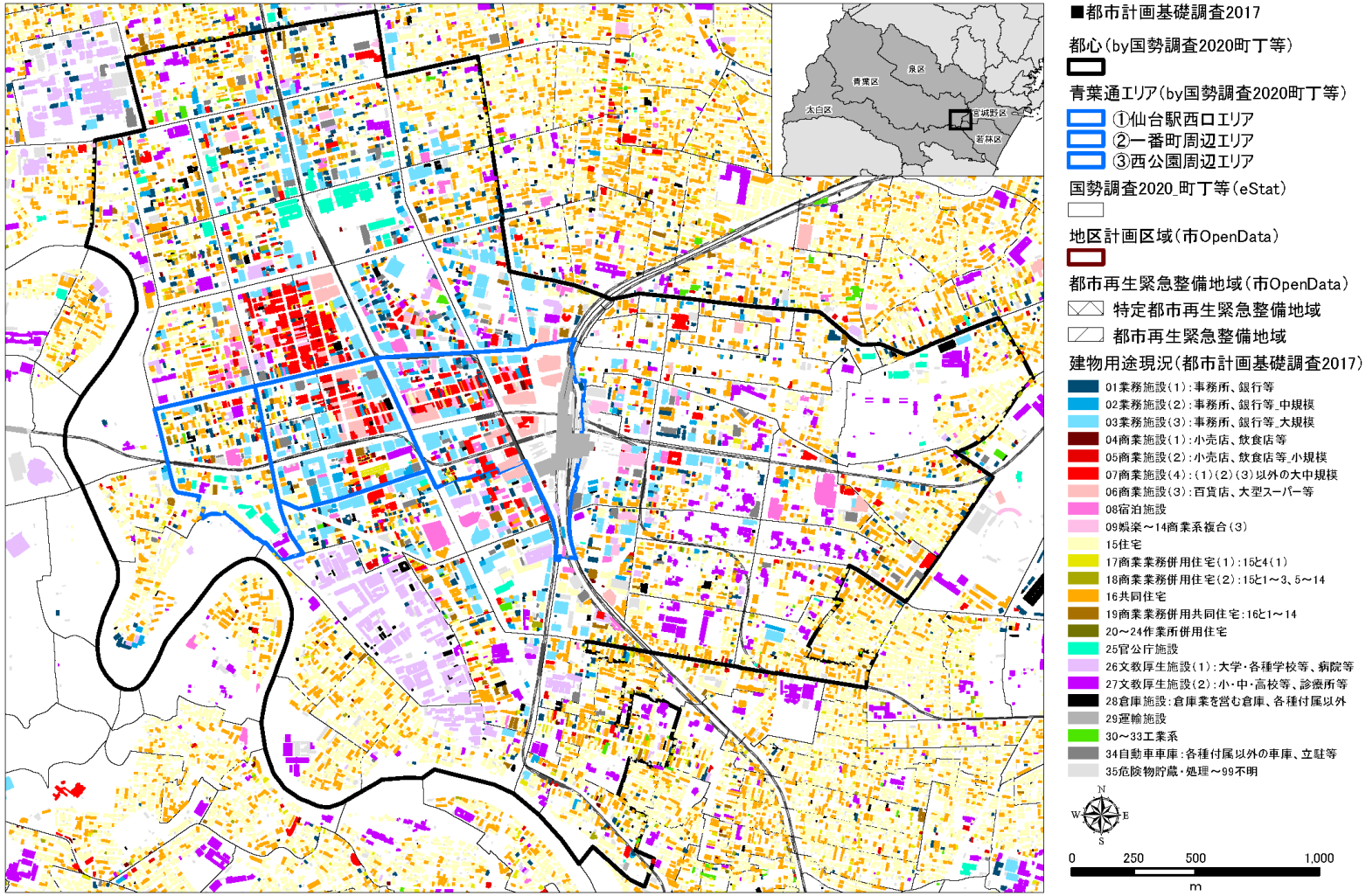
（背景、不明確な形



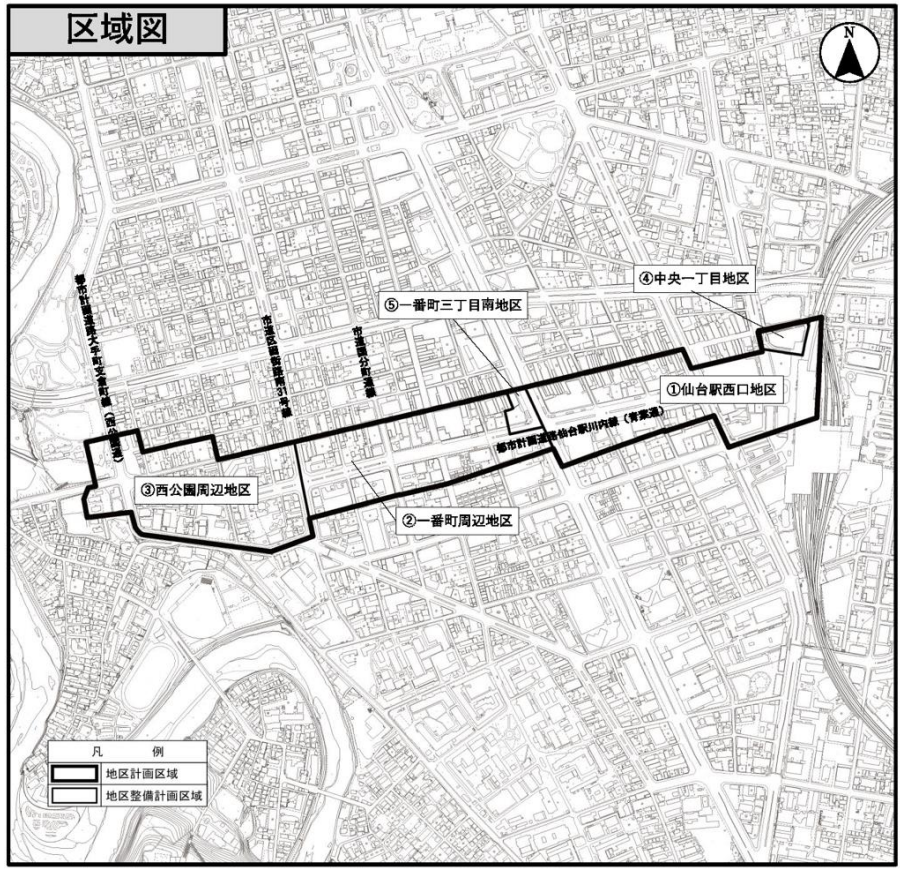
【出所】「コラージュ・シティ」Figure-ground plan of Wiesbaden (Collage City).

都心の建物の建築用途や規模など

※建築確認時点、満空含めて最新ではない

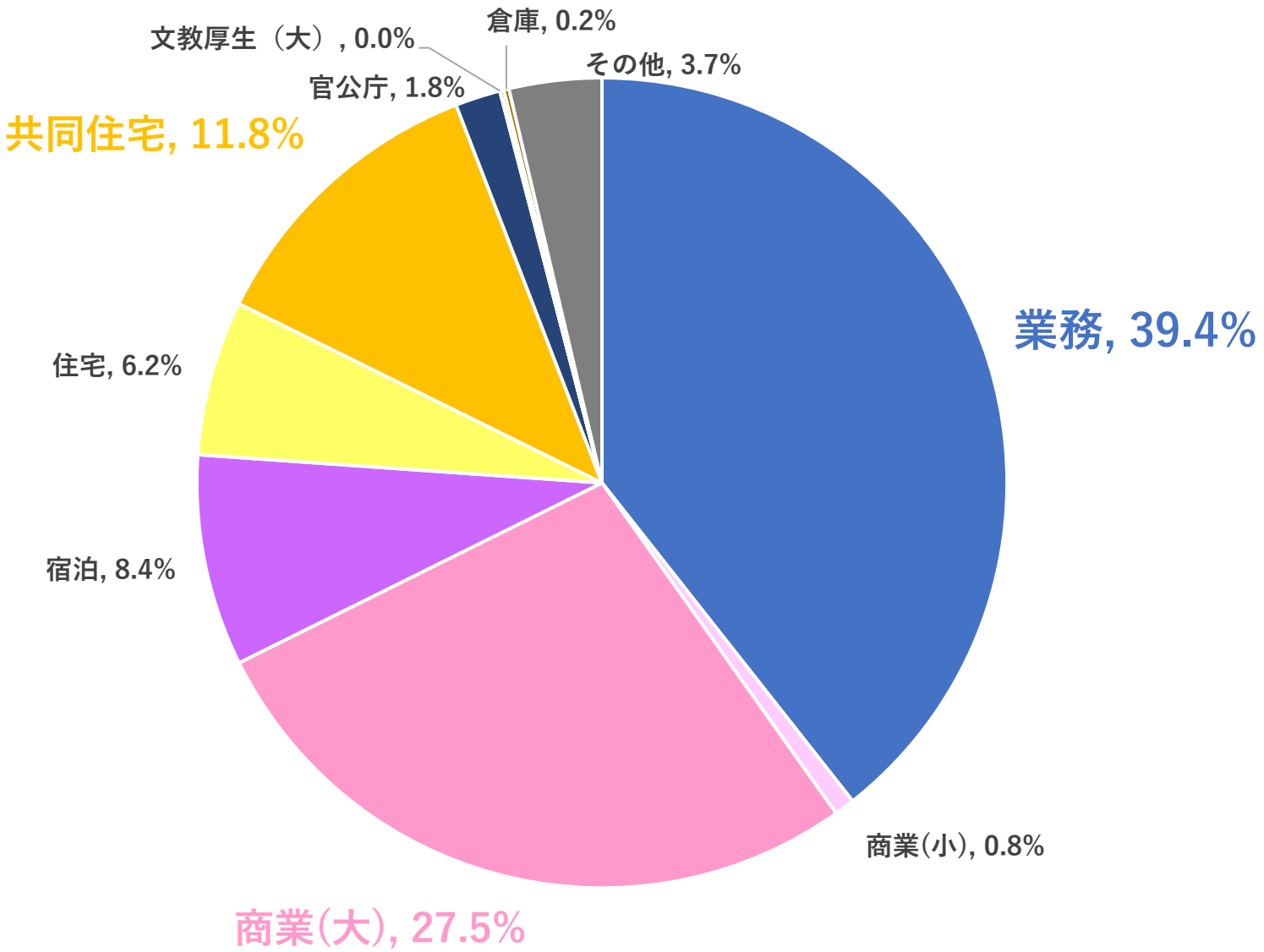


青葉通地区計画区域内の建物規模



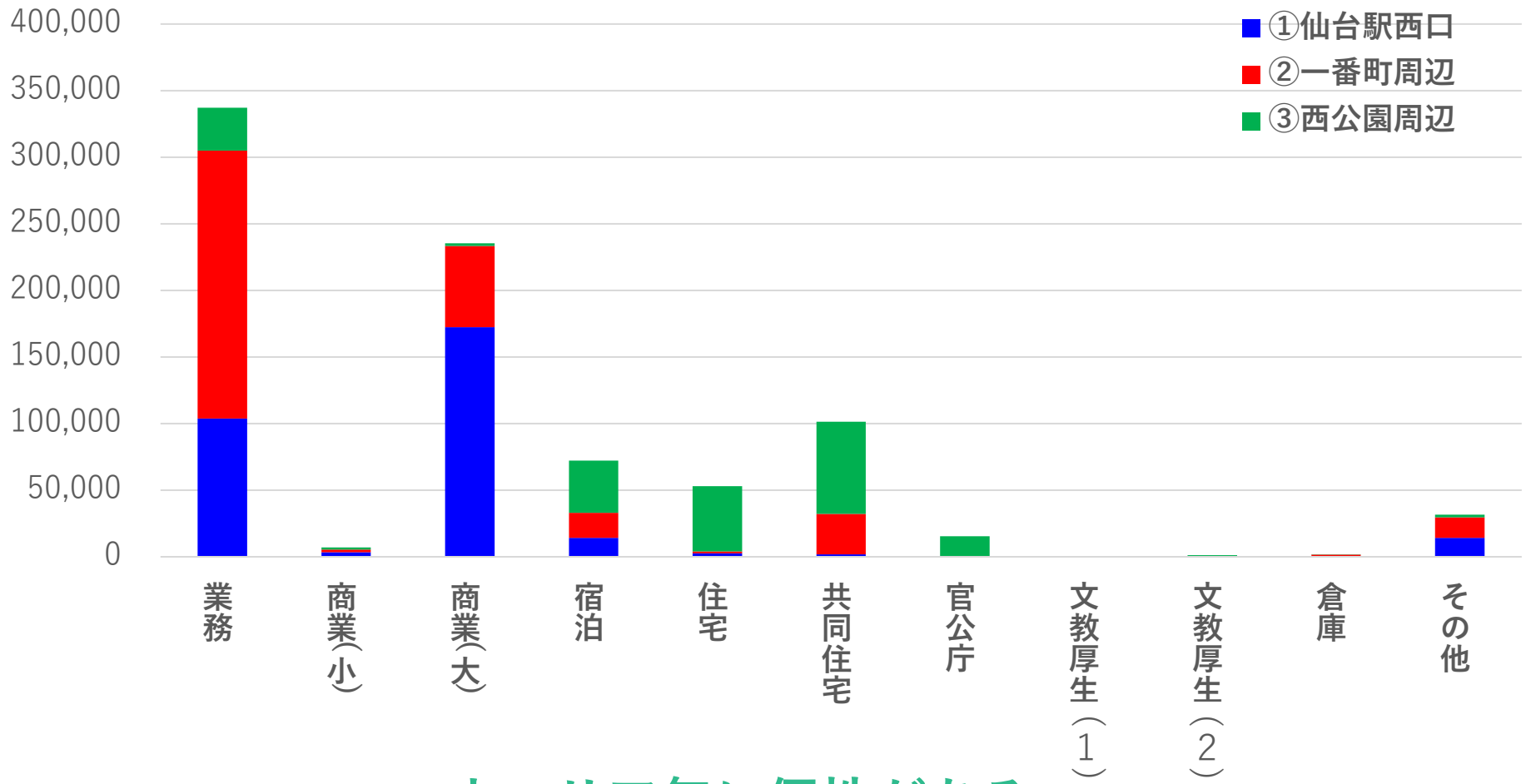
地区整備計画区域	平均階数	延べ床面積		棟数	
①仙台駅西口	5.2	313,410	37%	90	27%
②一番町周辺	5.3	332,553	39%	122	36%
③西公園周辺	5.3	212,271	25%	127	37%
総計	5.3	858,234	100%	339	100%

青葉通地区計画区域内の建築主用途別割合



建築主用途ごとの延べ床面積

業務は「②一番町周辺」、商業は「①仙台駅西口」、住宅は「③西公園周辺」が最も多い

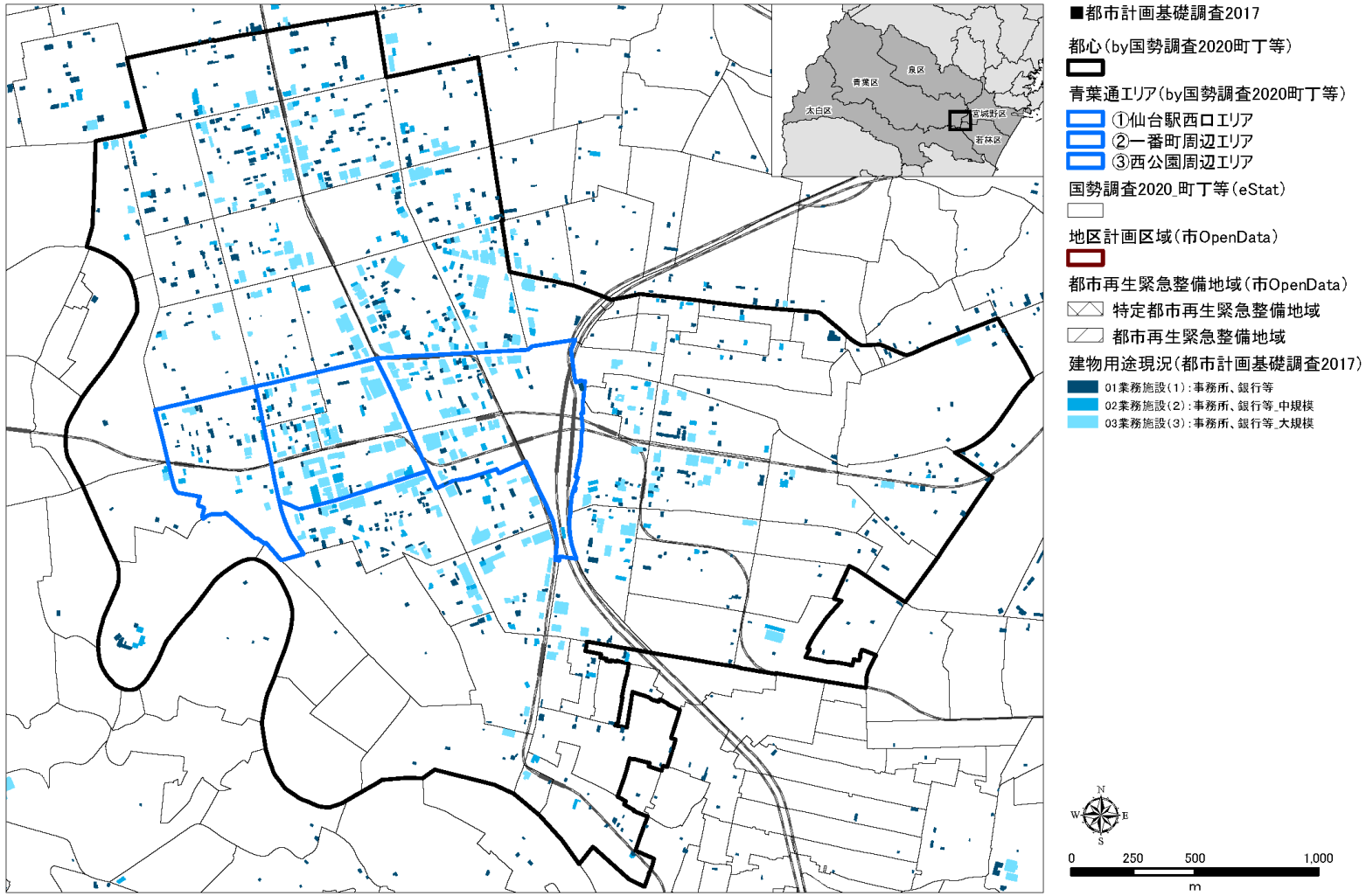


小エリア毎に個性がある

注）主用途「-1」という実態不明な建物を除いたため合計値が異なる

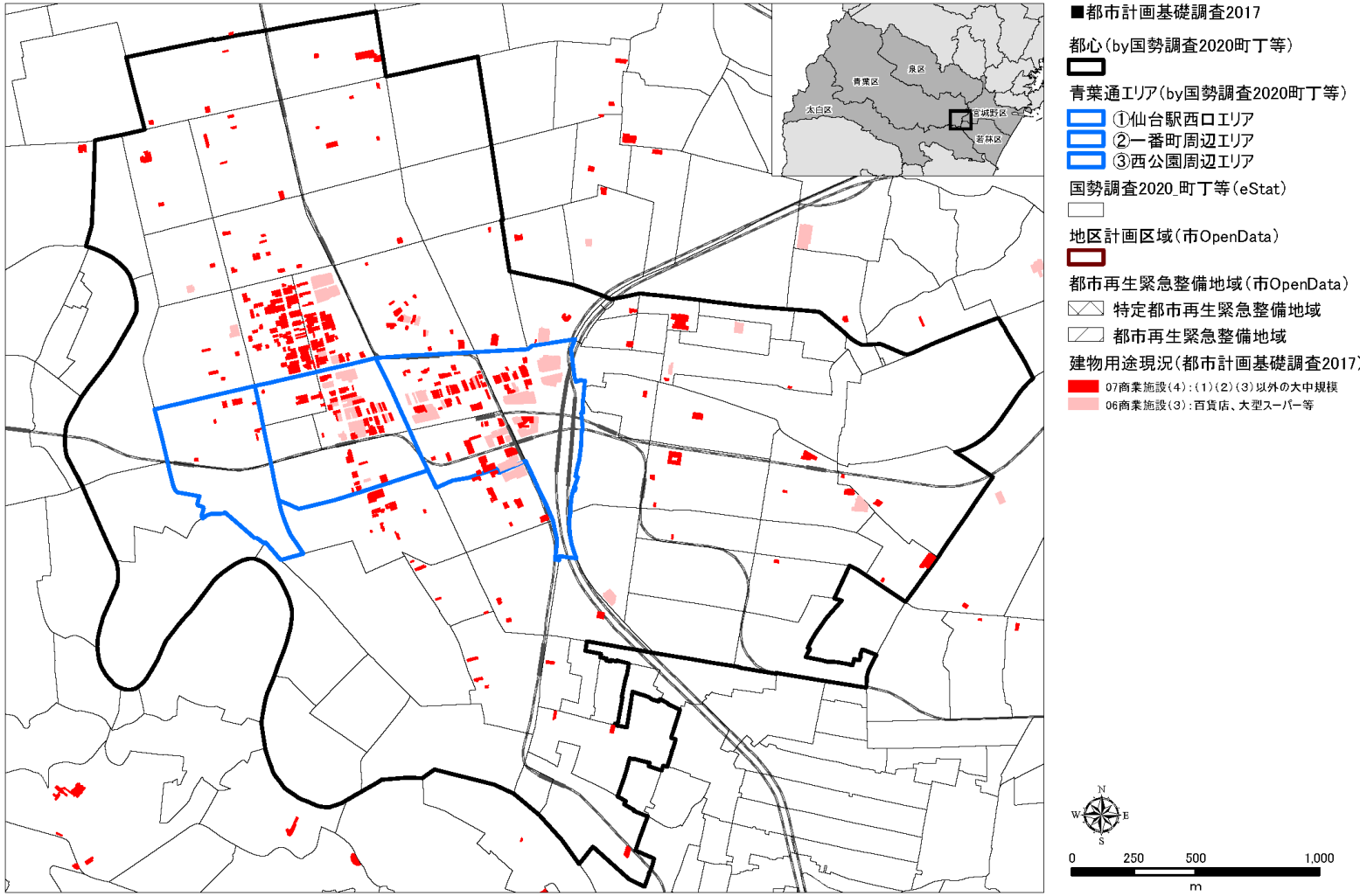
業務施設は、大規模は幹線道路沿いに多く、小規模は広範囲に分布

仙台駅西口は空白地

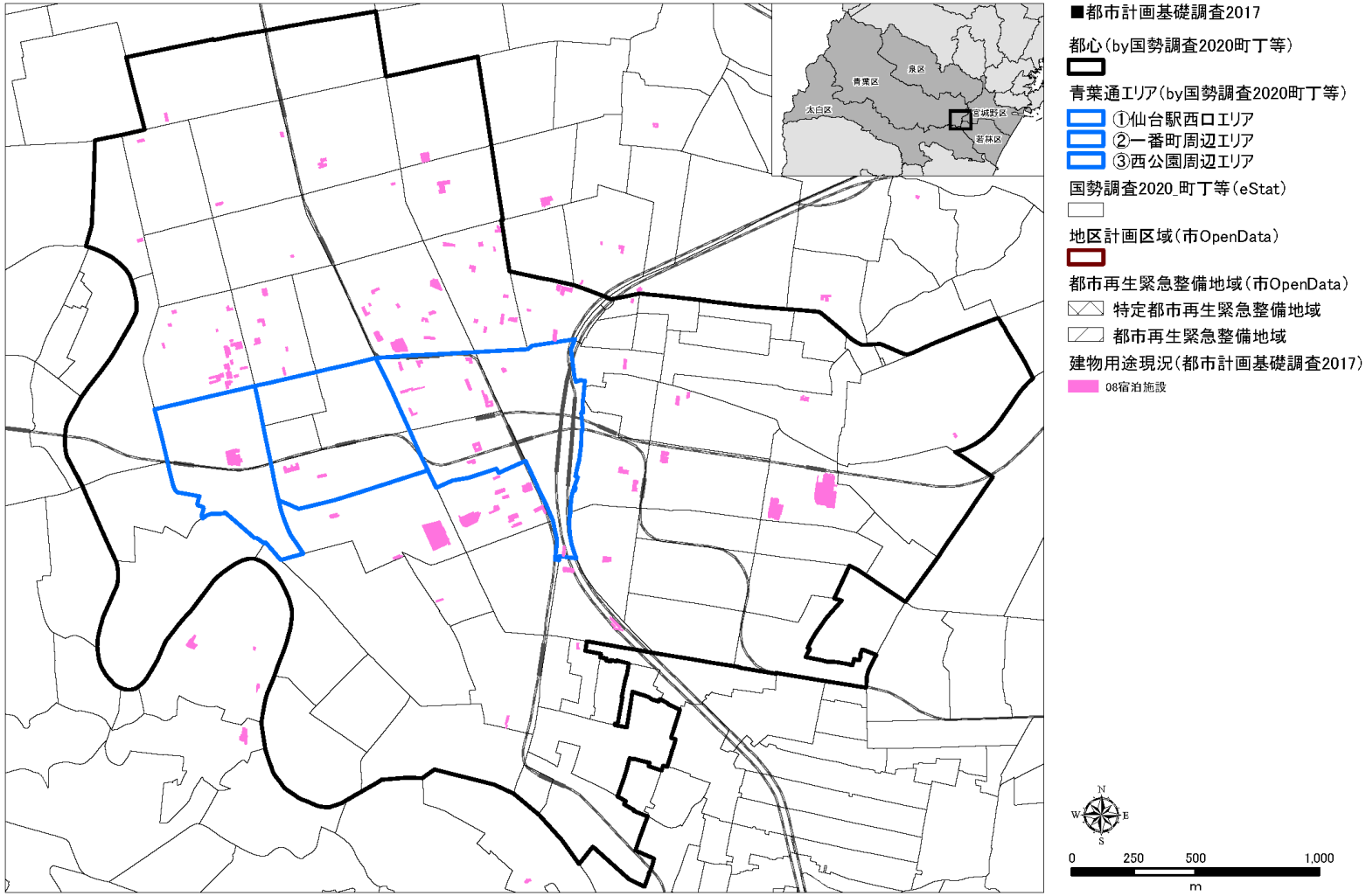


商業施設は、国分町とアーケード沿いに多い

中でも百貨店・大型スーパー等の集積が顕著

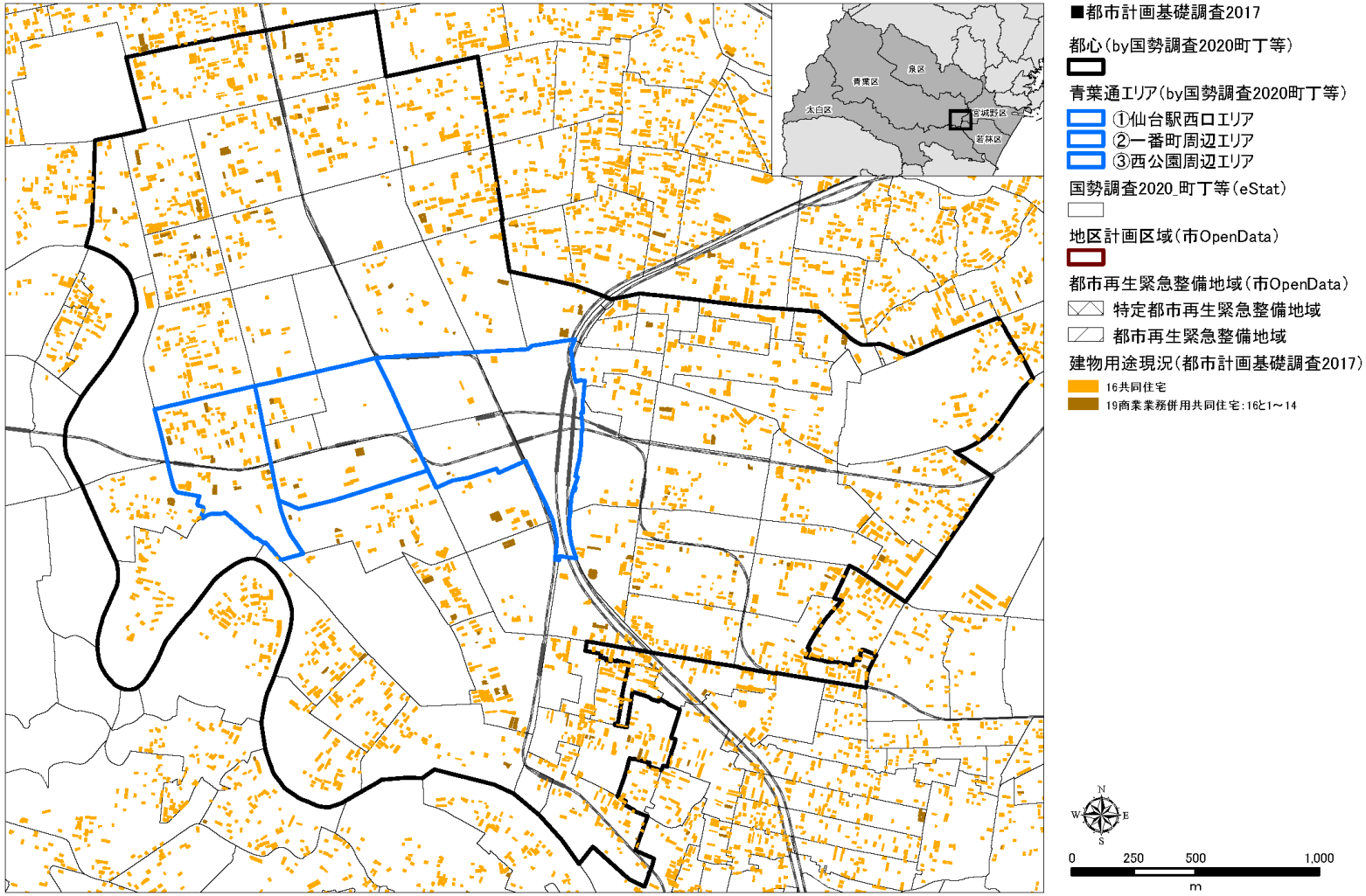


宿泊施設は、青葉通の南北に分散して立地



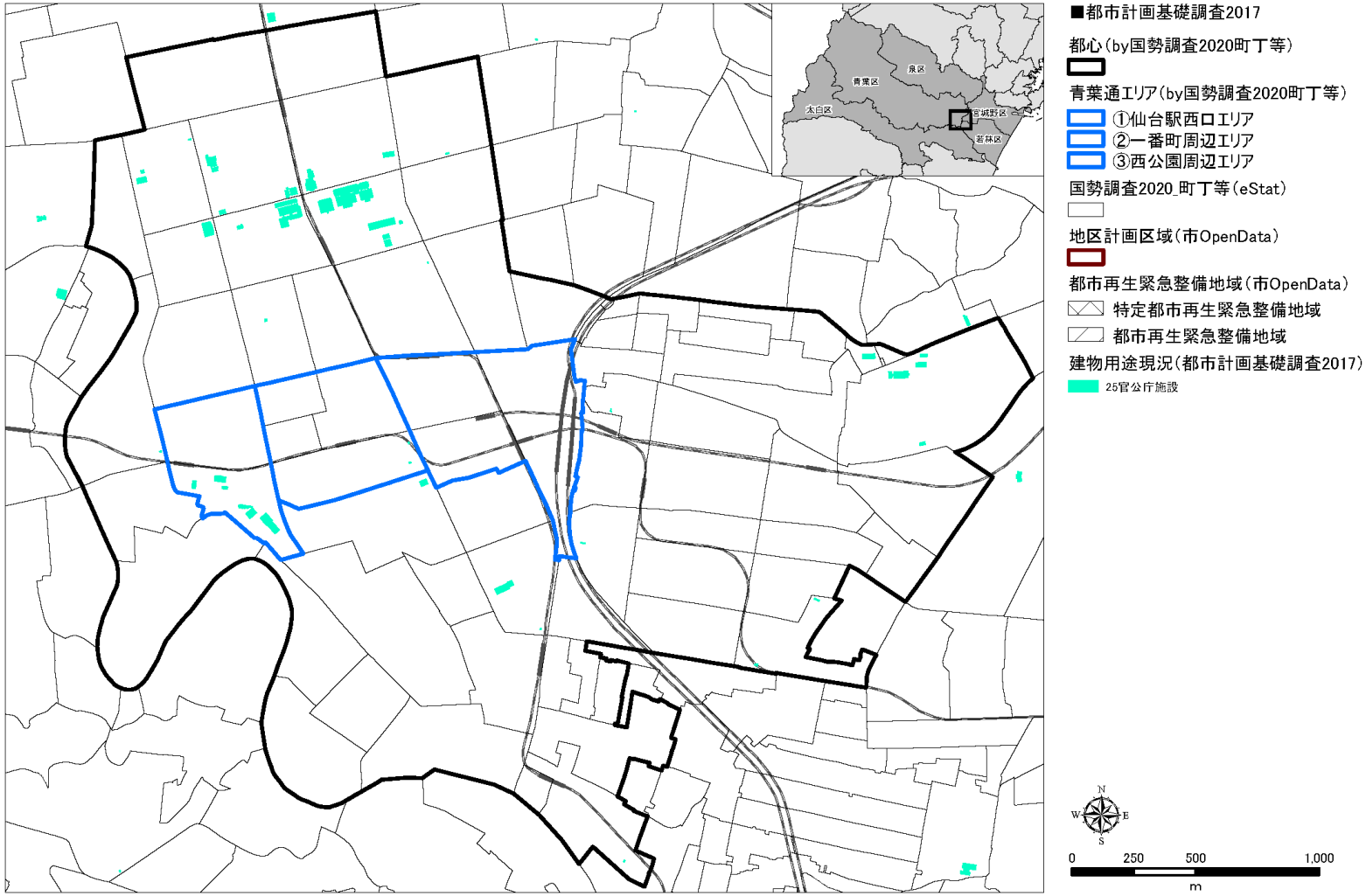
共同住宅は、西公園小エリアなど外周に広く分布

都心の中心部に共同住宅は少ない



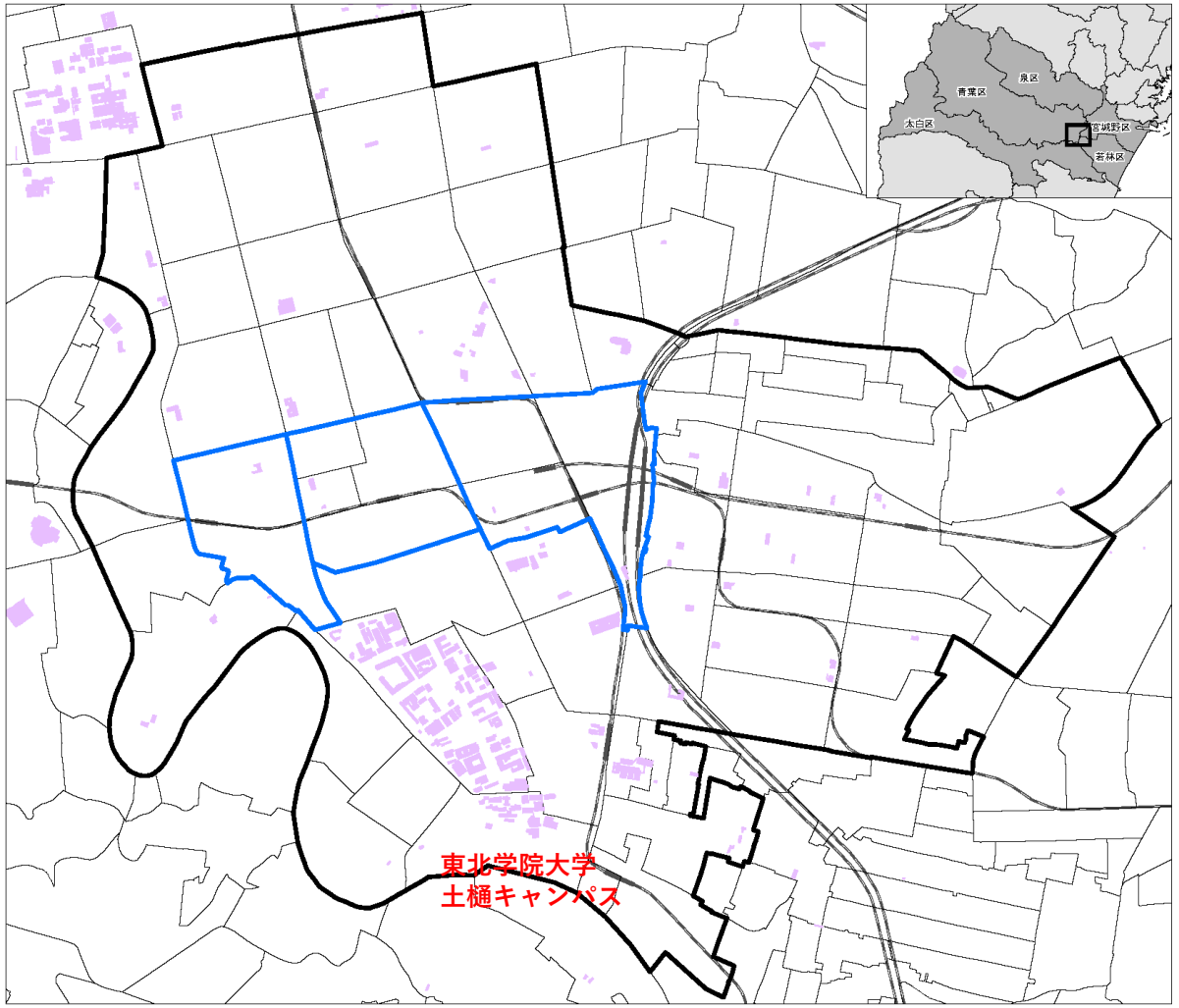
官公庁施設は市役所・県庁周辺に集積しており、

西公園小エリアに司法施設が立地



大型の文教厚生施設は、東北大学（片平・星稜）と国際センターに集積

他大学、専門学校、病院は散在



■都市計画基礎調査2017

都心（by国勢調査2020町丁等）

青葉通エリア（by国勢調査2020町丁等）

- ①仙台駅西口エリア
- ②一番町周辺エリア
- ③西公園周辺エリア

国勢調査2020_町丁等（eStat）

地区計画区域（市OpenData）

都市再生緊急整備地域（市OpenData）

- 特定都市再生緊急整備地域
- 都市再生緊急整備地域

建物用途現況（都市計画基礎調査2017）

- 26文教厚生施設（1）：大学・各種学校等、病院等

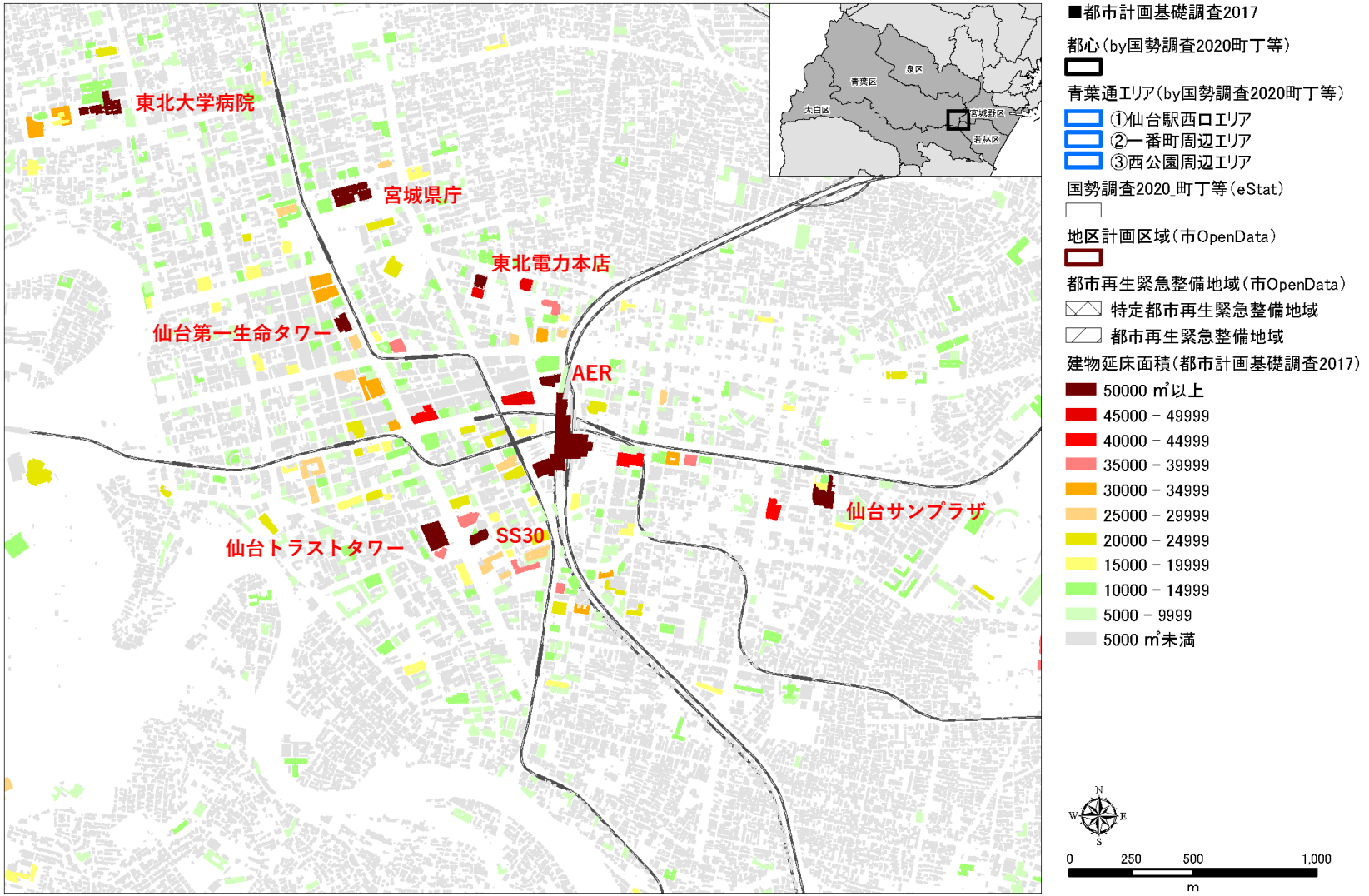
※東北学院大学土樋キャンパス
整備以前のデータ

N W E S

0 250 500 1,000
m

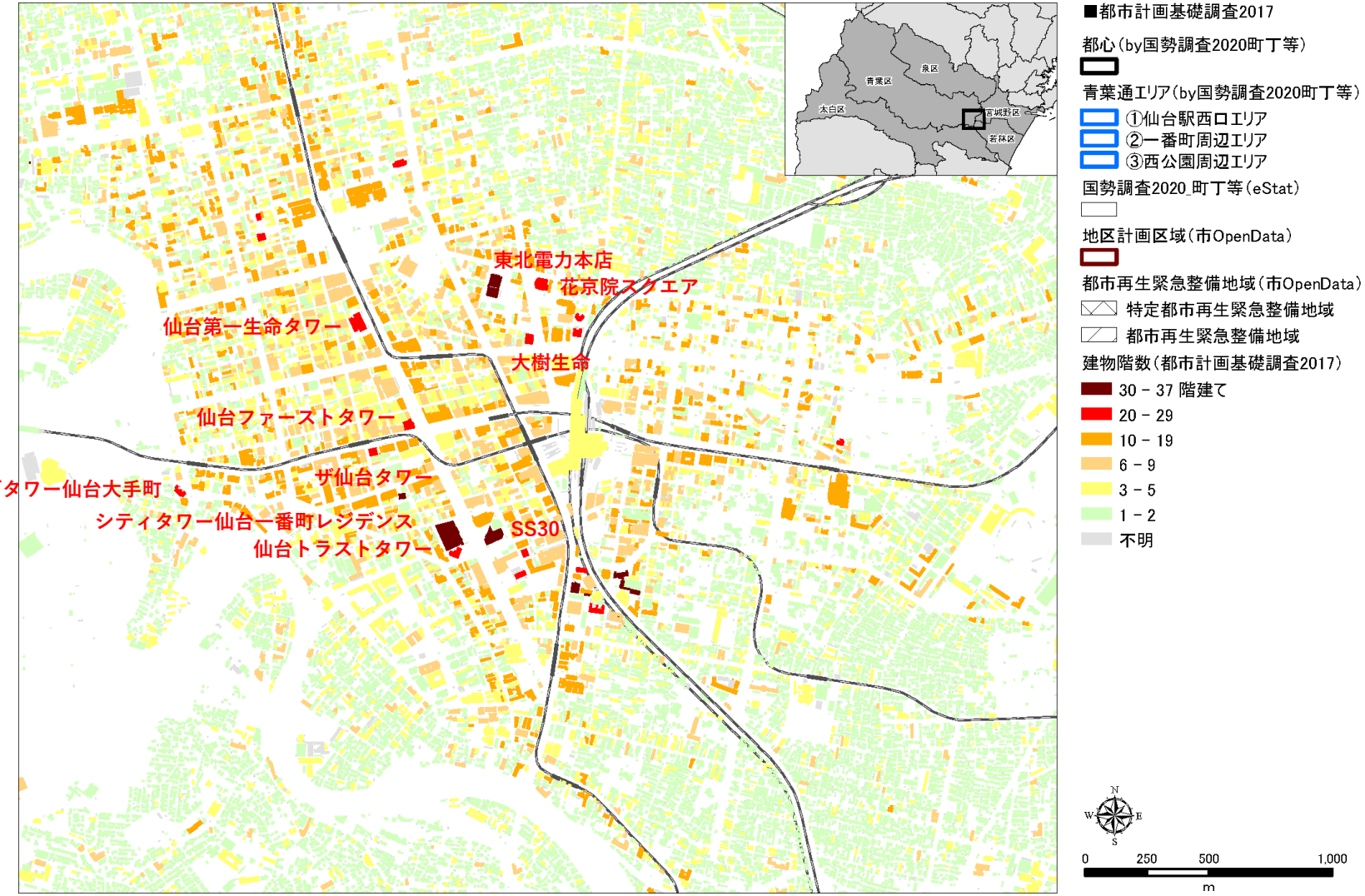
比較的大型の建物が多い

旧さくらの、読売仙台、NTT青葉通など



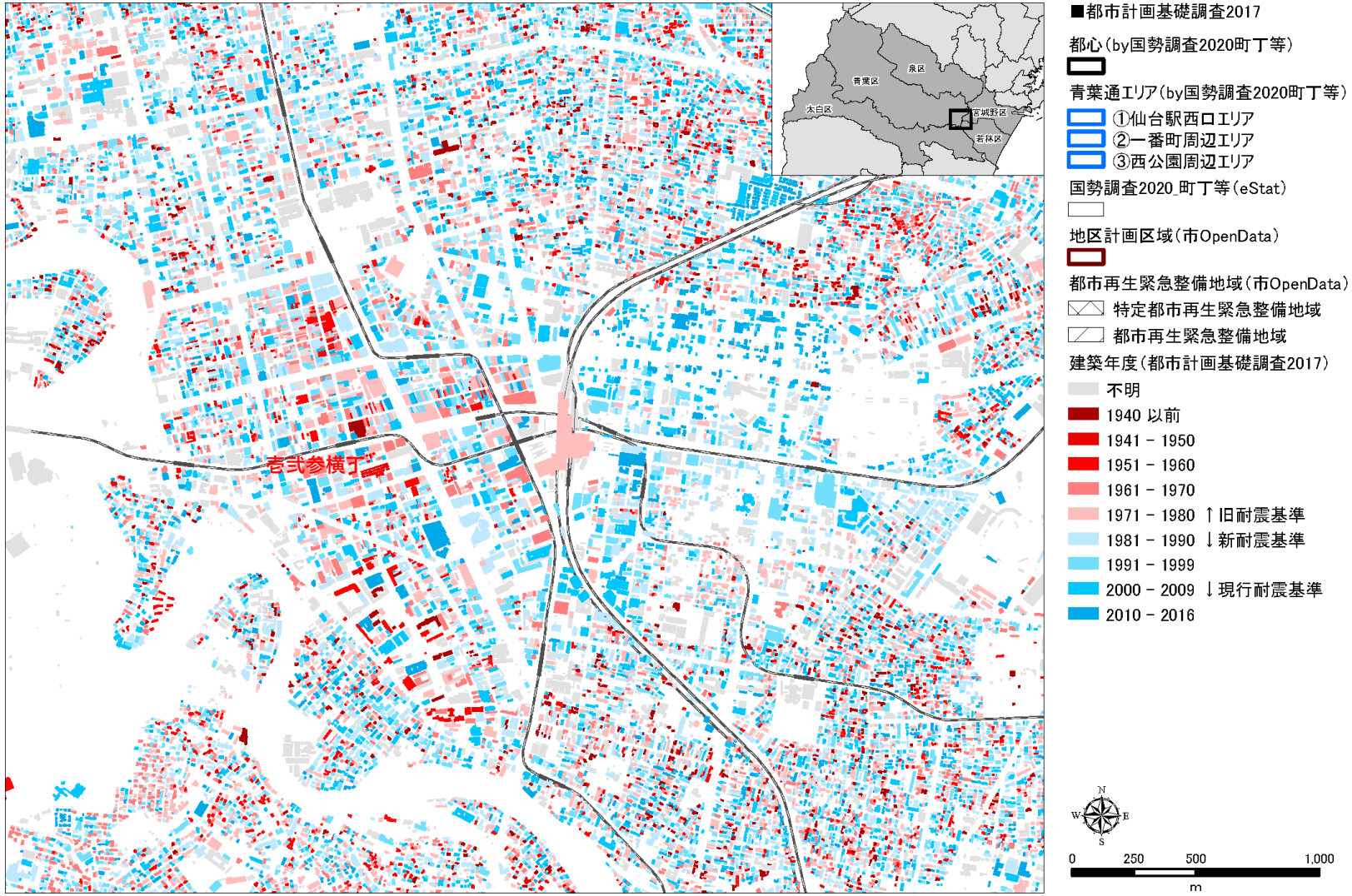
青葉通沿道の階数は比較的揃っている

不規則な超高層の新築が見られる



比較的古い建物が多い

耐震補強工事未了であれば安全性の懸念がある



歩行者が多いのは、大町通り～東一番丁通（アーケード）

国分町通あたりでは定禅寺通、広瀬通、青葉通の順に少なくなる

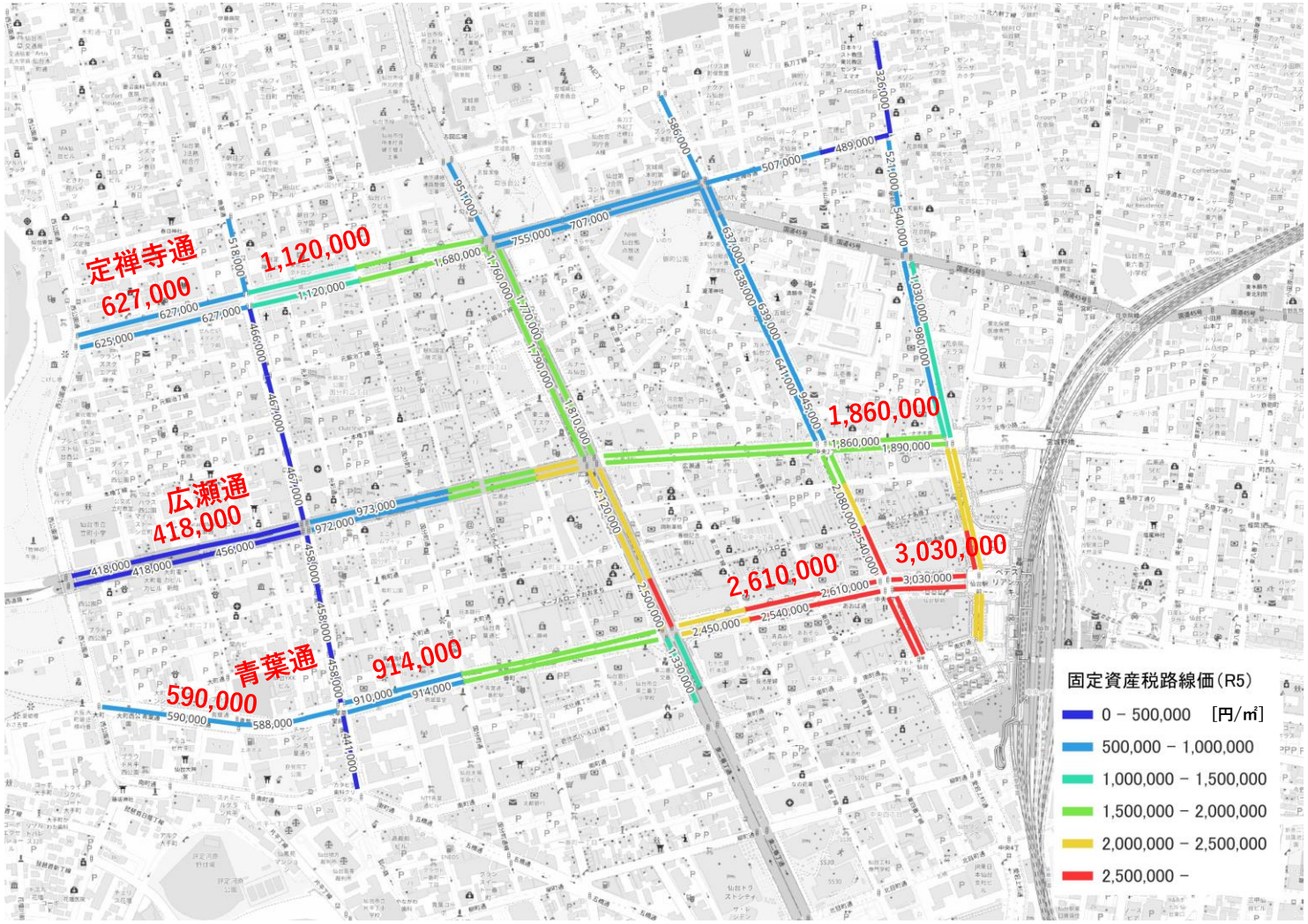


※数値は道路両側かつ両方向の合計値を示す

出所：仙台市 自転車歩行者量交通調査（令和3年）
平日昼間12時間（7時～19時）

地価は青葉通の仙台駅前が最も高い

西側は定禅寺通の方が青葉通より高くなる



出所：仙台市 固定資産税路線価公開図（令和5年）

空間

図

建物

注意の焦点となる対象

（前景、明確な形）

地

街区

図の背景となる領域

（背景、不明確な形



【出所】「コラージュ・シティ」Figure-ground plan of Wiesbaden (Collage City).

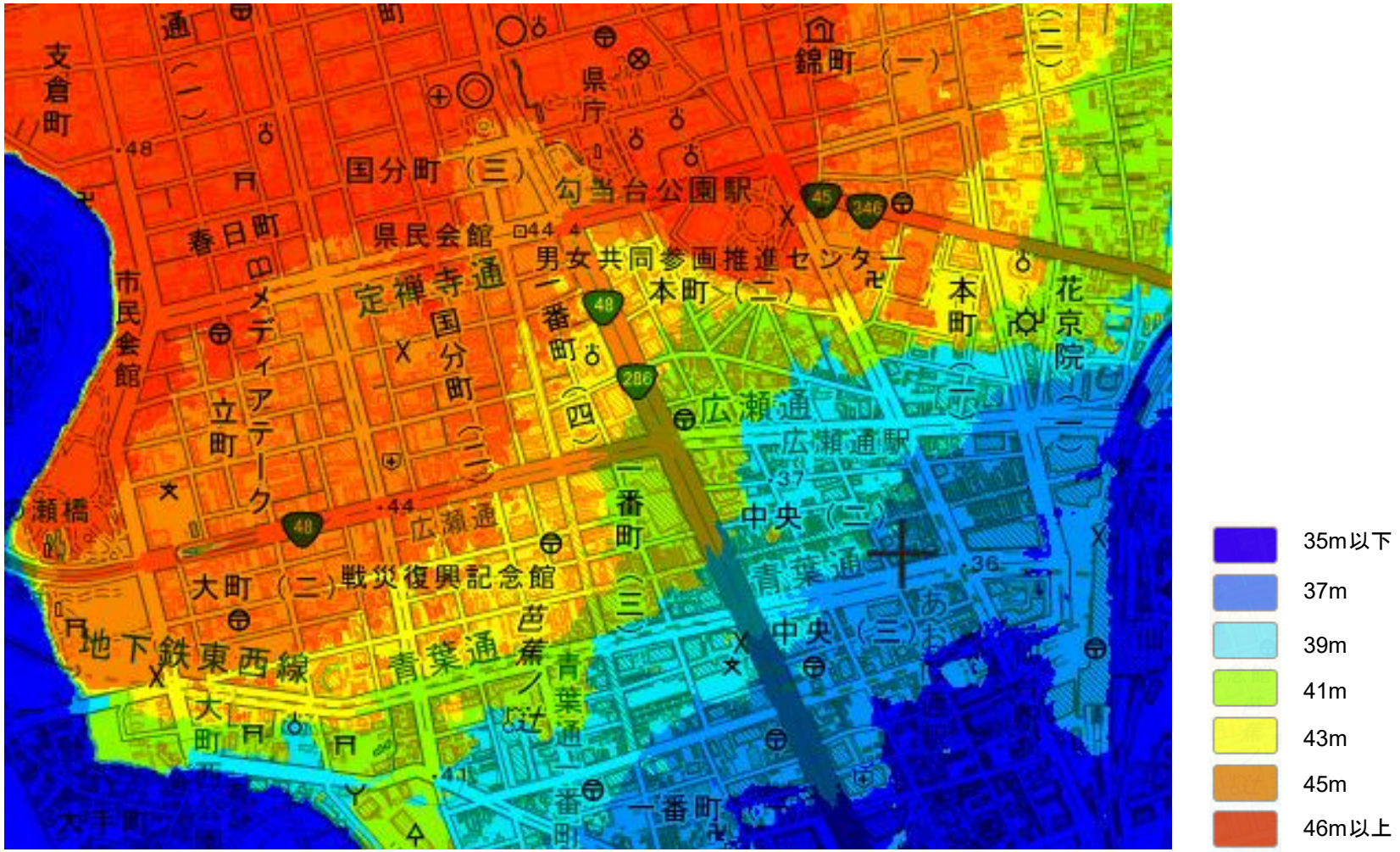
碁盤目の街路網

河岸段丘の平坦面上に作られた、仙台城下町の碁盤目が残る街路網



青葉通エリアの標高差

東西は6m（傾斜0.3%）だが、南北は4m（3.3%）と大きい



出所：地理院地図　色別標高図

用水路「四ツ谷用水」

傾斜した地形を生かして、伊達政宗の命で作られた



出所：仙台市ウェブサイト
「四ツ谷用水再発見事業」
https://www.city.sendai.jp/kankyokehatsu/kurashi/machi/kankyohozen/mizukankyo/hakken/index.html

青葉通の大きな並木が統一感をつくっている

沿道建物の意匠には、統一的なデザインは特段見られない



仙台駅西口エリア（社会実験時）



一番町周辺エリア

駅デッキから青葉通には導かれにくい

中央通りやLOFT側への通行が多く、青葉通には導かれにくい



出所：Google Streetview



分析期間：2019年10月
分析データ：「ジョルテ」ログデータ
分析方法：上記分析対象の移動行動に対して、各代表地点間での延べ移動人数を集計
分析対象人数：10,287人/1ヶ月
※移動人数が1日あたり13人（401人/1ヶ月）以上の経路のみを表示
※仙台駅方面から仙台中心部への流動のみを表示
※代表地点間を移動していても、仙台駅・仙台駅東口・仙台駅西口のいずれも訪れていない人は分析対象外



出所：青葉通仙台駅前未来vision資料編

「仙台駅西口エリア」から「一番町周辺エリア」にかけて、
1階は銀行窓口が多い



左右ともに青葉通 仙台駅西口エリア

中の活動が見える低層階のつくりは
一番町小エリアから見られはじめる

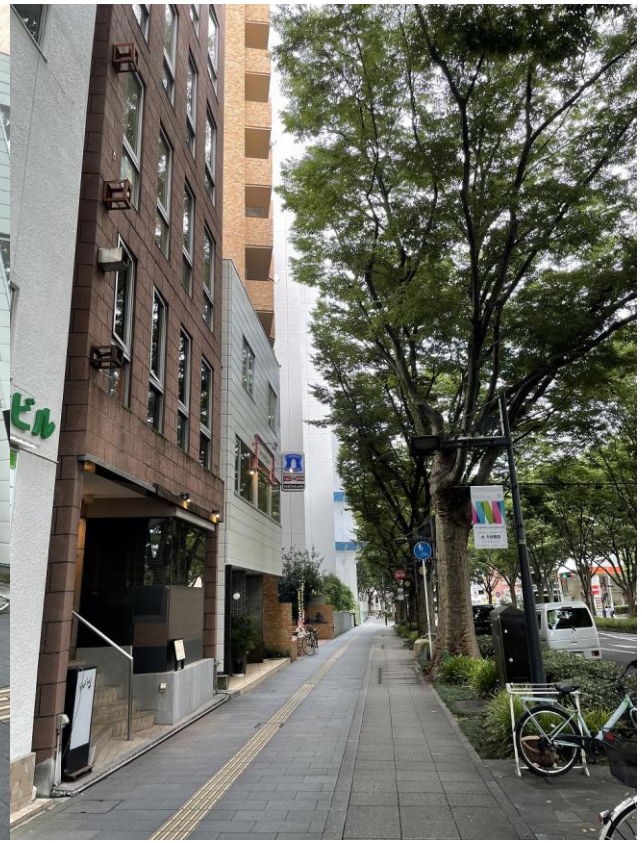


左右ともに青葉通 一番町周辺エリア

西公園小エリアは
低層に店舗が入った集合住宅が顕著







左右ともに青葉通 西公園周辺エリア

青葉通から1本北側のアーケードは人通りが多い

1本南側の通りも店舗と公開空地に挟まれ、将来歩いて楽しくなる可能性をもつ

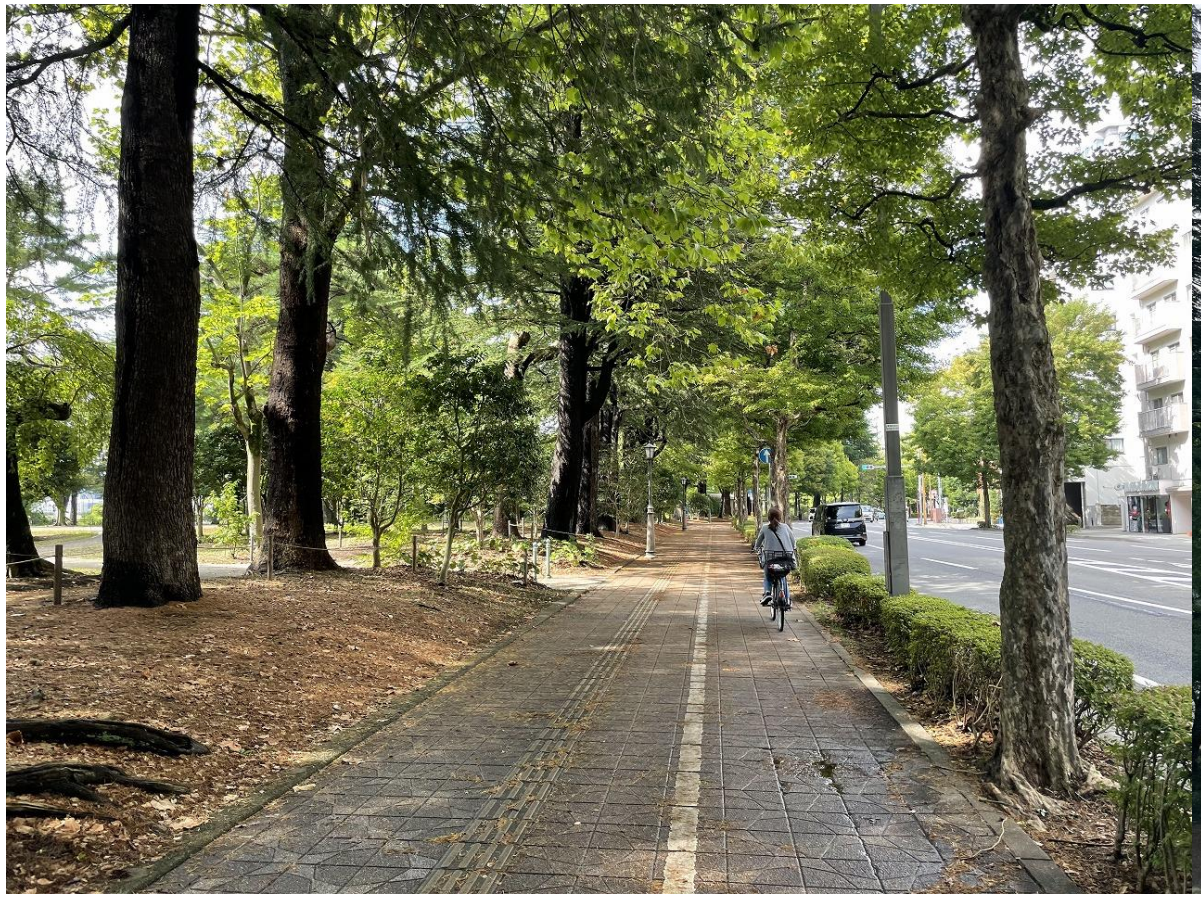


中央通り（クリスロード）



1本南側の通り。左は店舗、右は公開空地

都心に可能性のある
パブリックスペース、自然緑地が存在



西公園通



西公園展望広場

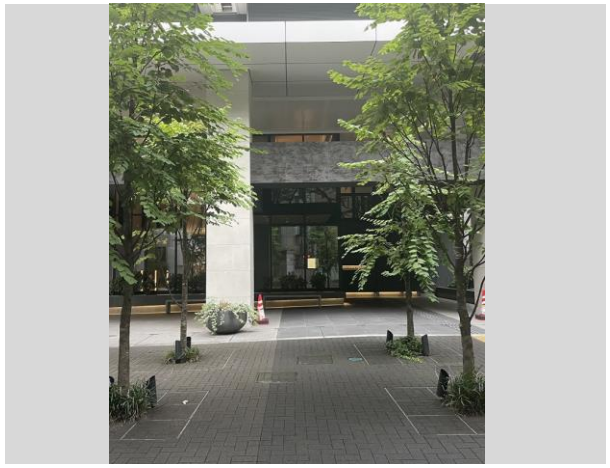
公園・緑地は少ない

広瀬川沿いの自然緑地が近接



広場・公開空地は小規模でも貴重な存在

公開空地の作り方には改良の余地あり



青葉通沿いマンション表側の公開空地



青葉通沿いビルの裏通り側の公開空地



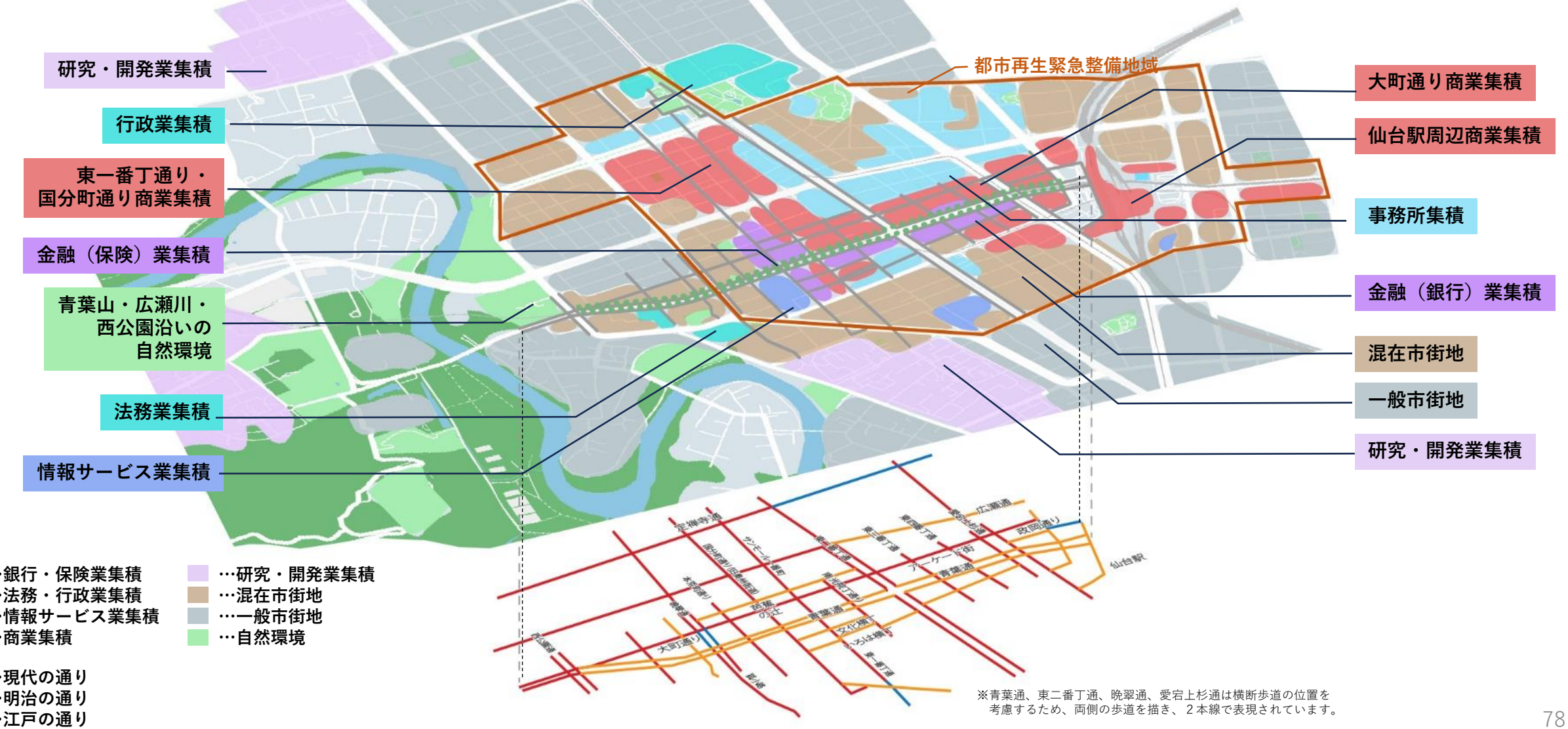


青葉通沿いビルの裏通り側の公開空地



南町通沿いの建物１F内側をくりぬいた広場

碁盤目状の街路網によるヒューマンスケールな街区（地）の上に
人の活動を支える建物（図）が並び
個性的な近隣小エリアが形成されている



機能的特徴

青葉通エリアには、中枢機能が集積

都市構造的特徴

きめ細かな碁盤目状態の都市空間の中で、都心機能を東西・南北に結び、人の回遊と交流を促す都市の基軸

整った空間基盤の上に個性的な近隣小エリアが形成されており、

多様な人々の活動がつながり、

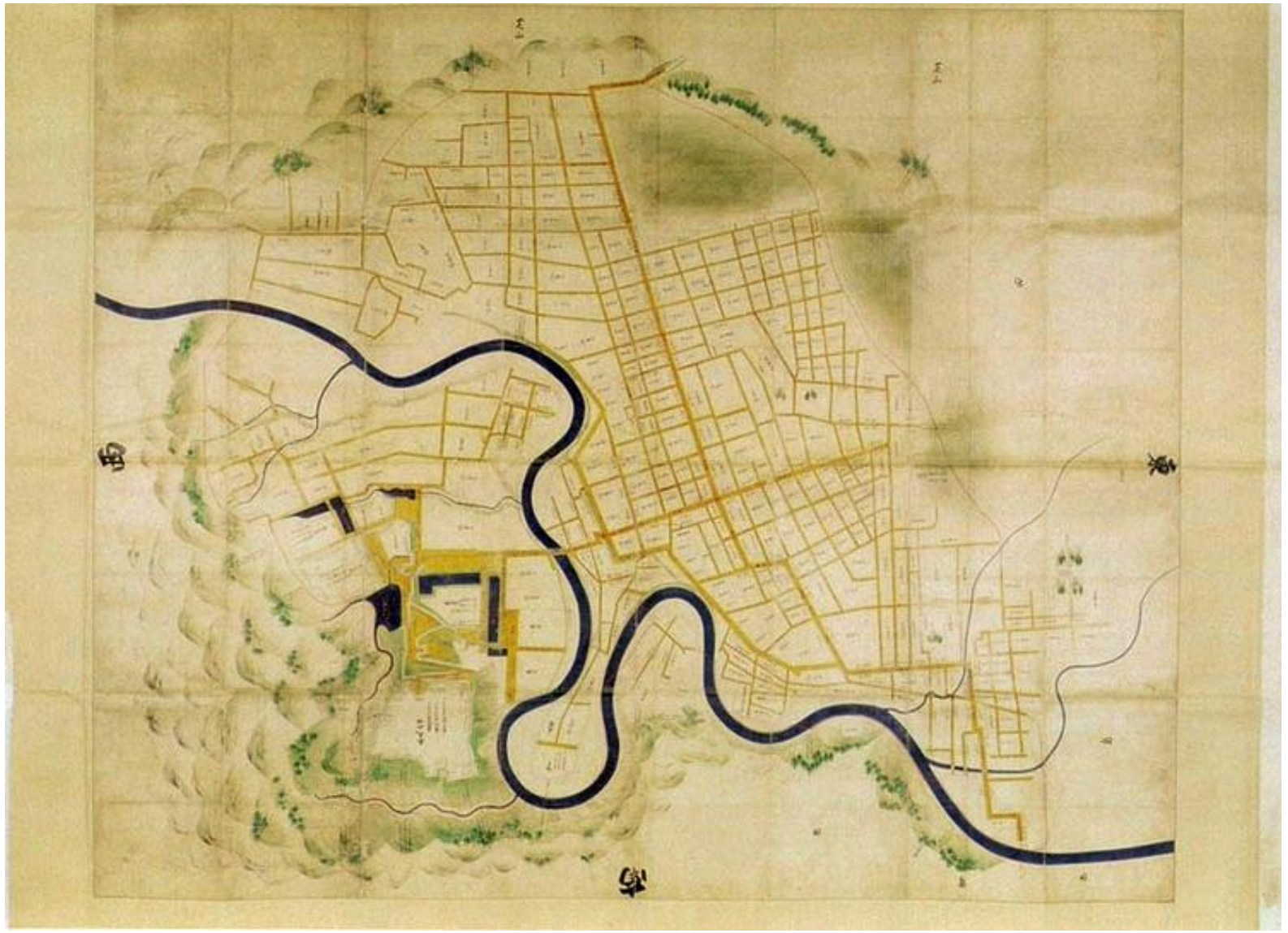
価値共創が起こるエリアとなっていくポテンシャルがある

❶現状 と 特徴

❷歴史

❸コンセプトのベースとなる考え方

幕府提出用仙台城下絵図



芭蕉の辻（錦絵）

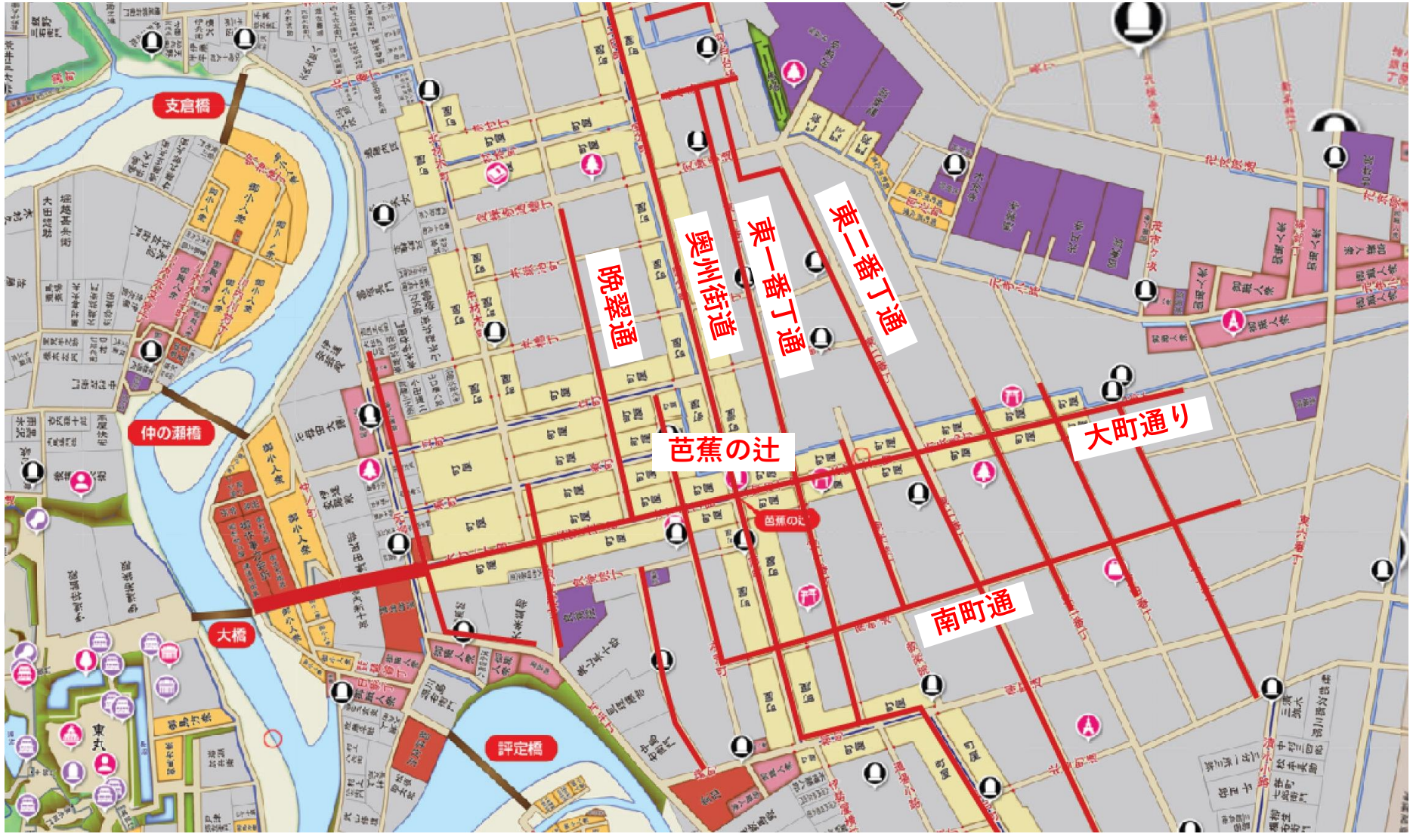


仙台城の大手門から東へのびる大町通りと城下を南北に貫く奥州街道が交差する地点は芭蕉の辻と呼ばれ、仙台城下の中心だった。この周辺には大きな商家が軒をつらね、城下一のにぎわいを見せていた。辻の四つ角には竜や兎や獅子の飾り瓦をのせた豪商の店が堂々とした姿を誇り、仙台名所として知られていた。「芭蕉の辻」という名前の由来には諸説あるが、高札場があったことから札の辻とも呼ばれた。この錦絵は、明治８・９年ごろの風景を描いたもの。熊耳耕年<くまがみこうねん>筆。

出所：文化庁　文化遺産オンライン

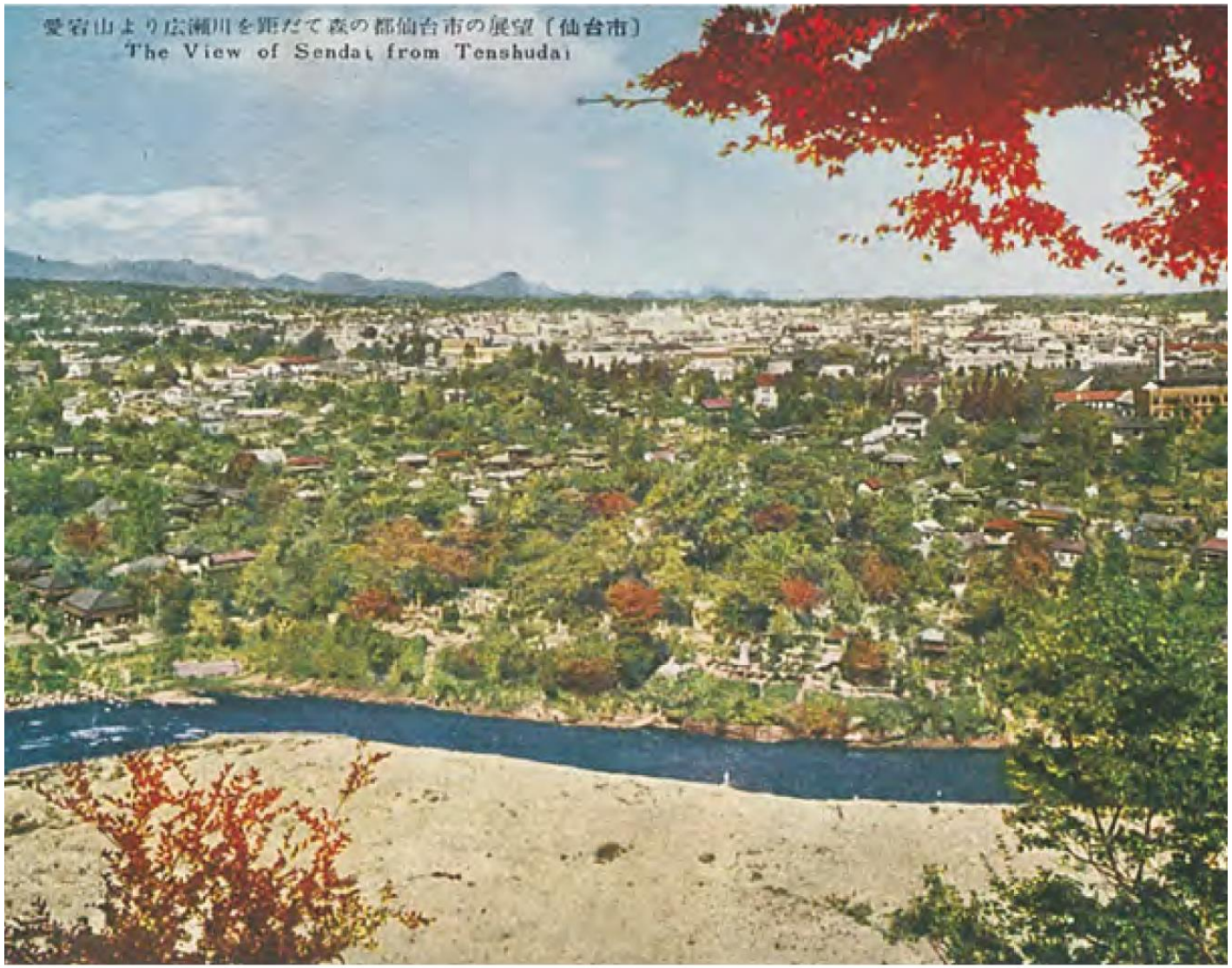
江戸時代、町人地で城下町の起点が「芭蕉の辻」に

明治に武家地が民間になっても、金融・商社が集積して発展



出所：「仙台城下再生古地図」WEB

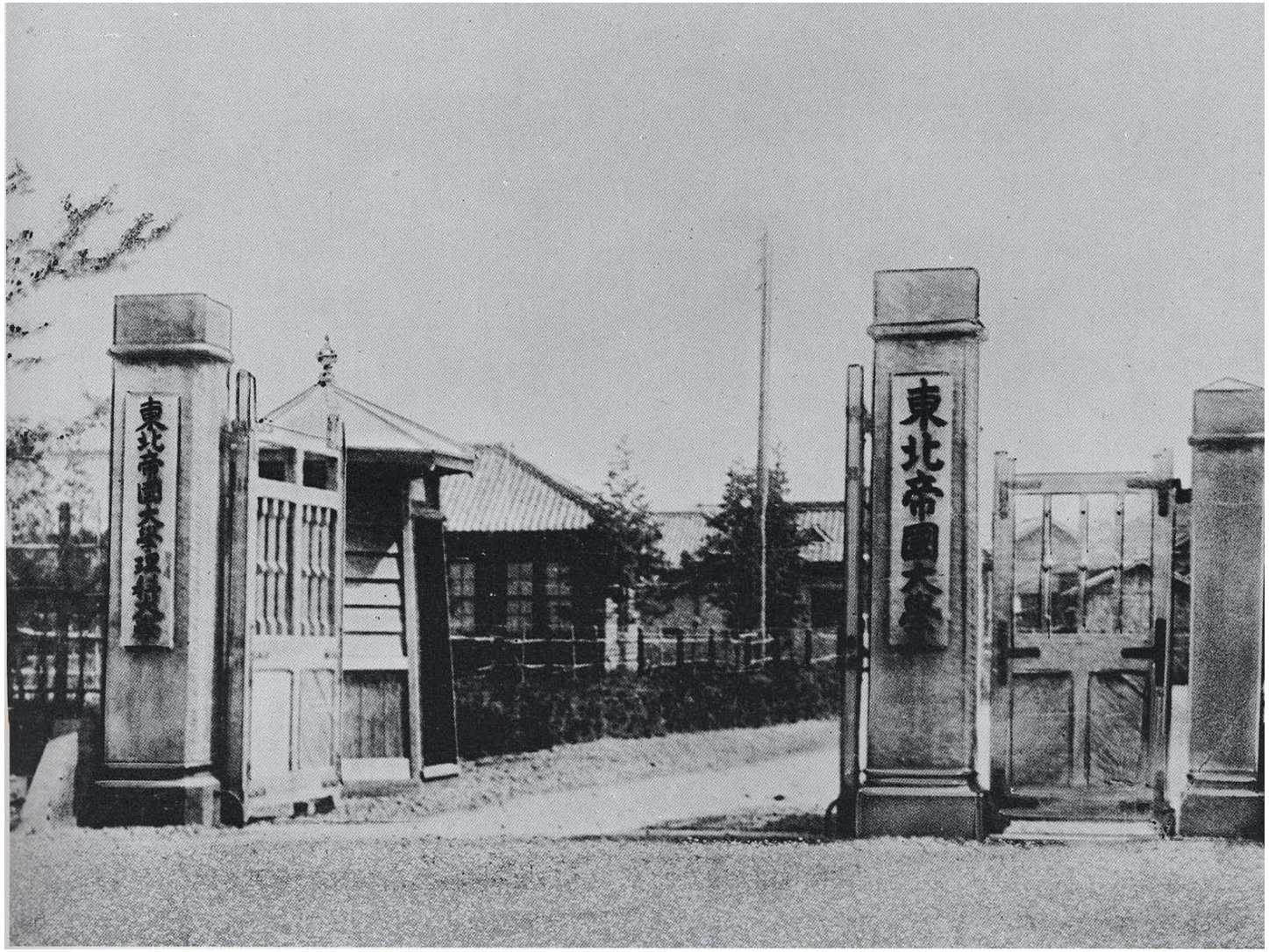
明治時代の観光案内書に記載される、「杜の都」仙台



緑ゆたかな仙台（戦前の絵はがきより）

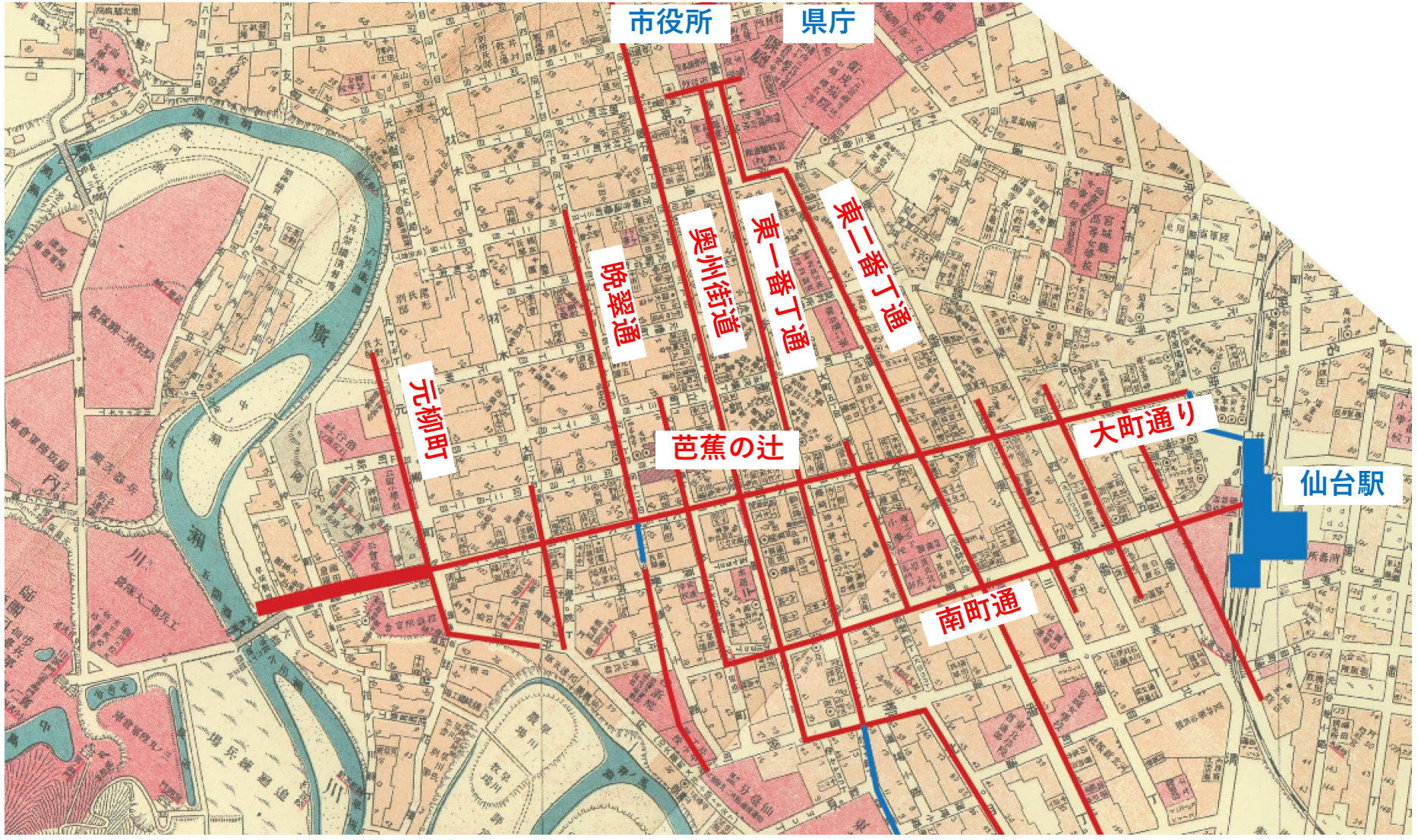
出所：仙台市緑の基本計画（仙台市戦災復興記念館）

東北帝国大学が1907年（明治40年）に片平に開学



https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%9D%B1%E5%8C%97%E5%A4%A7%E5%AD%A6#/media/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Tohoku_Imperial_University,1913.jpg

明治時代に仙台駅、県庁・市役所が立地



出所：仙臺市全図（1911, 明治44年）

戦災復興により、仙台駅から青葉山につながる青葉通が誕生

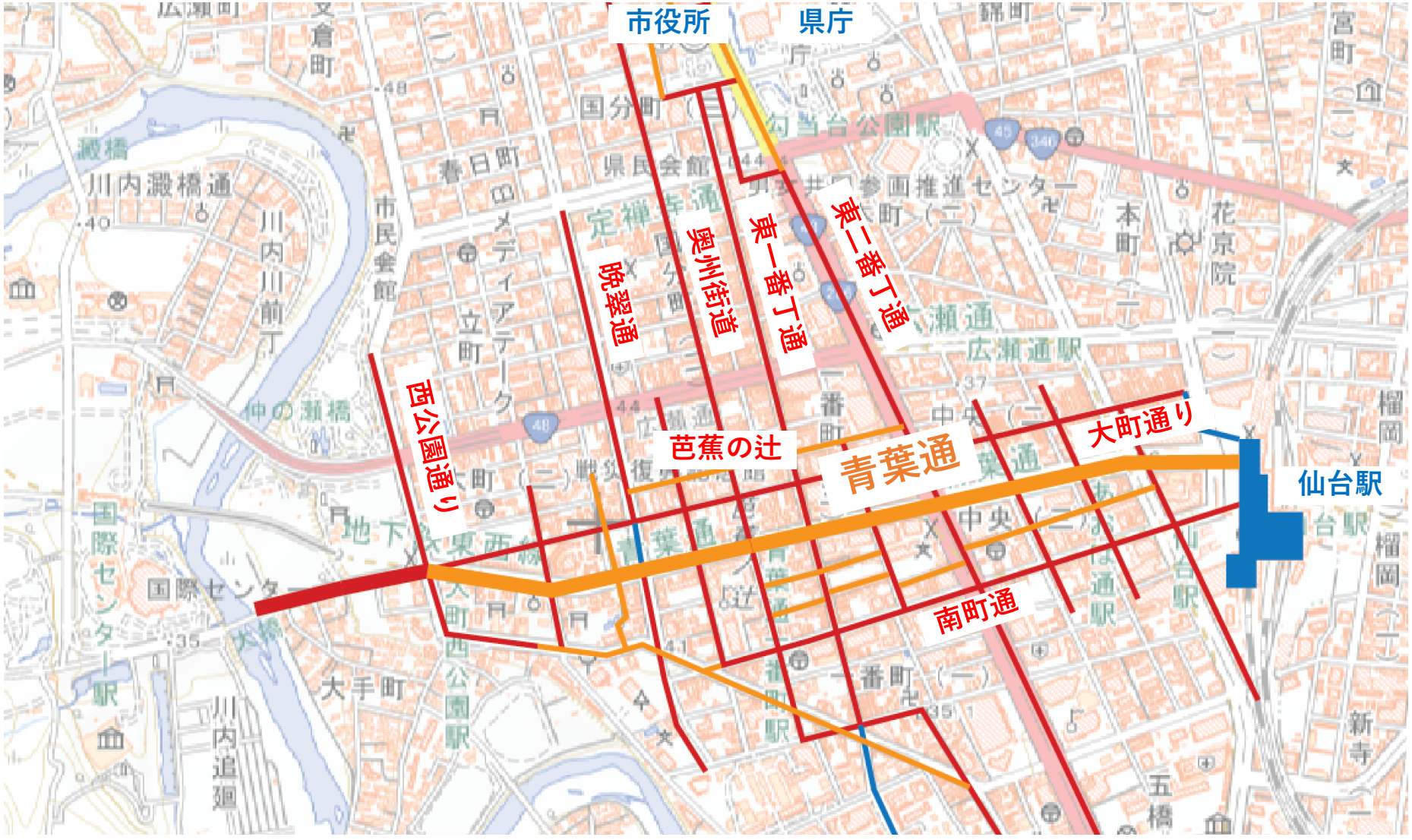


駅舎上空から見た
青葉通

https://www.hm-sendai.jp/sisetu/sensai/4-1.html

戦災復興により、仙台駅から青葉山につながる青葉通が誕生

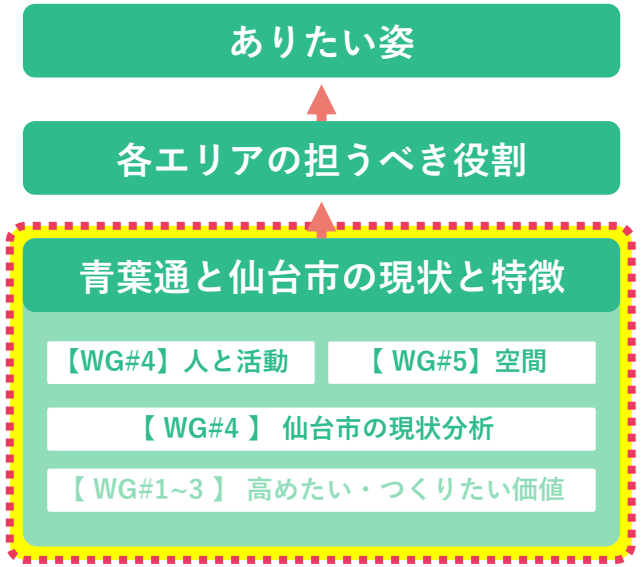
明治よりも合理的な大きさの街区とするための、細かな街路が建設



❶現状 と 特徴

❷歴史

❸コンセプトのベースとなる考え方

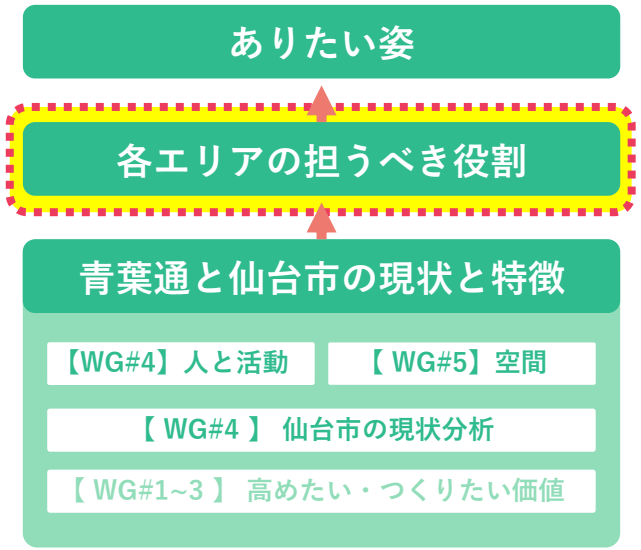


常に時代の先端を担うとともに、「杜の都」を象徴する役割を果たす。

都心全体のさまざまな活動を結び、仙台と世界を繋ぐ。

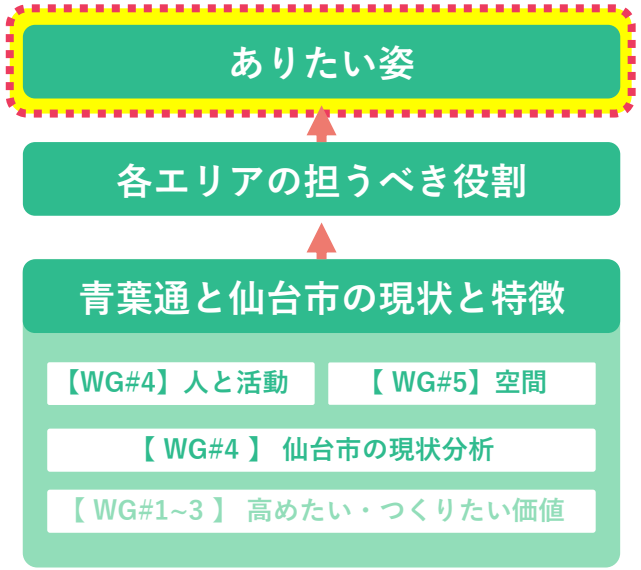
碁盤目状の街路網の上で、個性的な近隣（エリア）を相互に繋ぐ。

- 金融や交通など東北経済の中枢機能を担う仙台駅前エリア
- 住むと働くが混在する一番町周辺エリア
- 青葉山に近い西公園エリア



ひとをつなぐ背骨として、「新しい価値」を生み出す場となることを目指す。

- **仙台駅と東北大学のポテンシャルをまちへ繋ぐ**
  (→世界との交流を促進)
- **金融や学術・研究などをいかした共創を生み出す場となる**
- **仙台の顔となる公共空間の設え、歩きたくなる街路網を強化**
  (→ひとの交流を促進)



「杜の都」に象徴される
「人の手で大切なものを未来に繋ぐ精神」
を持って、
青葉通を都心部の背骨としてまちをつなぎ、
仙台・東北を牽引する
「新しい価値」を生み出すエリアを目指す

各小エリアで生み出したい「新しい価値」

西公園	一番町	駅前
ライフスタイルの価値	**交流・共創の価値**	**ゲートウェイの価値**
自然にも都市機能にも近く、職住近接により、質の高い暮らしができる	多様な人びとが交流・共創し、新たな活動やスモールビジネスのイノベーションが起こる	「東北の顔」そしてビジネス・観光の玄関口として、あらゆる来訪者を歓迎し送り出す